

TASCAM

D01306101F

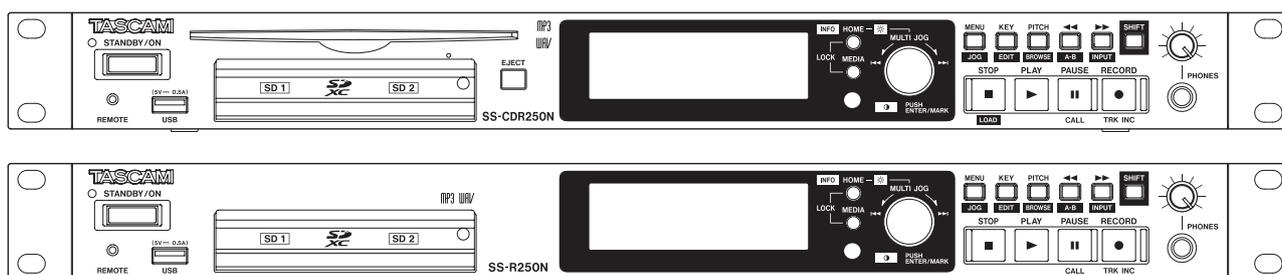
SS-CDR250N

SOLID STATE / CD RECORDER

SS-R250N

SOLID STATE RECORDER

取扱説明書



安全にお使いいただくために

	<p>警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年1回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近付けて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>AC100-240V以外の電圧で使用しない 表示された電源電圧（AC100-240V、50/60Hz）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20cm以上）離して設置する ラックなどに入れるときは、機器の天面から1U以上、背面から10cm以上の隙間を空ける 隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。</p>

	注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
	指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。 付属の電源コードは、定格電圧AC125Vです。125V以上では、使用できません。</p>
	禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
	禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。
	注意	5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

電池の取り扱いについて

本機に付属するワイヤレスリモコンは、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

 警告 コイン形リチウム電池に関する注意	
 強制	コイン形リチウム電池は、小さなお子様が悪く電池を飲み込むと大変危険です。電池およびリモコンは、幼児の手の届かない場所に置いてください。 万一、お子様が電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
 警告 電池に関する警告	
 強制	電池を入れるときは、極性表示（プラスとマイナスの向き）に注意し、電池ケースに表示されている通りに正しく入れる 間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が漏れて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。
 禁止	指定以外の電池は使用しない 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない 破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。
	炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなる所で保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。
 注意 電池に関する注意	
 禁止	金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
 分解禁止	分解しない 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。
 注意	保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属の物と接触しないようにテープなどで端子を絶縁してください。
	使い終わった電池は、電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法にしたがって捨ててください。

安全にお使いいただくために	2	第4章 再生	30
電池の取り扱いについて	4	再生可能なファイル	30
第1章 はじめに	8	トラックとファイル	30
SS-CDR250N / SS-R250Nの違い	8	再生対象	30
本機の概要	8	再生対象を設定する	30
本製品の構成	8	カレントフォルダー、カレントプレイリストを選ぶ	31
本書の表記	8	再生モードを設定する	31
商標および著作権に関して	9	再生の基本操作	31
設置上の注意	9	再生する	31
電源について	9	再生するトラックを選択する	32
結露について	9	前後のトラックにスキップする	32
製品のお手入れ	9	トラックを直接指定する	32
SDカード / USBメモリーについて	10	早戻し / 早送りサーチ	32
取り扱い上の注意	10	ジョグ再生	32
SDカードのライトプロテクトについて	10	プログラム再生	33
フォーマットについて	10	プログラムを設定する	33
CD (コンパクトディスク) について	10	ピッチコントロール機能を使う	33
取り扱い上の注意	10	キーコントロール機能を使う	34
CD-RディスクとCD-RWディスク	11	リピート再生機能を使う	34
スロットインタイプのディスクの挿入	11	通常のリピート再生の設定	34
アフターサービス	11	A-Bリピート再生の設定	34
第2章 各部の名称と働き	12	オートキュー機能を使う	35
フロントパネル	12	オートレディ機能を使う	35
リアパネル	14	インクリメンタルプレー機能を使う	35
PARALLEL端子について	15	モノラルで再生する	36
ワイヤレスリモコン (TASCAM RC-10)	16	ダッキング機能を使う	36
ホーム画面	16	EOM機能を使う	37
録音画面	18	EOMタリー出力のトリガーを設定する	37
メニューの構成	19	実際の使用方法	37
メニュー画面の基本操作	21	リジューム再生機能を使う	37
メニュー操作の手順	21	タイムスキップ機能を使う	38
第3章 準備	22	再生を開始するタイミングを設定する	38
接続する	22	出力する音声のサンプリングレートを設定する	38
リモコンを準備する	23	コール機能を使う	39
コイン形電池の入れ方	23	コール機能の設定	39
電池の交換時期	23	リンク再生機能を使う	39
電池についての注意	23	リンク再生の接続	39
ワイヤレスリモコンを使う	23	リンク再生の設定	39
別売のDanteインターフェースカードを取り付ける	24	フラッシュスタート機能を使う	40
電源のオン / オフ	24	第5章 フォルダークラウドファイルの操作 (BROWSE画面)	41
内蔵時計の日時を設定する	25	BROWSE画面を開く	41
ディスプレイを調節する	25	BROWSE画面内のナビゲーション	42
ディスプレイとインジケータの輝度調節	25	BROWSE画面内のアイコン表示	42
ディスプレイのコントラスト調節	25	フォルダークラウドの操作	43
SDカードを挿入する / 取り出す	26	ファイルの操作	44
SDカードを挿入する	26	フォルダークラウド名 / ファイル名を編集する	45
SDカードを取り出す	26	フォルダークラウド / ファイルを削除する	45
セキュリティービスについて	26	フォルダークラウドやファイルの削除を取り消す (UNDO)	46
SDカードのプロテクトスイッチについて	27	ファイルをプレイリストに登録する	46
ディスクを挿入する / 取り出す	27	新しいフォルダークラウドを作成する	47
(SS-CDR250Nのみ)	27	フォルダークラウド / ファイルをコピーする	47
ディスクを挿入する	27	フォルダークラウド / ファイルを移動する	48
ディスクを取り出す	27	第6章 オーディオCDのBROWSE画面の操作	
ディスクの強制排出	27	(SS-CDR250Nのみ)	49
USBメモリーを挿入する / 取り出す	27	オーディオCDのBROWSE画面を開く	49
メディアを選択する	28	再生するトラックを選ぶ	49
SDカード / USBメモリーをえるようにする	28	CD-TEXTを編集する (CD-R / CD-RWディスクのみ)	49
ロック機能の設定	29		
インフォメーション画面の表示	29		

目次

第7章 プレイリストの編集 (USBメモリー/SDカードのみ) ..50	第10章 CD機能 (SS-CDR250Nのみ)73
プレイリストの編集の概要.....50	CD-R / CD-RWディスクのファイナライズ.....73
プレイリスト画面を開く.....50	ファイナライズする.....73
BROWSE画面からプレイリスト画面を開く.....50	CD-RWディスクをアンファイナライズする.....73
メニューページからカレントプレイリスト画面を開く.....50	CD-RWディスクを消去する.....74
プレイリストに登録する.....50	トラックを消去する.....74
プレイリストメニューの操作.....51	ディスクをリフレッシュ (全面消去) する.....74
カレントプレイリストを設定する.....51	USBメモリー/SDカードのファイルをブランクCDに
プレイリスト名を編集する.....52	コピー/変換コピーする.....75
カレントプレイリストを別名で保存する.....52	オーディオCDを作成する.....75
プレイリストを削除する.....52	データCDを作成する.....76
新しいプレイリストを作成する.....53	CDのファイルをUSBメモリー/SDカードに
プレイリストエントリーメニューの操作.....53	コピー/変換コピーする.....78
プレイリストにファイルを登録する.....54	オーディオCDのトラックを変換コピーする.....78
プレイリストのファイルの登録を解除する.....54	データCDのファイルをコピーする.....79
RC-SS150 MODEのプレイリスト登録画面.....55	
第8章 録音56	第11章 タイマーイベント機能
不慮の電源遮断について.....56	(USBメモリー/SDカードのみ).....81
入力ソースを選択する.....56	タイマーイベント機能をオン/オフする.....81
入力ソースの表示.....57	タイマーイベントリスト画面を表示する.....81
L / Rチャンネルの入力を個別に設定する.....57	タイマーイベントリストメニューの操作.....82
マイク/ライン入力の感度を設定する.....58	タイマーイベントを編集する.....82
入力信号のレベルを調節する.....58	イベントの種類を設定する.....83
ファンタム電源を設定する.....59	再生対象ファイルを選択する.....83
マイク入力時のオートゲインコントロール機能を設定する.....59	再生対象ファイルを指定する.....83
ダイナミクス機能を設定する.....60	録音時の入力を選択する.....84
ローカットフィルターを設定する.....60	FTPサーバーのダウンロード対象となる
録音するファイル形式を設定する.....61	フォルダー/ファイルを設定する.....84
録音するフォーマットの設定.....61	パス名を入力してダウンロード対象となる
バックアップ録音相手メディア/リレー録音先メディアの	ファイル/フォルダーを選択する.....84
設定.....62	タイマーイベントの実施スケジュールを設定する.....84
WAVファイルの設定.....62	タイマーイベントを実施する曜日を設定する.....85
MP3ファイルのビットレートの設定.....62	タイマーイベントを実施する日付を設定する.....85
録音するファイルタイプの設定.....62	タイマーイベントを実施する時刻を設定する.....85
入力信号をモニターする.....63	再生タイマーイベントの指定時間の動作を設定する.....85
録音の基本操作.....63	繰り返し実施するイベントの実行時間を設定する.....85
ファイル名の形式を設定する.....63	イベントを繰り返す回数を設定する.....85
文字列の編集方法.....64	新しいタイマーイベントを作成する.....86
ディザーを掛けて録音する.....64	タイマーイベントを削除する.....86
サンプリングレートコンバーターを使う.....64	登録した全てのタイマーイベントを削除する.....86
ポーズモードを設定する.....65	
録音待機せずに録音を開始する (ダイレクト録音機能).....65	第12章 マーク機能とロケート機能.....87
録音開始の少し前から録音する (プリ録音機能).....65	マーク機能 (USBメモリー/SDカードのみ).....87
シンク録音機能を使う.....65	マークポイントを登録する.....87
シンク録音の設定.....65	マークポイントの操作.....87
シンク録音の動作.....66	マークポイントに移動する.....88
録音中にトラック番号を更新する.....67	マークポイントの名前を編集する.....88
トラック番号を手動で更新する.....67	マークポイントを削除する.....88
トラック番号を自動で更新する.....67	カレントファイルの全てのマークポイントを削除する.....88
録音中に手動でマークポイントを登録する.....68	マークポイントの位置を編集する.....88
録音中のマークポイントの登録.....68	マークポイントの情報を見る.....88
録音中に自動でマークポイントを登録する.....68	指定した位置にロケートする.....89
録音時間について.....69	途中まで指定したロケート条件でサーチを行う.....89
第9章 エディットメニューを使う	第13章 ネットワーク機能.....90
(USBメモリー/SDカードのみ).....70	ネットワーク機能の設定.....90
エディットメニューの操作.....70	FTPクライアント機能の設定.....91
トラックを削除する (DELETE).....70	パス名を入力して対象となるフォルダーを選択する.....92
トラックを分割する (DIVIDE).....71	FTPサーバー機能.....92
トラックを結合する (COMBINE).....72	リモートコントロール.....93
エディットメニューの操作を取り消す (UNDO).....72	SNTP機能の設定.....94

第14章 各種設定／情報表示／キーボード操作	96
パワーオンアクション機能の設定.....	96
アナログ出力レベルを調節する	96
リモートパワーコントロール機能の設定	96
リファレンスレベルを設定する	96
USBキーボードを使った操作.....	97
キーボードタイプの設定.....	97
キーボードを使って名前や数値を入力する.....	97
キーボード操作一覧.....	97
メディアの情報を見る.....	99
メディアをリビルドする.....	99
出荷時の設定に戻す.....	99
ユーザーの設定をセーブする／ロードする	99
ユーザーの設定をセーブする.....	99
ユーザーの設定をロードする.....	99
システムバックアップデータをエクスポートする／ インポートする (USBメモリー／SDカードのみ)	100
ファームウェアバージョンを確認.....	101
ファームウェアアップデート手順 (USBメモリー／SDカードのみ)	101
第15章 リモコン端子を使う	102
RS-232C端子を使う	102
フットスイッチを使う (TASCAM RC-3F)	102
フットスイッチを設定する	102
フットスイッチを使う.....	102
Record Tallyを設定する.....	102
第16章 メッセージ	103
第17章 トラブルシューティング	106
第18章 仕様	107
定格.....	107
入出力定格	107
アナログオーディオ入出力定格	107
デジタルオーディオ入出力定格	107
コントロール入出力定格.....	108
オーディオ性能	108
一般.....	108
寸法図.....	109
ブロックダイアグラム.....	110

第1章 はじめに

このたびは、TASCAM SOLID STATE / CD RECORDER SS-CDR250N、およびTASCAM SOLID STATE RECORDER SS-R250N をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られる所に保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードすることができます。

SS-CDR250N / SS-R250Nの違い

SS-CDR250Nは、SS-R250NにCDドライブを追加したモデルです。

本機の概要

- FTPクライアント／サーバー機能を搭載。録音・再生ファイルのやり取り（アップロード・ダウンロード）が可能
- イベントリスト機能を搭載。録音・再生・ダウンロードなどの動作を、設定した時刻を基に自動で行うことが可能
- SNTPクライアント機能による時刻同期機能で、より正確なイベントの実行が可能
- 録音データを自動的にアップロードするオートアップロード機能を搭載
- iOS / Androidコントロールアプリケーション：トランスポート、ブラウズ、各種設定のリモートコントロールが可能
- SDカード（SDXC対応／最大128GB）、USBフラッシュメモリ、CD（SS-CDR250Nのみ）に対応
- デュアルスロットでSDカードのバックアップ録音、リレー録音が可能
- WAVとMP3ファイルが同時に録音可能なデュアルフォーマット録音
- 突然の電源断でも収録中のデータ消失を回避する自動ファイルクローズ処理
- 2台を同時に操作可能なリンク再生機能
- XLR、RCAアナログ入出力、AES/EBU、S/PDIFデジタル入出力搭載
- マイク入力に対応、ファンタム電源供給も可能
- RS-232Cシリアル、D-sub 25pin **PARALLEL**端子搭載
- 2chのDante入出力に対応するインターフェースカード『IF-DA2』（別売）を装着可能
- ポン出しリモートコントロールユニット「TASCAM RC-SS150」（別売）に対応
- 後継機種として、SS-R200 / SS-CDR200に搭載されている多彩な再生機能、録音機能を引き継ぎ搭載

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- 本体 x1
- 電源コード x1
- ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-10） x1
- リモコン用コイン形リチウム電池（CR2025、リモコン本体に挿入済み） x1
- ラックマウントビスキット x1
- セキュリティービスキット x1
- TASCAM ID登録ガイド x1
- 取扱説明書（本書、保証書付き） x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- SS-CDR250Nにのみ対応している内容を、「(SS-CDR250Nのみ)」と表記します。
- 取扱説明書のフロントパネルのイラストは、SS-CDR250Nのもので、SS-R250Nの本体と異なる場合があります。
- 本機および外部機器のボタン／端子などを「**MENU [JOG]** ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **PLAY AREA** のように表記します。
- 「SD/SDHC/SDXCメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- 「USBフラッシュドライブ」のことを「USBメモリー」と表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。また、オーディオCD形式のトラックを記録したCDを「オーディオCD」と表記する場合があります。
- MP3ファイルやWAVファイルを記録したCDを「データCD」と表記します。
- 未使用のCD-R / CD-RWディスクのことを「ブランクCD」と表記します。
- 現在選択中のメディアのことを「カレントメディア」と表記します。
- 現在選択中のフォルダーのことを「カレントフォルダー」と表記します。
- 現在選択中のプレイリストのことを「カレントプレイリスト」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

△注意

指示を守らないと、人がけがをする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC の商標です。



- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like). An independent license for such use is required. For details, please visit <http://mp3licensing.com>.



Fraunhofer Institut Integrierte Schaltungen

- SMARTMIXER™ は株式会社オーディオテクニカの商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

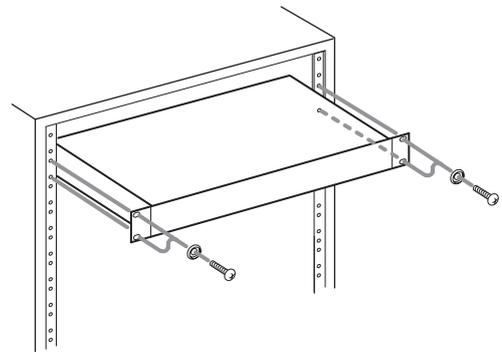
第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。

振動の多い場所
窓際などの直射日光が当たる場所
暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
極端に温度が低い場所
湿気が多い場所や風通しが悪い場所
ほこりの多い場所

- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスケットを使って、下図のように取り付けてください。なお、ラック内部では、本機の上に1U以上のスペースを空けてください。



電源について

- 付属の電源コードをAC IN端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- この機器は、AC100-240V (50/60Hz) の電源電圧で使用可能です。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

△注意

付属の電源コードは、定格電圧AC125Vです。
125V以上では、使用できません。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

SDカード／USBメモリーについて

本機では、SDカード／USBメモリーを使って録音や再生を行います。

本機にて動作が確認されたSDカード／USBメモリーのリストが、TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) に掲載されています。本機の製品ページをご参照ください。もしくは、タスカムカスタマーサポートまでお問い合わせください。

取り扱い上の注意

SDカード／USBメモリーは、精密にできています。SDカード／USBメモリーの破損を防ぐため、取り扱いに当たって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を載せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しを行わないこと。
- 持ち運ぶ際、メモリーカードケースなどに入れて運ぶこと。

SDカードのライトプロテクトについて

本機は動作上のパフォーマンスを向上のために、トラック情報をメディアに書き込みます。ライトプロテクトをされたSDカードにはトラック情報の書き込みができないため、メディアの読み込み時間が長くなるなどの影響が出ます。

フォーマットについて

本機でフォーマットされたSDカード／USBメモリーは、録音時の性能向上のために最適化されています。そのため、本機で使用するSDカード／USBメモリーは本機でフォーマットを行ってください。パソコンなどでフォーマットされたSDカード／USBメモリーは、本機での録音時にエラーになる可能性があります。

CD (コンパクトディスク) について

本機は、市販の音楽CDのほかに、オーディオCD (CD-DA) 形式で記録したCD-RやCD-RWディスク、MP3オーディオファイルおよびWAVオーディオファイルを記録したCD-R / CD-RWディスクを再生することができます。

注意

8cmCDは、使用できません。8cmCDを挿入した場合には、自動的に排出されます。排出時に、取り出せない場所で止まってしまった場合は、EJECTボタンを押してください。

取り扱い上の注意

- 録音には、以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。

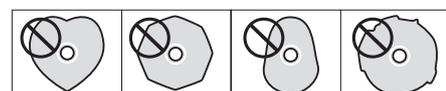
CD-R



CD-RW



- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には、触れないでください。指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりが付いたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にゼロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなる、または故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できない、または故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDIは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。



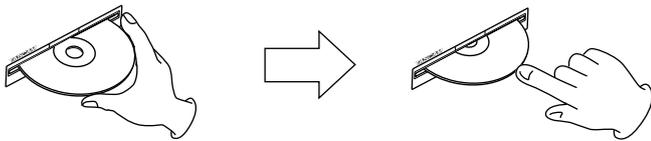
- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。
- CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、ディスクメーカーに直接お問い合わせください。

CD-RディスクとCD-RWディスク

CD-Rディスクには、一度だけしか記録できません。記録したトラック（曲）を消去することもできません。ただし、ファイナライズ処理を施していないディスクで、ディスクの記録可能時間が残っている場合は、追加記録が行えます。記録が終了したCD-Rは、ファイナライズ処理を施すことで、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります）。

CD-RWディスクは、記録可能容量を使いきった場合でも、記録した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。ただし、消去できるのは指定した曲から最後に記録した曲までに限られます。途中の曲だけを消去することはできません。CD-RWは、ファイナライズ処理を施しても、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

スロットインタイプのディスクの挿入



1. 図のようにレーベル面を上にしてディスクの側面を持って、途中までディスクを挿入してください。
2. さらにディスクを押ししていくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。

ディスクがうまく入らないとき

ディスクが引っ掛かるなど、押しにくいときは、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いてEJECTボタンを押してから、入れ直してください（無理に押し込むと、製品を破損する場合があります）。

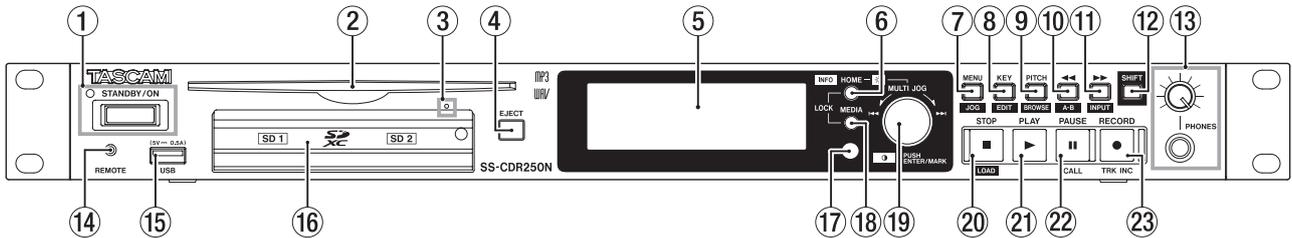
アフターサービス

- この製品には、保証書が添付（巻末に記載）されています。大切に保管してください。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどで購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げの日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センター（巻末に記載）が無償修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）までご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
 なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 本機を使ったSDカード／USBメモリーなどの記憶内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。
 - 型名、型番（SS-CDR250N / SS-R250N）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げの年月日
 - お買い上げの販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

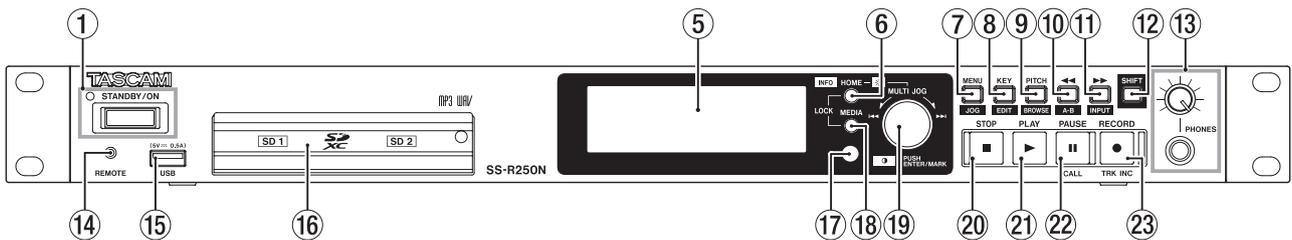
第2章 各部の名称と働き

フロントパネル

SS-CDR250N フロントパネル



SS-R250N フロントパネル



① STANDBY/ONボタン／インジケター

このボタンを押すと、電源のオン／オフ（スタンバイ状態）の切り換えを行います。

電源オフのとき、STANDBY/ONインジケターが点灯します。

注意

電源を入れる前には、接続機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

メモ

電源オンの状態で、このボタンを約9秒以上押し続けると、強制的に本体が再起動されます。

本機が動作中（録音中、再生中、SDカード／USBメモリー／CDにデータを書き込み中など）には行わないでください。録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したりする可能性があります。

② ディスク挿入口（SS-CDR250Nのみ）

ディスクを挿入します。

ディスクの一部を挿入すると自動的に引き込まれます。

③ ディスク強制排出用穴（エマージェンシーホール、SS-CDR250Nのみ）

CDドライブの故障などでEJECTボタンを押してもディスクが排出されなくなった時、強制的にディスクを排出するために使用します。（→ 27ページ「ディスクの強制排出」）

注意

緊急時以外は使用しないでください。使用する際は、電源をオフ（スタンバイ状態）にしてから使ってください。

④ EJECTボタン（SS-CDR250Nのみ）

ディスクを取り出すときに押します。

⑤ ディスプレー

各種情報を表示します。

⑥ HOME [INFO] ボタン

- メニュー画面や BROWSE 画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。

- ホーム画面表示中に、この押すとホーム画面の表示モードが切り換わります。（→ 16ページ「ホーム画面」、（→ 18ページ「録音画面」）

→ TRACK → TOTAL → TITLE → FOLDER

- MEDIAボタンとこのボタンを同時に押すと、LOCK SETUP 画面が表示されます。（→ 29ページ「ロック機能の設定」）
- SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、本体の動作状態を表示します。（→ 29ページ「インフォメーション画面の表示」）

⑦ MENU [JOG] ボタン

- ホーム画面を表示中に、このボタンを押すとメニュー画面を表示します。（→ 19ページ「メニューの構成」、（→ 21ページ「メニュー画面の基本操作」）
- メニュー画面表示中に、このボタンを押すとメニューページが切り換わります。
- メニュー画面表示中に、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すとメニューページが逆方向に切り換わります。
- メニューサブ画面表示中にこのボタンを押すと、メニュー階層を1つ戻します。
- ホーム画面で再生中／再生待機中／停止中に、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、ジョグ再生モードになります。（→ 32ページ「ジョグ再生」）
- ポップアップメッセージ表示中に、このボタンを押すとポップアップメッセージを閉じます。

⑧ KEY [EDIT] ボタン

- ホーム画面を表示中に、このボタンを押すとキーコントロール機能の設定を変更するキー設定ウィンドウをポップアップ表示します。（→ 34ページ「キーコントロール機能を使う」）
このポップアップ表示中に、MULTI JOGダイヤルを押すとキーコントロール機能のオン／オフを切り換えます。
このポップアップ表示中に、MULTI JOGダイヤルを回すとキーを変更します。
- SHIFTボタンを押しながら、このボタンを押すとエディットメニューをポップアップ表示します。（→ 70ページ「エディットメニューの操作」）

⑨ PITCH [BROWSE] ボタン

- ホーム画面を表示中にこのボタンを押すと、ピッチコントロール機能の設定するピッチ設定ウィンドウをポップアップ表示します。(→ 33ページ「ピッチコントロール機能を使う」)
このポップアップ表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、ピッチコントロール機能のオン/オフを切り換えます。
このポップアップ表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、ピッチを1%単位で変更します。
- このポップアップ表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを押し回しすると、ピッチを0.1%単位で変更します。
- 再生中/再生待機中/停止中に**SHIFT**ボタンを押しながらこのボタンを押すと、**BROWSE** 画面を表示します。

⑩ ◀ [A-B] ボタン

- 再生中/再生待機中に押すと、タイムスキップ機能にて指定した時間スキップします。(→ 38ページ「タイムスキップ機能を使う」)
- 再生中/再生待機中にこのボタンを押し続けると、音声を出しながら早戻し(レビュー)を行います。
- 再生対象の設定が**FOLDER** のとき、停止中に押すと、カレントフォルダーを切り換えることができます。
- 再生対象の設定が**PLAYLIST** のとき、停止中に押すことによってカレントプレイリストを切り換えることができます。
- BROWSE** 画面表示中にこのボタンを押すと、上位の階層に戻ります。(→ 42ページ「BROWSE画面内のナビゲーション」)
- ホーム画面表示中に、**SHIFT**ボタンを押しながらこのボタンを押すと、A-Bリピート再生機能がオンになります。(→ 34ページ「A-Bリピート再生の設定」)

⑪ ▶▶ [INPUT] ボタン

- 再生中/再生待機中に押すと、タイムスキップ機能にて指定した時間スキップします。(→ 38ページ「タイムスキップ機能を使う」)
- 再生中/再生待機中にこのボタンを押し続けると、音声を出しながら早送り(キュー)を行います。
- 再生対象設定が**FOLDER** のとき、停止中に押すと、カレントフォルダーを切り換えることができます。
- 再生対象設定が**PLAYLIST** のとき、停止中に押すことによってカレントプレイリストを選択することができます。
- BROWSE** 画面表示中、フォルダーを選択した状態でこのボタンを押すと、選択したフォルダーの内容が表示されます。(→ 42ページ「BROWSE画面内のナビゲーション」)
- SHIFT**ボタンを押しながらこのボタンを押すと、現在の入力ソース設定ウィンドウがポップアップ表示されます。入力ソース設定ウィンドウ表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、入力ソースを選択できます。選択後、**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、入力ソースが切り換わります。(→ 56ページ「入力ソースを選択する」)

⑫ SHIFTボタン

- このボタンを押しながら青文字表記のあるボタンを押すと、各ボタンに割り当てられた動作を行います。
- ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、ファイル名やフォルダー名がスクロールします。
- BROWSE** 画面表示中にこのボタンを押すと、選択したファイル名やフォルダー名が表示しきれていない場合にスクロールします。
- このボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストを調節できます。

⑬ PHONES端子/つまみ

ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ジャックです。ミニプラグのヘッドホンを接続する場合は、変換アダプターをご使用ください。

PHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、**PHONES**つまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑭ REMOTE端子(φ2.5mm TRSジャック)

別売の専用フットスイッチ(TASCAM RC-3F)、および専用ダイレクトプレーリモコン(TASCAM RC-20)を接続します。リモコンによる再生、停止などの操作が可能になります。専用フットスイッチ(TASCAM RC-3F)を接続時は、3つのペダルの役割を変えることができます。(→ 102ページ「フットスイッチを使う(TASCAM RC-3F)」)

⑮ USB端子

USBメモリーを挿入/取り外します。(→ 27ページ「USBメモリーを挿入する/取り外す」)

USBメモリーを接続し、メモリー内のファイルを再生するまたはメモリーに録音します。また、USBキーボードを接続し、フォルダー名やファイル名などの入力や外部コントロールに使用します。

初期設定は、日本語用(JIS)キーボードに設定されています。英語用キーボードは、日本語用(JIS)キーボードと配列が異なるため、英語用キーボードを使用する場合には、**KEYBOARD TYPE**画面で設定を変更してしてください。(→ 97ページ「キーボードタイプの設定」)

⑯ SDカードスロット

SDカードを挿入するカードスロットです。(→ 26ページ「SDカードを挿入する/取り出す」)

⑰ リモコン受光部

付属のワイヤレスリモコン(TASCAM RC-10)の信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。

⑱ MEDIAボタン

- ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、**MEDIA SELECT**画面が表示されます。(→ 28ページ「メディアを選択する」)
- HOME [INFO]** ボタンとこのボタンを同時に押すと、**LOCK SETUP**画面が表示されます。(→ 29ページ「ロック機能の設定」)

⑲ MULTI JOGダイヤル

このダイヤルは、回して使うホイール機能と押して使うボタン機能を兼ね備えています。

[ホイール機能]

- ホーム画面表示中、再生中/再生待機中に**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、マークポイントが登録されている場合は、マークポイントへ移動します。マークポイントがない場合、トラックにスキップします。
- プログラム入力時、登録トラックの選択を行います。
- メニュー画面表示中、メニュー項目の選択や設定値の選択を行います。
- 名前の編集時、文字の選択を行います。
- ジョグ再生中、10msec単位の移動を行います。(→ 32ページ「ジョグ再生」)
- SHIFT**ボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストを調節できます。

第2章 各部の名称と働き

- HOME [INFO] ボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、ディスプレイと各種インジケータの輝度を調節できます。
- BROWSE 画面表示中に回すと、同フォルダー内でのフォルダー／ファイルを選択することができます。(→ 42ページ「BROWSE画面内のナビゲーション」)

【ボタン機能】

- ホーム画面表示中、停止中／録音中／録音待機中／再生中／再生待機中に押すと、マークポイントを登録します。(→ 68ページ「録音中に手でマークポイントを登録する」)、(→ 87ページ「マークポイントを登録する」)
- メニュー画面表示中、選択や設定を確定します(ENTERボタン機能)。
- BROWSE 画面表示中に押すと、選択中のフォルダー／ファイルのフォルダーメニュー／ファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 43ページ「フォルダーの操作」)、(→ 44ページ「ファイルの操作」)

注意

カレントメディアが「CD」のときは、マークポイントの登録はできません。

⑳ STOP [LOAD] ボタン (SS-CDR250Nのみ) / STOPボタン

- 再生や録音を停止します。
- 再生対象設定が PROGRAM のとき、停止中に押すと全てのプログラムがクリアされます。

- SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、フラッシュロードを開始します(SS-CDR250Nのみ)。

㉑ PLAYボタン／インジケーター

- 停止中または再生待機中に押すと、再生を開始します。
- 録音待機中に押すと、録音を開始します。
- 再生中や録音中、ボタンが点灯します。
- ジョグ再生中、ボタンが点滅します。

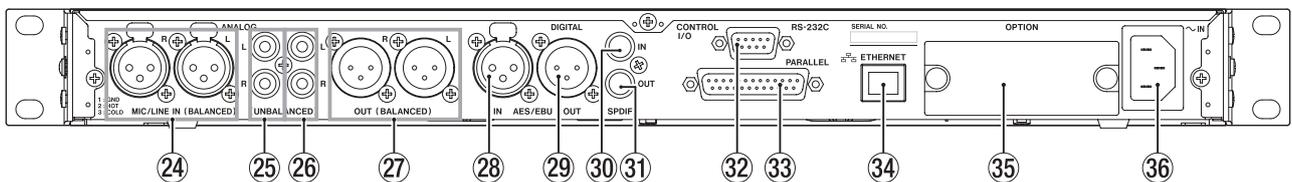
㉒ PAUSE [CALL] ボタン／インジケーター

- 停止中または再生中に押すと、再生待機状態になります。
- 録音中に押すと、録音待機状態になります。
- 再生待機中や録音待機中、ボタンが点灯します。
- ジョグ再生中、ボタンが点滅します。
- 再生待機中にこのボタンを押すと、コールポイント(再生待機状態から最後に再生を開始したポイント)をサーチして再生待機になります。(→ 39ページ「コール機能を使う」)

㉓ RECORD [TRK INC] ボタン／インジケーター

- 停止中に押すと、録音待機状態になります。
- 録音中に押すと、トラック番号がインクリメントされます。
- 録音中や録音待機中、ボタンが点灯します。
- カレントメディアのメディアが挿入されていないときに押すとインプットモニターになり、選択中の入力信号が出力されます。インプットモニター中、ボタンが点滅します。

リアパネル



㉔ MIC/LINE IN (BALANCED) L / R端子

アナログ入力端子(XLRバランス)です。

- 規定入力レベルは、+4dBu(初期値)のほか、+6dBuも設定できます。(1:GND、2:HOT、3:COLD)、(→ 96ページ「リファレンスレベルを設定する」)
- 入力感度を切り換えて、マイク入力として使用できます。(→ 58ページ「マイク／ライン入力の感度を設定する」)

㉕ ANALOG IN (UNBALANCED) L / R端子

アナログ入力端子(RCAピンジャック)です。
規定入力レベルは、-10dBVです。

㉖ ANALOG OUT (UNBALANCED) L / R端子

アナログ出力端子(RCAピンジャック)です。
規定出力レベルは、-10dBVです。

㉗ ANALOG OUT (BALANCED) L / R端子

アナログ出力端子(XLRバランス)です。
規定出力レベルは、+4dBu(初期値)のほか、+6dBuも設定できます。(1:GND、2:HOT、3:COLD)、(→ 96ページ「リファレンスレベルを設定する」)

㉘ AES/EBU IN端子

XLRバランスのAES3-2003/IEC60958-4(AES/EBU)フォーマットのデジタルオーディオ入力端子です。
32k ~ 192k Hzに対応したサンプリングレートコンバーターを搭載しています。(→ 64ページ「サンプリングレートコ

ンバーターを使う」)

本機を2台リンク接続する場合は、もう1台のSS-CDR250N / SS-R250NのAES/EBU OUT端子との端子を接続します。(→ 39ページ「リンク再生の接続」)

㉙ AES/EBU OUT端子

XLRバランスのAES3-2003/IEC60958-4(AES/EBU)フォーマットのデジタルオーディオ出力端子です。
本機を2台リンク接続する場合は、もう1台のSS-CDR250N / SS-R250NのAES/EBU IN端子との端子を接続します。(→ 39ページ「リンク再生の接続」)

㉚ SPDIF IN端子

デジタルオーディオ入力端子です。
32k ~ 192k Hzに対応したサンプリングレートコンバーターを搭載しています。(→ 64ページ「サンプリングレートコンバーターを使う」)
本機を2台リンク接続する場合は、もう1台のSS-R250NのSPDIF OUT端子との端子を接続します。(→ 39ページ「リンク再生の接続」)

㉛ SPDIF OUT端子

デジタルオーディオ出力端子です。
IEC60958-3(S/PDIF)フォーマットを出力することができます。
本機を2台リンク接続する場合は、もう1台のSS-R250NのSPDIF IN端子とこの端子を接続します。(→ 39ページ「リ

ンク再生の接続))

③② RS-232C端子

D-Sub 9ピンのRS-232Cコントロール用I/O端子です。
専用リモコンTASCAM RC-SS150または外部のパソコンなどを接続します。(→ 102ページ「RS-232C端子を使う」)

③③ PARALLEL端子

D-Sub 25ピンのパラレルコントロール用I/O端子です。
外部コントローラー (TASCAM RC-SS20など) を接続します。

PARALLEL端子について

リアパネルにある**PARALLEL**端子は、本機器を外部制御するためのパラレルコントロール端子です (TASCAM RC-SS20を接続することもできます)。

ピンサインは、次の通りです。

Pin No.	機能	IN / OUT
1	GND	-
2	PLAY / Flash 1	IN
3	STOP / Flash 2	IN
4	RECORD / Flash 3	IN
5	▶▶ (Next) / Flash 4	IN
6	◀◀ (Previous) / Flash 5	IN
7	Flash Load	IN
8	Fader Start	IN
9	Flash Tally	OUT
10	Ready Tally	OUT
11	Record Tally *1	OUT
12	Stop Tally	OUT
13	Play Tally	OUT
14	Remote Select *2	IN
15	Ready / Flash 6	IN
16	Call / Flash 7	IN
17	Auto Cue / Flash 8	IN
18	Auto Ready / Flash 9	IN
19	Pitch / Flash 10	IN
20	Flash Page *3	IN
21	EOM Tally	OUT
22	Device Select Tally 1 *4	OUT
23	Ducking Tally	OUT
24	Device Select Tally 2 *4	OUT
25	+5V	-

IN : 外部コマンド受信アクティブロー (通常時は30msec以上、MP3ファイル録音中は1秒以上、GNDに接続すると動作します)

OUT : オープンコレクタによるトランスポートステータス表示用信号 (出力インピーダンス10Ω、耐圧20V、最大電流35mA)

+5V : 最大供給電流 50mA

* 1 ピン11 (Remote Tally)

メニューの **RECORD TALLY** 画面の設定によって、録音待機中の状態が変わります。(→ 102ページ「Record Tallyを設定する」)

設定値	#11 (録音待機中)
REC ONLY	ハイ
REC PAUSE/REC	ロー

③④ ETHERNET端子

イーサネット端子です。ネットワーク接続し、ファイルの転送や、外部から本機を制御するのに使用します。

③⑤ OPTIONスロット

別売のI/Oカードを搭載するためのカードスロットです。

③⑥ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

* 2 ピン14 (Remote Select)

ハイのとき、上の表で「/」で区切られた2つの機能が表記されている入力ピン (ピン2 ~ 6および15 ~ 19) は、前者の機能が有効になり、通常のパラレルコントローラーとして使用することができます。

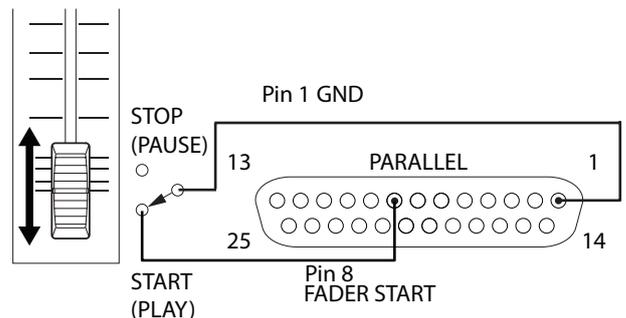
ローのとき、上記の入力ピンは、フラッシュスタートキーとして機能します。

* 3 ピン20 (Flash Page)

ピン14 (Remote Select) がローのとき、ピン20のハイ/ロー状態によって、割り当てトラックが、以下のようになります。

#14	#20	フラッシュスタートトラック
ロー	ハイ	1 ~ 10
ロー	ロー	11 ~ 20

以下は、フェーダースタート/ストップによって、本機の再生をコントロールする場合の接続例です。

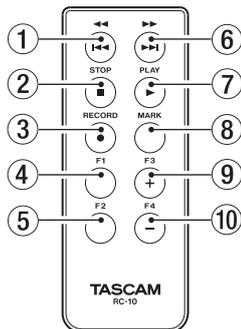


* 4 ピン22 / ピン24 (Device Select Tally 1 / 2)

ピン22とピン24のハイ/ローの状態によって、デバイスの割り当てが、以下のようになります。

#22	#24	デバイスの割り当て
ロー	ロー	USB
ハイ	ハイ	SD1
ハイ	ロー	SD2
ロー	ハイ	CD

ワイヤレスリモコン (TASCAM RC-10)



① ◀◀ / ▶▶ ボタン

再生中に短く押すと、トラックの先頭にスキップします。
トラックの先頭付近で短く押すと、前のトラックの先頭にスキップします。
押し続けると、早戻しサーチします。
BROWSE 画面表示中に押すと、上位の階層に移動します。(→ 42ページ「BROWSE画面内のナビゲーション」)

② STOP [■] ボタン

再生や録音を停止します。

③ RECORD [●] ボタン

停止中に押すと、録音待機状態になります。
録音中に押すと、トラック番号が更新されます。(→ 67ページ「トラック番号を手動で更新する」)

④ F1 ボタン

停止中または再生中に押すと、再生待機状態になります。
録音中に押すと、録音待機状態になります。

⑤ F2 ボタン

メニュー画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。
ホーム画面表示中に押すと、表示モードを切り換えます。(→ 16ページ「ホーム画面」)

⑥ ▶▶ / ▶▶▶ ボタン

短く押すと、次のトラックの先頭にスキップします。
押し続けると早送りサーチをします。
BROWSE 画面表示中にフォルダーを選択した状態でこのボタンを押すと、下位の階層に移動します。

⑦ PLAY [▶] ボタン

停止中または再生待機中に押すと、再生を開始します。
録音待機中に押すと、録音を開始します。

⑧ MARK ボタン

停止中／録音中／再生待機中または再生中に手動でマークポイントを登録します。(→ 68ページ「録音中に手動でマークポイントを登録する」)、(→ 87ページ「マークポイントを登録する」)

⑨ F3 [+] ボタン

次のマークポイントに移動します。
BROWSE 画面表示中に押すと、カーソルを上にか動きます。(→ 42ページ「BROWSE画面内のナビゲーション」)

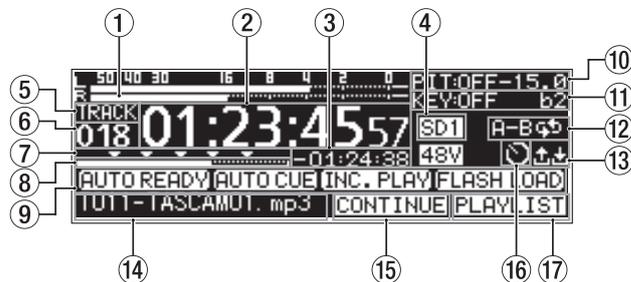
⑩ F4 [-] ボタン

前のマークポイントに移動します。
BROWSE 画面表示中に押すと、カーソルを下にか動きます。(→ 42ページ「BROWSE画面内のナビゲーション」)

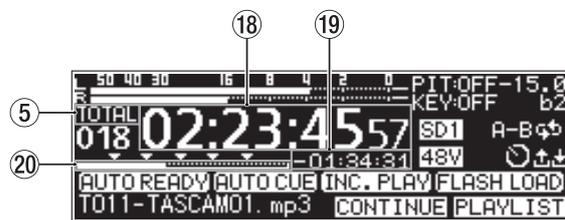
ホーム画面

本機のホーム画面には、TRACK モード表示、TOTAL モード表示、TITLE モード表示、FOLDER モード表示があります。

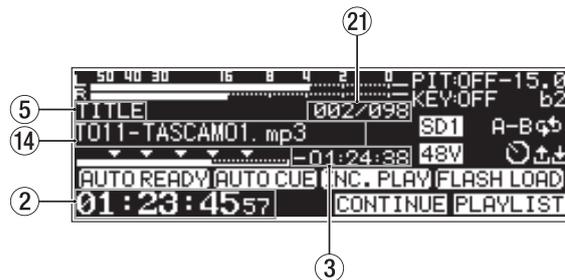
HOME [INFO] ボタンを押すたびに、表示内容が切り換わります。



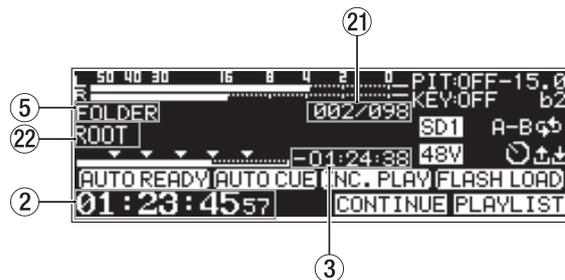
[ホーム画面 TRACK モード表示]



[ホーム画面 TOTAL モード表示]



[ホーム画面 TITLE モード表示]



[ホーム画面 FOLDER モード表示]

① レベルメーター

入力音または再生音のレベルを表示します。

② トラック先頭からの経過時間表示

現在のトラックの先頭からの経過時間(時:分:秒)を表示します。
ジョグ再生中は、10msec単位時間も表示します。

③ トラックの終わりまでの残り時間表示

現在のトラックの終わりまでの残量時間(時:分:秒)を表示します。

④ カレントメディア表示

現在選択中のメディア名を表示します。(→ 28ページ「メディアを選択する」)

-  : USBメモリーを選択
-  : SDカード1を選択
-  : SDカード2を選択
-  : CDを選択

⑤ 表示モード名表示

ホーム画面に表示中の表示モード名を表示します。

⑥ トラック番号表示

再生中のトラック番号を表示します。

⑦ マークポイント表示

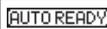
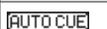
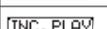
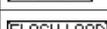
マークポイントに ▼ アイコンを表示します。

⑧ トラック再生位置表示

現在の再生位置をバー表示します。
再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑨ 各再生機能の設定状態設定部

現在のオンになっている再生機能をアイコン表示します。

表示	内容
	オートレディ機能がオンのときに表示
	オートキュー機能がオンのときに表示
	インクリメンタルプレー機能がオンのときに表示
	フラッシュロード済みの場合に表示

⑩ ピッチコントロール機能状態表示

ピッチコントロール機能のオン/オフと現在設定されているピッチを表示します。

⑪ キーコントロール機能状態表示

キーコントロール機能のオン/オフと現在設定されているキーを表示します。

⑫ リピート再生の設定状態表示

リピート再生機能がオンのときにアイコンを表示します。

-  : リピート再生
-  : A-Bリピート再生

⑬ アップロード／ダウンロードの状態表示

ネットワークを経由したファイルなどのアップロード／ダウンロード時にアイコンを表示します。

-  : アップロード
-  : ダウンロード

⑭ トラックタイトル表示

現在のトラックのタイトルを表示します。
本体のSHIFTボタンを押すと、スクロール表示されます。

⑮ 再生モード表示

現在の再生モードを表示します。(→ 31ページ「再生モードを設定する」)

-  : 連続再生モード
-  : シングル再生モード
-  : プログラム再生モード
-  : ランダム再生モード

⑯ タイマーイベントの設定状態表示

タイマーイベント機能がオンのときに  アイコンを表示します。
(→ 81ページ「タイマーイベント機能をオン/オフする」)

⑰ 再生対象表示

現在の再生ファイルの範囲を表示します。

-  : カレントメディア内の全ファイル
-  : 選択したフォルダー内の全ファイル
-  : プレイリストに登録されたファイル

⑱ 総トラック経過時間表示

現在のプレイエリアの経過時間(時:分:秒)を表示します。

⑲ 総トラック残量時間表示

現在のプレイエリアの残量時間(時:分:秒)を表示します。

⑳ トータル再生の経過位置表示

現在の再生位置をバー表示します。
再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

㉑ トラック番号／総トラック数表示

再生対象範囲の総トラック数と現在のトラック番号を表示します。

㉒ フォルダー名表示

現在のトラックのフォルダー名を表示します。

メモ

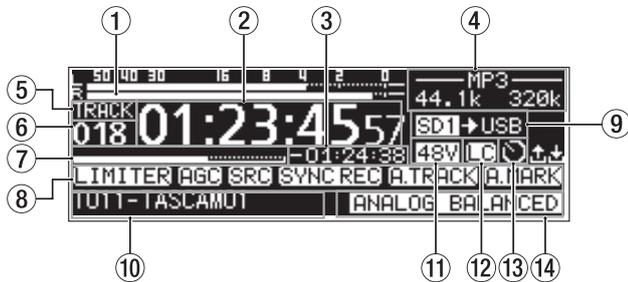
- 停止中は、ホーム画面の表示モードの設定に関わらず、常に再生対象範囲のトータル再生時間を表示します。
- PROGRAM では再生対象の全体ではなく、プログラム全体の経過時間と残り時間を表示します。

第2章 各部の名称と働き

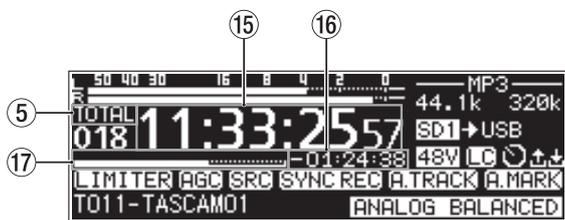
録音画面

本機の録音画面には、TRACK モード表示、TOTAL モード表示、TITLE モード表示、FOLDER モード表示があります。

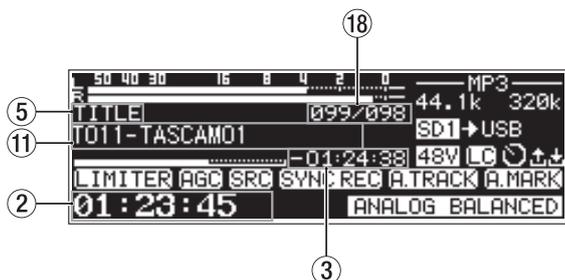
HOME [INFO] ボタンを押すたびに、表示内容が切り換わります。



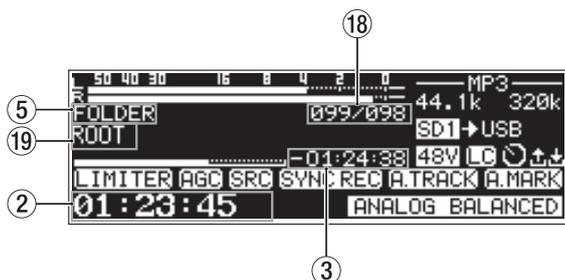
[録音画面 TRACK モード表示]



[録音画面 TOTAL モード表示]



[録音画面 TITLE モード表示]



[録音画面 FOLDER モード表示]

① 入力レベル表示

入力音のレベルを表示します。

② トラック録音経過時間表示

録音トラックの経過時間（時：分：秒）を表示します。

③ トラック録音残量時間表示

録音トラックの残り録音可能時間（時：分：秒）を表示します。

④ ファイルタイプ表示

現在の録音ファイル形式を表示します。

デュアルフォーマット録音機能がオンのとき、**MP3/WAV** のように2つのファイル形式を表示します。（→ 61ページ「録音するフォーマットの設定」）

⑤ 表示モード名表示

ホーム画面に表示中の表示モード名を表示します。

⑥ トラック番号表示

録音中のトラック番号を表示します。

⑦ トラック録音位置表示

現在の録音位置をバー表示します。録音の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑧ 各録音機能の設定状態表示部

現在のオンになっている録音機能をアイコン表示します。

表示	内容
LIMITER	ダイナミクス機能の LIMITER がオンのときに表示
COMP.SOFT	ダイナミクス機能の COMP_SOFT がオンのときに表示
COMP.HARD	ダイナミクス機能の COMP_HARD がオンのときに表示
AGC	オートゲインコントロール機能がオンのときに表示
SRC	サンプリングレートコンバーターがオンのときに表示
SYNC REC	シンク録音機能がオンのときに表示
A.TRACK	オートトラック機能がオンのときに表示
A.MARK	オートマーク機能がオンのときに表示

⑨ カレントメディア表示

現在選択中のメディア名を表示します。

リレー録音機能がオンのときに、**SD1→SD2** のようにカレントのメディアと次に録音するメディアのアイコンを表示します。（→ 61ページ「録音するフォーマットの設定」）

バックアップ機能がオンのときに、**SD1SD2** のように同時に録音を行う2つのメディアのアイコンを表示します。（→ 61ページ「録音するフォーマットの設定」）

⑩ トラックタイトル表示

録音中のトラックのタイトルを表示します。

⑪ ファンタム電源供給の状態表示

ファンタム電源がオンのときに **48V** アイコンを表示します。（→ 59ページ「ファンタム電源を設定する」）

⑫ ローカットフィルターの設定状態表示

ローカットフィルターが設定されているときに **LC** アイコンを表示します。（→ 60ページ「ローカットフィルターを設定する」）

⑬ タイマーイベントの設定状態表示

タイマーイベント機能がオンのときに **🕒** アイコンを表示します。（→ 81ページ「タイマーイベント機能をオン/オフする」）

⑭ 入力設定状態表示

現在、選択されている入力先名を表示します。

表示	内容
ANALOG UNBALANCED	ANALOG IN (UNBALANCED) L / R端子から入力
ANALOG BALANCED	MIC/LINE IN (BALANCED) 端子から入力
DIGITAL XLR	AES/EBU IN端子から入力
DIGITAL COAXIAL	SPDIF IN端子から入力
IF-DA2 (Dante)	Danteインターフェースカード「IF-DA2」から入力

⑮ 総トラック経過時間表示

メディア全体の録音時間（時：分：秒）を表示します。

⑯ 総トラック残量時間表示

メディア全体の残り録音可能時間（時：分：秒）を表示します。

⑰ トータル録音位置表示

現在の録音位置をバー表示します。

録音の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑱ トラック番号／総トラック数表示

再生対象範囲の総トラック数と現在のトラック番号を表示します。

⑲ トラックの録音先フォルダー名の表示

トラックの録音先フォルダー名を表示します。

メモ

残り時間は、録音するファイル形式によって変わります。（→ 61ページ「録音するファイル形式を設定する」）

メニューの構成

MENU [JOG] ボタンを押すと、メニュー画面の PLAY 1 ページが表示されます。

メニュー画面は、メニュー項目の種類ごとにSS-CDR250Nは22ページ、SS-CDR250Nは21ページで構成されています。

ページ名	内容	
1	PLAY 1	
2	PLAY 2	再生の設定を行います。
3	PLAY 3	
4	PLAYLIST	
5	REC 1	録音の設定を行います。
6	REC 2	
7	REC 3	
8	REC 4	
9	REC 5	
10	CD	CD特有の操作に関するメニューです。 (SS-CDR250Nのみ)
11	TIMER EVENT	タイマーイベントの設定を行います。
12	MARK LIST	マークリストの設定を行います。
13	NETWORK 1	ネットワークの設定を行います。
14	NETWORK 2	
15	FTP CLIENT	FTPの設定を行います。
16	SNTP	SNTPの設定を行います。
17	UTILITY	ユーティリティの設定を行います。
18	PREFERENCES	プリファレンス項目の設定を行います。
19	REMOTE	リモコンの設定を行います。
20	MEDIA	メディアの操作を行います。
21	SYSTEM 1	システムの設定を行います。
22	SYSTEM 2	

各メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
PLAY 1 ページ		
PLAY AREA	再生対象の設定	→ 30ページ
PLAY MODE	再生モードの設定	→ 31ページ
REPEAT	リピート再生機能を設定	→ 34ページ
AUTO CUE	オートキュー機能の設定	→ 35ページ
AUTO READY	オートレディ機能の設定	→ 35ページ
PLAY 2 ページ		
INCREMENTAL PLAY	インクリメンタルプレー機能の設定	→ 35ページ
MONO MIX	モノラル再生の設定	→ 36ページ
DUCKING	ダッキング機能の設定	→ 36ページ
EOM TRACK	EOM機能の設定	→ 37ページ
EOM MEDIA		
PLAY 3 ページ		
RESUME	リジューム再生機能の設定	→ 37ページ
TIME SKIP	タイムスキップ機能の設定	→ 38ページ
FADER DELAY	再生を開始するタイミングの設定	→ 38ページ
OUTPUT RATE	外部Fsに同期させる音声出力設定	→ 38ページ
CALL	コール機能の設定	→ 39ページ
PLAYLIST ページ		
PLAYLIST EDIT	プレイリストの編集	→ 50ページ
REC 1 ページ		
INPUT SELECT	入力ソースの選択	→ 56ページ
REC SET LINK	入力チャンネルのリンク設定	→ 57ページ
BAL. INPUT GAIN	マイク感度の設定	→ 58ページ
INPUT LEVEL	入力ボリュームの設定	→ 58ページ
MIC PHANTOM	ファンタム電源の設定	→ 59ページ
REC 2 ページ		
MIC AGC	マイク入力のオートゲインコントロール機能の設定	→ 59ページ
DYNAMICS	ダイナミクス機能の設定	→ 60ページ
LOW CUT	ローカットフィルターの設定	→ 60ページ
REC 3 ページ		
REC FORMAT	録音ファイルのフォーマット設定	→ 61ページ
BACKUP/RELAY MEDIA	バックアップ録音／リレー録音先のメディア設定	→ 62ページ
WAV SETTING	WAVファイルの設定	→ 62ページ
MP3 BITRATE	MP3ファイルのビットレート設定	→ 62ページ
FILE TYPE	録音するファイルタイプの設定	→ 62ページ
REC 4 ページ		
FILE NAME	ファイル名の形式を設定	→ 63ページ
DITHER	ディザーの設定	→ 64ページ
SRC	サンプリングレートコンバーターの設定	→ 64ページ
PAUSE MODE	ポーズモード機能の設定	→ 65ページ
DIRECT REC	ダイレクト録音機能の設定	→ 65ページ

第2章 各部の名称と働き

メニュー項目	機能	参照ページ
REC 5 ページ		
PRE REC	プリ録音機能の設定	→ 65ページ
SYNC REC	シンク録音の設定	→ 65ページ
AUTO TRACK	オートトラック機能の設定	→ 67ページ
AUTO MARK	オートマーク機能の設定	→ 68ページ
CD ページ (SS-CDR250Nのみ)		
FINALIZE	未ファイナライズのCD-R / CD-RWディスクのファイナライズ	→ 73ページ
ERASE	書き込み済みのCD-RWディスクの消去	→ 73ページ
BURN TO CD	選択したメディアからCD-R / CD-RWディスクへの書き込み	→ 75ページ
RIP TO MEMORY	CDから選択したメディアへの書き込み	→ 78ページ
TIMER EVENT ページ		
TIMER EVENT	タイマーイベント機能の設定	→ 81ページ
TIMER EVENT LIST	タイマーイベントリスト画面の設定	→ 81ページ
MARK LIST ページ		
MARK LIST	マークリストの編集	→ 87ページ
NETWORK 1 ページ		
MAC ADDRESS	本機のMACアドレスを表示	→ 90ページ
IP ADDRESS	現在のIPアドレスを表示	
DNS ADDRESS	DNSサーバーのIPアドレスを表示	→ 90ページ
IP SETUP	本機のIPアドレスなどを設定	
DNS SETUP	DNSサーバーのIPアドレスを設定	
NETWORK 2 ページ		
IP PASSWORD	パスワードの設定	→ 91ページ
NICKNAME	ニックネームの設定	→ 91ページ
ADMIN PASSWORD	アドミンパスワードの設定	→ 91ページ
FTP CLIENT ページ		
TARGET FTP SERVER	FTPサーバーに接続するための各種設定	→ 91ページ
FTPS MODE	FTPモードの設定	
TARGET FOLDER NAME	FTPサーバーへのUpload先 / FTPからのDownload元フォルダーの初期値を設定	
ACCESS TEST	FTPサーバーへの接続テスト	
AUTO UPLOAD	FTPサーバーへの自動アップロード設定	
SNTP ページ		
SNTP STATUS	SNTPの現在の状態を表示	→ 94ページ
SNTP UPDATE	SNTP機能の更新モードを設定	
NTP SERVER	NTPサーバー名の設定	→ 94ページ
TIMEZONE	UTC (協定世界時) からのオフセット時間を設定	
DAYLIGHT SAVING	夏時間機能を設定	
UTILITY ページ		
LINK PLAY	リンク再生の設定	→ 39ページ

メニュー項目	機能	参照ページ
POWER ON ACTION	パワーオンアクション機能の設定	→ 96ページ
OUTPUT LEVEL	アナログ出力アッテネーション機能の設定	→ 96ページ
REMOTE POWER CONTROL	リモートパワーコントロール機能の設定	→ 96ページ
PREFERENCES ページ		
REFERENCE LEVEL	リファレンスレベルの設定	→ 96ページ
BRIGHTNESS	ディスプレイとインジケータの輝度設定	→ 25ページ
LCD CONTRAST	ディスプレイのコントラストを設定	→ 25ページ
KEYBOARD	キーボードタイプの設定	→ 97ページ
REMOTE ページ		
RS-232C	RS-232Cの設定	→ 102ページ
RC-3F	RC-3Fのモード設定	→ 102ページ
RECORD TALLY	Record Tallyの設定	→ 102ページ
MEDIA ページ		
MEDIA FORMAT	メディアのフォーマット設定	→ 28ページ
MEDIA INFORMATION	メディア情報を表示	→ 99ページ
MEDIA REBUILD	メディアのリビルド	→ 99ページ
SYSTEM 1 ページ		
CLOCK ADJUST	日時を設定	→ 25ページ
FACTORY PRESET	工場出荷時の設定に戻す	→ 99ページ
SAVE USER PRESET	ユーザー設定の書き出し	→ 99ページ
LOAD USER PRESET	ユーザー設定の読み出し	→ 99ページ
SYSTEM BACKUP	システムバックアップデータのインポート / エクスポート	→ 100ページ
SYSTEM 2 ページ		
VERSION	ファームウェアバージョンを表示	→ 101ページ
UPDATE	ファームウェアのアップデート	→ 101ページ

メモ

各メニュー項目で設定した内容は、電源をオフにしても保持されます。

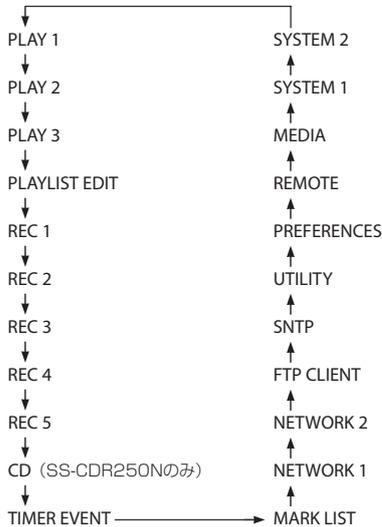
メニュー画面の基本操作

メニュー画面の各メニューページ操作は、以下の操作で行います。

項目をページ単位で切り換えるには：

目的のメニューページが表示されるまでMENU [JOG] ボタンを押します。

切り換わる順番は、下記の通りです。



メモ

- SHIFTボタンを押しながらMENU [JOG] ボタンを押すと、逆方向にメニューページが切り換わります。
- MULTI JOGダイヤルを回して、メニュー画面 PLAY 1 ページの PLAY AREA 項目から SYSTEM 2 ページの UPDATE 項目まで、1項目ごとに上下させることができます。

項目を選択する（画面の縦方向の選択）には：

MULTI JOGダイヤルを回します。

選択した項目を確定するには：

MULTI JOGダイヤルを押します。

画面に表示されていないサブ画面に進むには：

MULTI JOGダイヤルを押します。

サブ画面で項目を選択するには：

MULTI JOGダイヤルまたは、◀ [A-B] / ▶ [INPUT] ボタンを押します。

メニュー階層を1つ戻すには：

MENU [JOG] ボタンを押します。

メニュー画面表示中、直接ホーム画面に戻るには：

HOME [INFO] ボタンを押します。

メニュー操作の手順

オートマーク機能の設定を例に説明します。

1. MENU [JOG] ボタンを押して、メニュー画面の PLAY 1 ページを表示します。



2. MENU [JOG] ボタンを押して、各種メニューページを表示します。



[REC 5 ページを表示時]

3. MULTI JOGダイヤルを回して、設定する項目を選択します。



[AUTO MARK 選択時]

4. MULTI JOGダイヤルを押して、各種設定画面を表示します。



[AUTO MARK 画面を表示時]

5. MULTI JOGダイヤルを回して、設定を変更します。
6. 同じ画面内で別の項目を設定する場合は、MULTI JOGダイヤルを押して次の設定項目にカーソルを移動します。
◀ [A-B] / ▶ [INPUT] ボタンでカーソル移動ができる場合は、画面右上に「◀ ▶ : MOVE Cursor」と表示されます。
7. 必要に応じて、手順5. ~ 6.を繰り返して、各項目を設定します。
8. MULTI JOGダイヤルを押すと設定変更が確定され、メニュー画面に戻ります。
HOME [INFO] ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

メモ

- MENU [JOG] ボタンを押すとメニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。
- 上記8.の操作でMULTI JOGダイヤルを押したとき、直接ホーム画面に戻る場合もあります。
- 表示のみで変更できないメニュー項目は、[] で囲われて表示され、MULTI JOGダイヤルで選択できません。

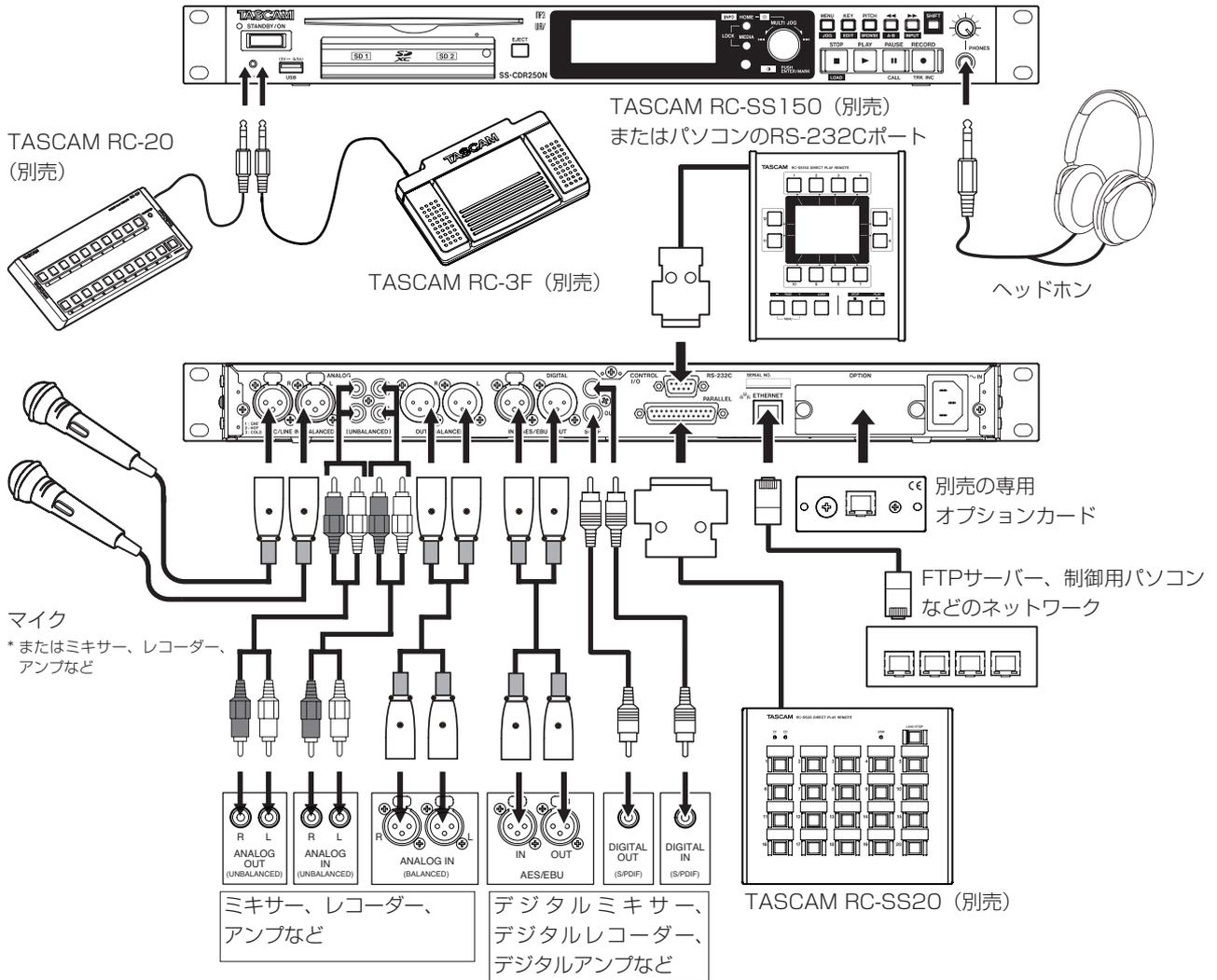
第3章 準備

接続する

以下に、SS-CDR250Nの接続例を示します。

接続前の注意

- 接続を行う前に、外部機器の取扱説明書をよくお読みになり、正しく接続してください。
- 本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一のラインから供給するように設置します。テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きいケーブルをご使用ください。



[SS-CDR250Nを使った接続例]

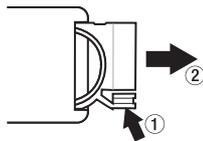
リモコンを準備する

コイン形電池の入れ方

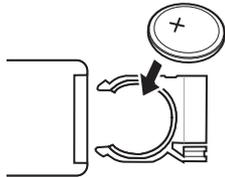
メモ

本機をお買い上げ時には、リモコン用コイン形リチウム電池（CR2025）がリモコンに入った状態で同梱されています。リモコンをご使用になる場合は、電池ホルダーに差し込まれている絶縁シートを引き抜いてください。

1. リモコンから電池ホルダーを抜きます。
①の部分を押しながら②の方向へ引き抜きます。



2. ⊕、⊖の向きに注意して、コイン形リチウム電池（CR2025）を電池ホルダーに入れます。



3. リモコンに電池ホルダーを差し込みます。

電池の交換時期

操作範囲が狭くなった、または操作ボタンを押しても動作しない場合は、新しい電池に交換してください。

電池は、コイン形リチウム電池（CR2025）をご使用ください。

電池についての注意

コイン形リチウム電池は、小さなお子様が悪く電池を飲み込むと大変危険です。電池およびリモコンは、幼児の手の届かない場所に置いてください。万一、お子様が電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

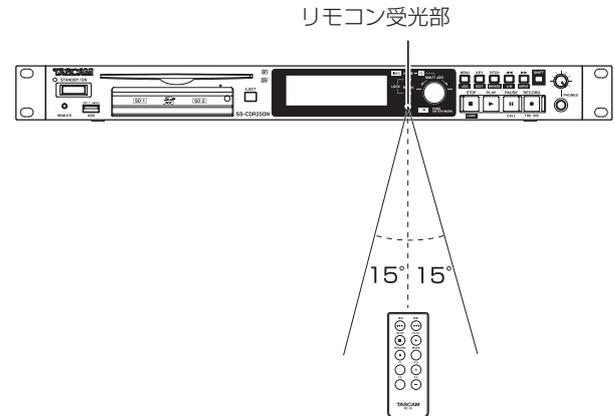
電池を誤って使用すると、液漏れや破裂などの原因となることがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。（→ 4ページ「電池の取り扱いについて」）

- コイン形リチウム電池の向きを正しく入れてください。
- コイン形リチウム電池は、充電しないでください。
- コイン形リチウム電池を加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。
- コイン形リチウム電池を金属製の小物類と一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
- 保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属製の物と接触しないように、テープなどで端子を絶縁してください。
- 使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法にしたがって捨ててください。

ワイヤレスリモコンを使う

各ボタンの機能は、16ページ「ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-10）」をご参照ください。

リモコン使用時は、下記に示す範囲内でリモコンを本機受光部に向けて操作してください。



リモコン動作範囲

正面：7m

左右：±15度 7m

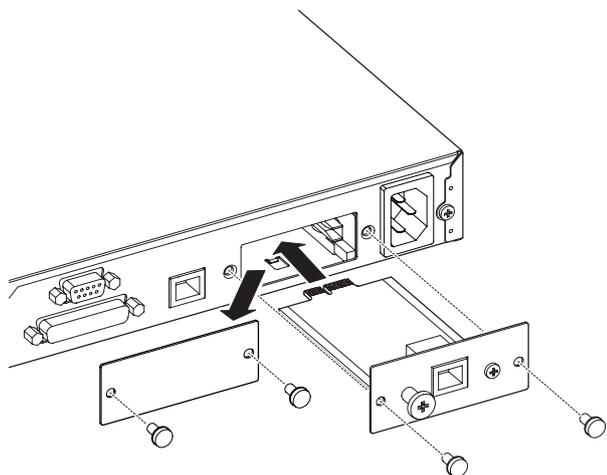
注意

- 到達距離は、角度により変化します。
- 障害物があると、操作できないことがあります。
- 長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池を取り出してください。
- 液漏れを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 赤外線によりコントロールするその他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。

別売のDanteインターフェースカードを取り付ける

注意

別売のDanteインターフェースカードを取り付けるまたは取り外す際は、あらかじめ電源コードをコンセント、または本体から抜いた状態で作業を行ってください。



1. ブランクパネルを止めている2本のネジを外し、パネルを外します。
2. Danteインターフェースカードをカードスロットに挿入します。Danteインターフェースカードの端をカードスロット内側の白いガイドに合わせて確実に差し込んでください。カチッと音がしてDanteインターフェースカードカードのバックプレートが本機リアパネルと隙間がなくなるまでDanteインターフェースカードカードを押してください。無理に押し込まないでください。うまく差し込めない場合は、いったん抜き出してからやり直してください。
3. 外した2本のネジで、Danteインターフェースカードを固定します。
4. 本機の電源を入れます。
本機がDanteインターフェースカードを認識すると、**INPUT SELECT** 画面で入力ソースとして **IF-DA2(Dante)** を設定できるようになります。(→ 56ページ「入力ソースを選択する」)
INPUT SELECT 画面の選択肢で **IF-DA2(Dante)** が表示されない場合は、Danteインターフェースカードが正しく挿入されていないか、ネジがしっかり締められていない可能性があります。再度Danteインターフェースカードを本機に確実に挿入してください。

電源のオン／オフ

フロントパネルの**STANDBY/ON**ボタンを押します。



[起動画面]



[ホーム画面]

本機が起動し、起動画面が表示されたあと、ホーム画面になります。カレントメディアが挿入されていない場合や、カレントフォルダーに音声ファイルがない場合、ホーム画面のトラック番号や時間が表示されません。

電源をオフにするには：

1. **STANDBY/ON**ボタンを押し続けると、確認メッセージがポップアップ表示されます。
2. 確認メッセージをポップアップ表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

注意

- 本機が動作中（録音中、再生中、SDカード／USBメモリーにデータを書き込み中など）は、電源コードを抜かないでください。録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になるなどの可能性があります。
- 初回電源投入時（および電源を切った状態で長時間置いたため内蔵電池がリセットされたとき）には、起動画面が表示される前に、内蔵時計の日時を設定する **CLOCK ADJUST** 画面が表示されます。(→ 25ページ「内蔵時計の日時を設定する」)

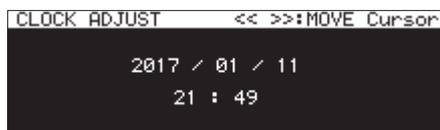
メモ

電源をオフしない場合は、**MENU [JOG]** ボタンを押します。

内蔵時計の日時を設定する

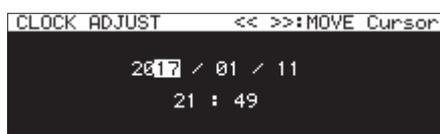
本機は、本体内の時計を基に、録音したファイルに日時を記録します。

1. SYSTEM 1 ページの CLOCK ADJUST 項目を選択し、CLOCK ADJUST 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. MULTI JOGダイヤルを押すと変更箇所のカーソルが現れ、設定モードになります。

◀ [A-B] ボタンまたは ▶ [INPUT] ボタンを押して、カーソルを移動することもできます。



3. MULTI JOGダイヤルを回して値を変更してからMULTI JOGダイヤルを押して確定すると、カーソルが次の項目へ移動します。

4. 「年」 → 「月」 → 「日」 → 「時」 → 「分」を変更すると、カーソルが消えます。

メモ

設定中にMENU [JOG] ボタンを押すと変更を中止し、メニュー画面に戻します。

5. MENU [JOG] ボタンを押して設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

ディスプレイを調節する

必要に応じて、ディスプレイのコントラスト、およびディスプレイとPLAYボタン、PAUSE [CALL] ボタン、RECORD [TRK INC] ボタンの輝度を調節することができます。

ディスプレイとインジケータの輝度調節

操作子で調節する

HOME [INFO] ボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回して、ディスプレイとインジケータの輝度を調節します。



メニューの設定で調節する

1. PREFERENCES ページの BRIGHTNESS 項目を選択し、BRIGHTNESS 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. ディスプレイとインジケータの輝度を調節します。
選択肢：0 ~ 10 (初期値：5)
3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

ディスプレイのコントラスト調節

操作子で調節する

SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回して、ディスプレイのコントラストを調節します。



メニューの設定で調節する

1. PREFERENCES ページの LCD CONTRAST 項目を選択し、LCD CONTRAST 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. ディスプレイのコントラストを調節します。
選択肢：0 ~ 50
3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

SDカードを挿入する／取り出す

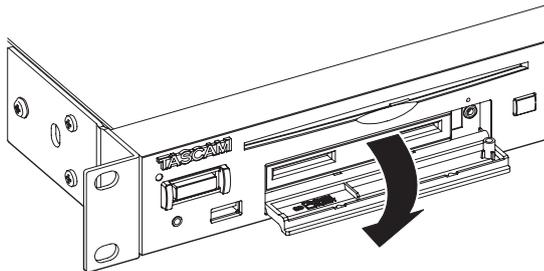
SDカードを挿入する

本機で再生／録音を行うには、フロントパネルのSDカードスロットにSDカードを挿入します。

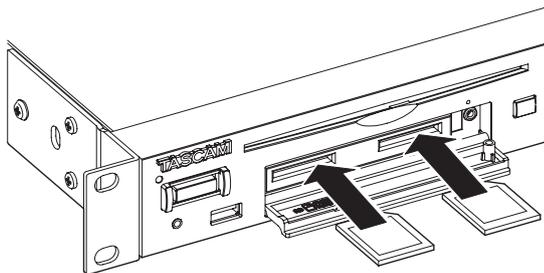
メモ

電源がオン／オフ（スタンバイ状態）どちらのときもSDカードを挿入することができます。

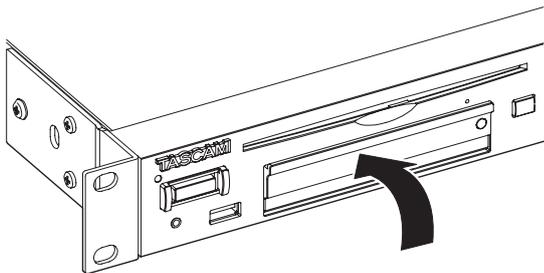
1. カードスロットのカバーを手前に引き開けます。



2. SDカードを正しい向きに挿入します。
ラベル面を上、端子部を奥にして挿入します。



3. カードスロットのカバーを閉じます。



メモ

SDカードスロットのカバーが閉まらないとき、SDカードを抜き、再度SDカードを入れてください。

SDカードを取り出す

電源をオフにするか、動作を停止してから、SDカードを取り出します。

注意

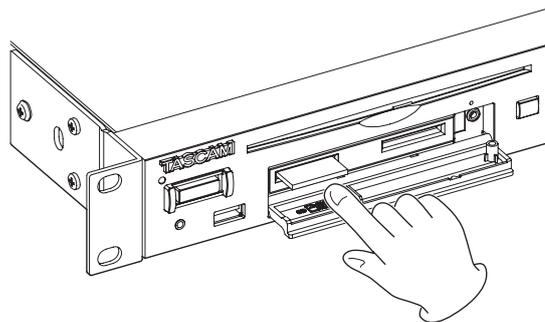
下記のようなSDカードアクセス中は、絶対にSDカードを取り出さないでください。

録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になるなどの可能性があります。

また、FIRMWARE UPDATE 実行中に取り外した場合、本機が正常に起動／動作できなくなる可能性があります。

- 録音中
- 再生中
- SYSTEM BACKUP の IMPORT/EXPORT 実行中
- FIRMWARE UPDATE 実行中（→ 101ページ「ファームウェアアップデート手順（USBメモリー／SDカードのみ）」）
- BROWSE 画面でSDカードにアクセス中

1. カードスロットのカバーを手前に引き開けます。
2. SDカードを軽く押し込むと手前に出てきます。

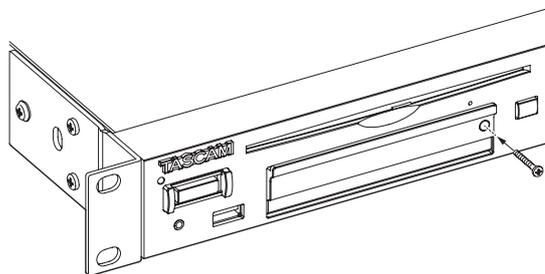


3. 手をつまんでSDカードを引き出します。

セキュリティービスについて

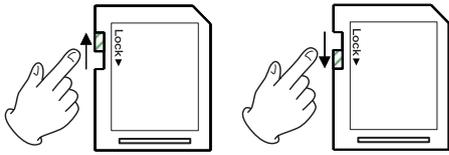
付属のセキュリティービスを使ってカードスロットのカバーをロックすることができます。

セキュリティービスの取り付け／取り外しは、プラスドライバーを使って行ってください。



SDカードのプロテクトスイッチについて

SDカードには、プロテクト(書き込み防止)スイッチが付いています。



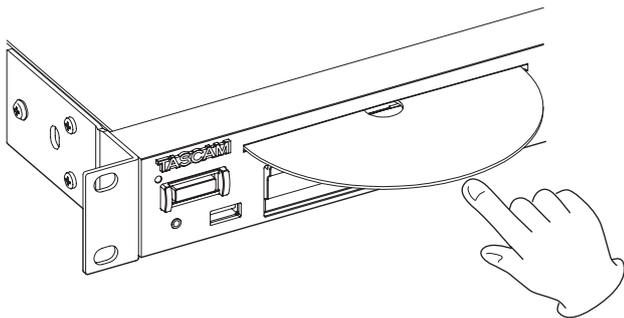
プロテクトスイッチを「LOCK」の方向へスライドするとファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は書き込み禁止を解除してください。

ディスクを挿入する／取り出す (SS-CDR250Nのみ)

ディスクを挿入する

ディスクのレーベル面を上にし、ディスク挿入口に途中まで挿入してください。

さらにディスクを押していくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。



注意

- 電源の入っていない状態では、ディスクは入りません。
- ディスクが引っ掛かるなど、押しにくいときは、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いてEJECTボタンを押してから、入れ直してください(無理に押し込むと、ディスクを傷つける、または本機を破損する場合があります)。
- オーディオCD以外のディスクを挿入する、またはディスクを裏返して挿入した場合は、「NO MEDIA」表示のままになります。EJECTボタンを押して、ディスクを排出してください。

ディスクを取り出す

EJECTボタンを押します。

ディスクが途中まで排出されるので、ディスクの側面を持って引き抜きます。

注意

電源の入っていない状態では、EJECTボタンは動作しません。

ディスクの強制排出

CDドライブの故障などでEJECTボタンを押してもディスクが排出されない場合は、ディスク強制排出用穴(エマージェンシーホール)を使用しディスクを取り出すことができます。

ディスクの強制排出時は、本体の電源をオフ(スタンバイ状態)にしてから、以下の操作を行ってください。

1. クリップなどを伸ばした細長いピンを用意してください。
2. ディスク強制排出用穴(エマージェンシーホール)にピンを差し込み、何回か奥に押し込みます。
3. ディスクが少し排出されますので、手で引き出します。

注意

- 緊急時のための機能です。通常のディスク取り出しは、通常の手順で取り出してください。(→ 27ページ「ディスクを取り出す」)
- ディスクの強制排出は、電源の入っている状態では絶対に行わないでください。

USBメモリーを挿入する／取り外す

電源がオン／オフどちらのときもUSBメモリーの挿入／取り外しができます。

注意

下記のようなUSBメモリーアクセス中は、絶対にUSBメモリーを取り外さないでください。

録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になるなどの可能性があります。

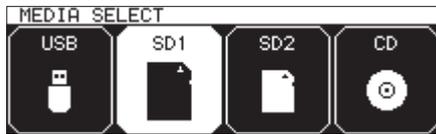
また、FIRMWARE UPDATE 実行中に取り外した場合、本機が正常に起動／動作できなくなる可能性があります。

- 録音中
- 再生中
- SYSTEM BACKUP の IMPORT/EXPORT 実行中
- FIRMWARE UPDATE 実行中 (→ 101ページ「ファームウェアアップデート手順(USBメモリー／SDカードのみ)」)
- BROWSE 画面でUSBメモリーにアクセス中

メディアを選択する

作業を行う前に、使用するメディア（USBメモリー／SDカード／CD）に応じてメディア（USB／SD1／SD2／CD）を選択します。メディアを選択するには、以下の手順で行います。

1. MEDIAボタンを押して、MEDIA SELECT 画面を表示します。



2. MEDIAボタンを押して使用するメディアを選択し、MULTI JOGダイヤルを押して確定します。
3. ホーム画面のカレントメディア表示部に選択したカレントメディア名が表示されます。

カレントメディア名



アイコン	内容
USB	USBメモリーを選択
SD1	SDカード1を選択
SD2	SDカード2を選択
CD	メディアが入っていない、または無効なメディア
CD	ファイナライズ済み（TOC情報がある）CD*
CD-R	ファイナライズ済みのCD-R
CD-R*	ファイナライズしていないCD-R
CD-RW	ファイナライズ済みのCD-RW
CD-RW*	ファイナライズしていないCD-RW

* 市販されている音楽CDはこれになります。

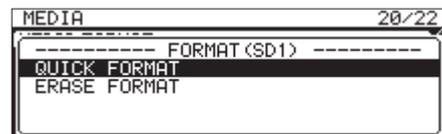
SDカード／USBメモリーを使えるようにする

本機でSDカード／USBメモリーを使えるようにするために、本機でフォーマットする必要があります。

注意

- フォーマットを行うと、SDカード／USBメモリー上のデータは全て消去されます。
- 必ず本機にてフォーマットを行ってください。他の機器、パソコンなどでフォーマットしたSDカード／USBメモリーを使用した場合、動作に影響が出る場合があります。
- カレントメディアが「CD」の場合は、選択できません。

1. MEDIA SELECT 画面を表示し、フォーマットするメディアを選択します。（→ 28ページ「メディアを選択する」）
2. MEDIA ページの MEDIA FORMAT 項目を選択し、フォーマット方法の選択肢をポップアップ表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



QUICK FORMAT 項目：メディアの管理領域のみを初期化します。
ERASE FORMAT 項目：メディアの全領域を初期化します。

メモ

ERASE FORMAT 項目は、カレントメディアが「SD1」または「SD2」の場合のみ表示します。

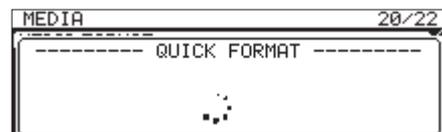
3. フォーマット方法を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



メモ

フォーマットを中止するには、MENU [JOG] ボタンを押します。

4. MULTI JOGダイヤルを押し続けることで、フォーマットを開始します。フォーマット実行中は、以下のメッセージがポップアップ表示されます。



[QUICK FORMAT 項目選択時の表示]

- フォーマットが終了するとポップアップ表示が消えて、ホーム画面に戻ります。

メモ

フラッシュメモリを使ったSDカードのようなストレージメディアは、書き込みを繰り返すことで書き込み速度が低下する傾向があります。

書き込み速度が低下すると、録音に悪影響を及ぼす可能性があります。

本機の **ERASE FORMAT** を実行すると、SDカードの書き込み速度が回復します。*

そのため、下記タイミングで **ERASE FORMAT** を実行することをお勧めします。

- メディア残量がなくなるまで書き込んだ場合
- 定期的（1ヶ月程度）
- 大事な録音の前

* SDカードの状態（故障・寿命など）により、書き込み速度が回復しない場合もあります。

ロック機能の設定

本機は、フロントパネルや外部機器からの操作を受け付けなくするロック機能を設定することができます。

- フロントパネルの **HOME [INFO]** ボタンを押しながら **MEDIA** ボタンを押して、**LOCK SETUP** 画面を表示します。



- ロック機能を設定する項目を選択し、ロック機能設定画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



「FRONT PANEL」項目選択時のロック機能設定画面表示

FRONT PANEL 項目

フロントパネルの操作ボタンをロックします。

選択肢：UNLOCK（初期値）、LOCK

232C/PARA/NETWORK 項目

RS-232C端子 / PARALLEL端子からの外部操作とFTPクライアントアプリケーションでのファイル転送 / Telnetによるリモートコントロールをロックします。

選択肢：UNLOCK（初期値）、LOCK

REMOTE/KEYBOARD 項目

REMOTE端子に接続されたリモコン、ワイヤレスリモコン、あるいはUSBキーボードやテンキーからの操作をロックします。

選択肢：UNLOCK（初期値）、LOCK

メモ

下記は **LOCK** に設定しても操作できます。

- ホーム画面表示
- LOCK SETUP** 画面内の設定変更
- STANDBY/ON** ボタンによる電源断操作
- ディスプレイおよび各種インジケーターの輝度調節

- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

インフォメーション画面の表示

SHIFT ボタンを押しながら **HOME [INFO]** ボタンを押すと、ディスプレイに本機の動作状態が表示されます。



表示内容：

CLOCK 項目

現在動作しているサンプリング周波数

INPUT 項目

現在設定されている入力

FILE 項目

現在設定しているファイルタイプ / 量子化ビット数 / ファイルモード
録音日

FOLDER 項目

現在選択されているカレントフォルダー

メモ

入力ソースを **DIGITAL XLR** / **DIGITAL COAXIAL** / **IF-DA2 (Dante)** (IF-DA2装着時のみ表示) を選択した場合、以下のような状態のときに録音待機状態から録音を開始することができません。

- 本機が入力ソースにデジタルロックしない場合、入力ソース名末尾に「UNLOCK」を表示します。
- 入力ソースがオーディオではない場合、入力ソース名末尾に「NotAudio」を表示します。
- REC 3 ページの **SAMPLE** 項目で設定したサンプリング周波数が入力ソースと異なる場合は、入力ソース名末尾に「FS UNMATCH」を表示します。ただし、サンプリングレートコンバーターを有効にした場合は、サンプリング周波数が異なっても録音可能です。（→ 64ページ「サンプリングレートコンバーターを使う」）

第4章 再生

SDカード／USBメモリー／CDに収録されているオーディオファイルの再生機能を説明します。

以下の説明では、オーディオファイルが記録されたSDカード／USBメモリー／CDが本機にセットされ、本機の電源がオンになっていて、カレントメディアが適切に選択されていることを前提としています。(→ 28ページ「メディアを選択する」)

再生可能なファイル

本機では、以下の形式のファイルを再生することができます。

USBメモリー、SDカード、データCD

- MP3 : 44.1k/48kHz, 64k/128k/192k/256k/320kbps
- WAV / BWF : 44.1k/48k/96kHz, 16/24bit

オーディオCD

市販の音楽CDや、オーディオCD形式で作成したCD-R、CD-RWディスク

注意

MP3ファイルの圧縮方式がVBRのファイルについて

VBRのファイルは、ファイル形式上の制約により正確な位置検出ができません。そのため、タイムスキップ機能／コール機能／A-Bリピート再生機能のA点設定など、トラック途中でのポイント設定が必要になる機能を本機で行う場合、設定時のポイントと再生を開始するポイントで若干のズレが生じることがあります。

メモ

CDについては、WAV/BWFの96kHzは再生できません。

ヒント

上記のファイル形式であれば、本機で録音したファイルでなくても再生することができます。たとえば、パソコンあるいは他のオーディオ機器を使用し、上記の要件を満たすファイルをSDカード／USBメモリー／CDに書き込み、そのメディアを本機にセットして再生することができます。したがって、本機の再生素材を作成する際に効率的に作業を行うことができます。

トラックとファイル

メディア上は、オーディオデータが「オーディオファイル」として保存されています。

FILE TYPE 画面の FILE TYPE 項目を STEREO に設定した場合はステレオファイル1つをトラックとして、MONO(M1H) に設定した場合はモノラルファイル1つをトラックとして、MONO(2ch) に設定した場合は、モノラルファイル2つを1つのトラックとして扱われます。(→ 61ページ「録音するファイル形式を設定する」)

したがって、本書における再生や録音の説明では、オーディオファイルのことを「トラック」と呼び(場合によっては「曲」と呼ぶ場合もあります)、メディア管理などの説明では主にファイルと呼びますが、実体としては同じものを指すとご理解ください。

再生対象

ホーム画面上で選択できる再生するトラックの範囲を「再生対象」と呼びます。

オーディオCDの場合は、常にディスク全体が再生範囲になります。MP3ファイルやWAVファイルを記録したCD-R / CD-RWディスク、およびUSBメモリー / SDカードでは、再生範囲を設定することができます。

SDカード / USBメモリー / CD上に多数のファイルが記録されている場合など、選択範囲を限定することにより再生するトラック選択が容易になります。

再生対象を設定する

PLAY 1 ページの PLAY AREA 項目を使って、再生対象を設定します。

1. PLAY 1 ページの PLAY AREA 項目を選択し、PLAY AREA 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. 希望の再生対象を設定します。

選択肢	内容
ALL (初期値)	メディア内の全ファイルを再生します。
FOLDER	現在選択中のファイルが含まれているフォルダー内のファイルを再生します。
PLAYLIST	プレイリストに登録されているファイルを再生します。 プレイリストが存在しない場合は、メッセージ「No PLAYLIST」をポップアップ表示します。

メモ

データCD使用時は、ALL または FOLDER のいずれかを選択できます。オーディオCD使用時は、常に ALL です。

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

現在の再生対象の設定が、ホーム画面の右下部に表示されます。



再生対象表示

カレントフォルダー、カレントプレイリストを選ぶ

再生対象を **FOLDER** や **PLAYLIST** に設定した場合、ホーム画面表示中で本機が停止中に、本体の ◀◀ [A-B] / ▶▶ [INPUT] ボタンを使って、再生対象とするフォルダーやプレイリストを選択することができます。

これらのフォルダー、プレイリストをそれぞれ「カレントフォルダー」、「カレントプレイリスト」と呼びます。

メモ

- **BROWSE** 画面から、「カレントフォルダー」や「カレントプレイリスト」を選択することもできます。(→ 42ページ「第5章 フォルダーやファイルの操作 (BROWSE画面)」)
- MP3形式およびWAV形式のオーディオファイルの場合、本機で再生可能なトラック数は、最大999トラックです。999以上のトラックが記録されているメディアを本機にセットした場合、本機のシステム上のルールにもとづいて選択された999トラックが再生可能となります。それ以外のトラックは、再生や編集を行うことができません。
- オーディオCD形式の場合、再生可能なトラック数は最大99トラックです。

再生モードを設定する

再生対象内のトラックを再生するモードを設定します。

1. **PLAY 1** ページの **PLAY MODE** 項目を選択し、**PLAY MODE** 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. 希望の再生モードを設定します。

選択肢	内容
CONTINUE (初期値)	再生対象内のトラックを、トラック番号順に再生します。
SINGLE	選択したトラックを再生し、再生が終わると停止します。
PROGRAM	あらかじめ設定したプログラムの順番に再生します。(→ 33ページ「プログラム再生」)
RANDOM	再生対象内の全てのトラックを、トラック番号に関係なくランダムに再生します。全トラックの再生が終わると停止します。

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

- 本取扱説明書では、特に断らない限り、再生モードの設定が **CONTINUE** に設定されている前提で説明を行います。
- 現在の再生モードがホーム画面右下部に表示されます。

再生の基本操作

ここでは、再生/再生待機状態/停止などの基本操作について説明します。

以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていて、オーディオファイルが記録されたメディアをセットし、カレントメディアが選択され、ディスプレイにホーム画面が表示されていることを前提にしています。

再生する

再生を始めるには、**PLAY**ボタン (リモコンの**PLAY**ボタン) を押します。

本機で再生可能なオーディオファイルがメディア上に記録されていない場合、ホーム画面が以下のように表示されます。



再生を停止するには：

STOPボタンを押します。

再生を再生待機状態にするには：

PAUSE [CALL] ボタンを押します。

再生するトラックを選択する

再生対象に複数のトラックが存在するときの選曲方法を説明します。選曲方法には、前後のトラック番号に移動する方法（スキップ）とトラック番号を直接指定する方法があります。

前後のトラックにスキップする

MULTI JOGダイヤルを回すと（リモコンの◀◀[I◀◀] / ▶▶[▶▶] ボタンを押すと）、前後のトラックにスキップします。

- トラックの再生途中でMULTI JOGダイヤルを反時計周りに回す（リモコンの◀◀[I◀◀] ボタンを押すと）とファイルの先頭へ戻り、トラックの先頭でMULTI JOGダイヤルを反時計周りに回す（リモコン◀◀[I◀◀] ボタンを押すと）と1つ前のトラックの先頭にスキップします。
- トラックの先頭または途中でMULTI JOGダイヤルを時計周りに回す（リモコンの▶▶[▶▶] ボタンを押すと）と、次のトラックへスキップします。

トラックを選択したあとPLAYボタン（リモコンのPLAYボタン）を押すと、トラックの再生が始まります。また、PLAYボタン（リモコンのPLAYボタン）の代わりにPAUSE [CALL] ボタンを押すと、選択したトラックの先頭で再生待機状態になります。

メモ

- 再生できるトラックは、再生対象内のファイルです。
- 再生中のファイル情報（曲名など）やトラック番号がディスプレイに表示されます。
- トラックを移動したい場合には、MULTI JOGダイヤルを必要だけ回してください。

トラックを直接指定する

BROWSE 画面で再生したいトラックをMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの◀◀[I◀◀] / ▶▶[▶▶] ボタンを押して）選択し、PLAYボタン（リモコンのPLAYボタン）を押して再生します。

早戻し／早送りサーチ

音声を聴きながらトラック内を早戻し／早送りサーチすることができます。

1. 希望のトラックを再生または再生待機状態にします。
2. 本体の◀◀ [A-B] / ▶▶ [INPUT] ボタン（リモコンの◀◀[I◀◀] / ▶▶[▶▶] ボタン）を押し続けます。早戻し／早送りが始まります。
3. サーチを止めるには、押し続けているボタンを放します。サーチを始める前の状態（再生待機または再生）に戻ります。

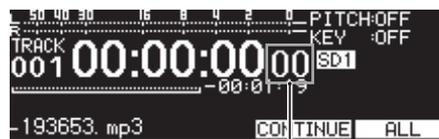
メモ

- 早送り中にトラックの最後になった場合は、次のトラックにスキップし、その先頭からサーチを再開します。
- 早送りするトラックが最後のトラックの場合は、トラックの最後になったときに再生待機状態になります。
- 早戻し中にトラックの先頭になった場合は、前のトラックにスキップし、その最後からサーチを再開します。
- 早戻しするトラックが最初のトラックの場合は、トラックの最初になったときに再生待機状態になります。

ジョグ再生

ジョグ再生モードにし、MULTI JOGダイヤルを使って、10msec単位のサーチができます。

1. SHIFTボタンを押しながらMENU [JOG] ボタンを押して、ジョグ再生モードにします。本体のPLAYボタンとPAUSE [CALL] ボタンが点滅し、ホーム画面 TRACK モード表示のトラック経過時間表示に10msec単位の値が表示されます。



10msec単位表示

2. MULTI JOGダイヤルを回して、サーチを行います。
3. ジョグ再生モードを終了したい場合は、STOPボタン / PLAYボタン / PAUSE [CALL] ボタンのいずれかのボタンを押すと、押したボタンの動作（停止、サーチ位置からの再生、サーチ位置での再生待機状態）に移行します。

プログラム再生

あらかじめプログラムを設定することにより、希望のトラックを希望の順に再生することができます。最大99トラックまでプログラムすることができます。

プログラムを設定する

以下の手順でプログラムを設定することができます。

1. 停止中に、再生モードの設定を **PROGRAM** に設定します。(→ 31ページ「再生モードを設定する」)
2. **MULTI JOG**ダイヤルを回してプログラムするトラック番号を入力し、**MULTI JOG**ダイヤルを押して確定します。
トラックがプログラムに登録されます。
3. 手順2.を繰り返して、希望のトラックを順次、プログラムに登録します。
画面には、プログラム番号とトータル時間が表示されます。

メモ

- 同じトラックを繰り返しプログラムすることも可能です。
 - **SHIFT**ボタンを押しながら**KEY [EDIT]** ボタンを押すと、最後にプログラムしたトラックがプログラムから削除されます。
 - 100曲以上をプログラムしようとする、警告メッセージ「**PROGRAM FULL**」がポップアップ表示されます。プログラムできるのは99曲までです。
 - プログラムしたトラックの総再生時間が99時間59分59秒を超えると、「--:--:--」と表示されます。
4. **PLAY**ボタンを押して、プログラム再生を始めます。

メモ

- 再生モードの設定が **PROGRAM** のとき、トラックが1つもプログラム登録されていない場合は再生が行われません。
- 再生モードを切り換えると、プログラム登録データがクリアされます。
- 停止中に**STOP**ボタンを押すと、全てのプログラム登録データがクリアされます。
- 本体の電源を切ると、プログラム登録データがクリアされます。

ピッチコントロール機能を使う

ピッチコントロール機能を使って、ピッチ（音の高さと再生の速さ）を変化させて再生できます。

ピッチコントロール機能をオン/オフする

1. ホーム画面を表示中に**PITCH [BROWSE]** ボタンを押してピッチ設定ウィンドウをポップアップ表示し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してピッチコントロール機能をオン/オフします。



2. **MENU [JOG]** ボタンまたは**PITCH [BROWSE]** ボタンを押してピッチ設定ウィンドウを閉じ、設定を終了します。

メモ

- ピッチコントロール機能の設定状態が、ホーム画面の右上部に表示されます。



- 再生中にピッチコントロール機能のオン/オフを切り換えると、再生音が瞬間的に途切れることがあります。

ピッチを設定する

1. **PITCH [BROWSE]** ボタンを押して、ピッチ設定ウィンドウをポップアップ表示します。
2. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、ピッチを設定します。



選択範囲：-16 % ~ +16.0 % (初期値：0.0 %、1%刻み)

3. **MENU [JOG]** ボタンまたは**PITCH [BROWSE]** ボタンを押してピッチ設定ウィンドウを閉じ、設定を終了します。

メモ

- **MULTI JOG**ダイヤルを押し回すと、ピッチの値が0.1%ずつ変化します。
- ピッチコントロール機能をオフにしても、設定したピッチは保持されますので、再度ピッチコントロール機能をオンにすると有効になります。

ヒント

キーコントロール機能とピッチコントロール機能を併用することにより、音の高さを変えずにスピードだけを変えることができます。(→ 34ページ「キーコントロール機能を使う」)

キーコントロール機能を使う

キーコントロール機能を使って、再生時のキー（音の高さ）を変えることができます。

キーコントロール機能をオン/オフする

1. ホーム画面を表示中にKEY [EDIT] ボタンを押してキー設定ウィンドウをポップアップ表示し、MULTI JOGダイヤルを押してキーコントロール機能をオン/オフします。



2. MENU [JOG] ボタンまたはKEY [EDIT] ボタンを押してキー設定ウィンドウを閉じ、設定を終了します。

注意

- キーコントロール機能の設定状態が、ホーム画面の右上部に表示されます。



- キーコントロール機能を使用しているときに再生音が震えているように聞こえることがありますが、これは再生音を特殊処理しているために発生するもので、故障ではありません。

キーを設定する

1. KEY [EDIT] ボタンを押して、キー設定ウィンドウをポップアップ表示します。
2. MULTI JOGダイヤルを回して、キーを設定します。



選択範囲：b6 ~ b1、0（初期値、音程の変化無し）、#1 ~ #6

3. MENU [JOG] ボタンまたはKEY [EDIT] ボタンを押してキー設定ウィンドウを閉じ、設定を終了します。

ヒント

キーコントロール機能とピッチコントロール機能の両方をオンにすると、キー（音程）はキーコントロール機能で決まり、スピードはピッチコントロール機能で決まります（つまり、ピッチコントロールでピッチを変えても、それによって音程が変わることはありません）。したがって、キーを0に設定してキーコントロール機能をオンにしておくと、ピッチコントロールを使って音程を変えずに再生スピードだけを変えることができます。

リピート再生機能を使う

再生対象の全トラックを繰り返し再生する、またはトラック内の任意の区間を繰り返し再生（A-Bリピート再生）することができます。

通常のリピート再生の設定

リピート再生機能をオンにすると、再生モードの設定によって以下の動作を行います。

再生モードの設定	内容
CONTINUE	PLAY AREA 画面で設定された再生範囲内を繰り返し再生
SINGLE	現在のトラックを繰り返し再生
PROGRAM	プログラム全体を繰り返し再生
RANDOM	PLAY AREA 画面で設定された再生範囲内をランダムに繰り返し再生

リピート再生機能をオンにするには、以下の手順で行います。

1. PLAY 1 ページの REPEAT 項目を選択し、REPEAT 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



2. リピート機能のオン/オフを設定します。
選択肢：OFF（初期値）、ON
3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

A-Bリピート再生の設定

トラック内の任意の区間（A-B）を指定して、繰り返し再生することができます。以下の手順でA-Bリピート再生を行います。

1. 再生待機中または再生中に、リピート再生区間の始点（A）にしたい位置で、SHIFTボタンを押しながら◀◀ [A-B] ボタンを押します。
ホーム画面に「-- A-B Repeat --」と「A-」をポップアップ表示します。



2. リピート再生区間の終点（B）にしたい位置で、再度SHIFTボタンを押しながら◀◀ [A-B] ボタンを押します。
ホーム画面に「-- A-B Repeat --」と「A-B」をポップアップ表示します。



これで設定した区間（A-B）が確定し、A-Bリピート再生が始まります。

メモ

- 本体またはリモコンのSTOPボタンを押して停止状態にすると、指定した区間 (A-B) は消去されます。
- トラックを跨いでのA-Bリピート再生はできません。

オートキュー機能を使う

オートキュー機能をオンにすると、トラックを選択したときに、トラック冒頭の無音部分をスキップしてトラックの実際の「信号」が立ち上がる位置で再生待機状態になります。そのため、再生を始めた直後に音が出ます。

また、オートキュー機能動作時におけるオーディオ信号検出のスレッシュホールドレベル (=オートキューレベル) を設定することができます。すなわち、本機はオートキューレベル以上の信号を「信号」、オートキューレベル以下の信号を「無音」として扱います。

メモ

オートキュー機能がオンのとき、再生中にトラックを選択した場合は、トラックの音声が入り上がる位置から再生します。再生待機中にトラックを選択した場合は、音声が入り上がる位置で再生待機状態になります。

PLAY 1 ページの AUTO CUE 項目を選択し、AUTO CUE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

**メモ**

AUTO CUE 画面表示中に ◀◀ [A-B] ボタン / ▶▶ [INPUT] ボタンを押すと、カーソルが設定項目間を移動します。

オートキュー機能のオン/オフ設定

MODE 項目を選択し、オートキュー機能のオン/オフを設定します。

選択肢: OFF (初期値)、ON

オートキューレベルの設定

LEVEL 項目を選択し、オートキューレベルを設定します。

選択肢: -72dB、-66dB、-60dB、-54dB (初期値)、-48dB、-42dB、-36dB、-30dB、-24dB

メモ

オートキュー機能の設定がオンのとき、再生画面の設定状態表示部に **AUTO CUE** アイコンが表示されます。

オートレディ機能を使う

オートレディ機能をオンにすると、トラックの再生が終了したあと、次のトラックの先頭で再生待機状態になります。

1. PLAY 1 ページの AUTO READY 項目を選択し、AUTO READY 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. オートレディ機能のオン/オフを設定します。

選択肢: OFF (初期値)、ON

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

- オートレディ機能の設定がオンのとき、再生画面の設定状態表示部に **AUTO READY** アイコンが表示されます。
- オートキュー機能もオンになっている場合は、トラックの先頭ではなく、音の立ち上がり位置で再生待機状態になります。
- フラッシュスタート機能で再生するときには、オートレディ機能は働きません。

インクリメンタルプレー機能を使う

インクリメンタルプレー機能をオンにすると、再生中に本体またはリモコンのPLAYボタンを押したときに次のトラックの先頭から再生を行い、再生中に本体またはリモコンのSTOPボタンを押したときに次のトラックの先頭で再生待機状態になります。

1. PLAY 2 ページの INCREMENTAL PLAY 項目を選択し、INCREMENTAL PLAY 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. インクリメンタルプレー機能のオン/オフを設定します。

選択肢: OFF (初期値)、ON

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

- インクリメンタルプレー機能の設定がオンのとき、再生画面の設定状態表示部に **INC. PLAY** アイコンが表示されます。
- インクリメンタルプレー機能オンのとき、再生待機中に本体またはリモコンのPLAYボタンを押すと、その位置から再生を開始します。再生待機中に本体またはリモコンのSTOPボタンを押すと停止します。なお、最終トラックを再生中に本体またはリモコンのPLAYボタンを押すと再生対象の先頭のトラックから再生を行い、本体またはリモコンのSTOPボタンを押すと再生対象の先頭のトラックで再生待機状態になります。

モノラルで再生する

ステレオのオーディオファイルをモノラルで再生することができません。このとき、トラックのL/Rチャンネルの信号がミックスされて、L/R出力チャンネルから出力されます。

1. **PLAY 2** ページの **MONO MIX** 項目を選択し、**MONO MIX** 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. モノラル再生機能のオン/オフを設定します。
選択肢：OFF (初期値)、ON
3. 設定を確認し、メニュー画面に戻ります。

ダッキング機能を使う

ダッキング機能が動作していると、本機は入力信号とレコーダー再生信号をミックスして出力します。

PLAY 2 ページの **DUCKING** 項目を選択し、**DUCKING** 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



メモ

- **DUCKING** 画面表示中に **<< [A-B]** ボタン / **>> [INPUT]** ボタンを押すと、カーソルが設定項目間を移動します。
- ダッキング動作中は、**PARALLEL**端子からダッキングタリー信号を出力します。

入カソース表示

選択した入カソース名を表示します。(→ 56ページ「入カソースを選択する」)

ダッキング機能の動作モードの設定

MODE 項目を選択し、ダッキング機能の動作モードを設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	ダッキング機能が無効です。
ATT. INPUT	レコーダー再生信号のレベルが THRESHOLD 項目の設定レベルを超えたときにアナログ入力信号を ATTENUATION 項目の設定レベル分減衰させます。
ATT. PLAYBACK	入力信号のレベルが THRESHOLD 項目の設定レベルを超えたときにレコーダー再生信号を ATTENUATION 項目の設定レベル分減衰させます。

ダッキング動作のスレッシュホールドレベル設定

THRESHOLD 項目を選択し、ダッキング動作のスレッシュホールドレベルを設定します。

選択肢：-30dBFS、-24dBFS、-18dBFS、-12dBFS、-6dBFS (初期値)

ダッキング動作のアッテネーション (減衰) レベルを設定

ATTENUATION 項目を選択し、ダッキング動作のアッテネーション (減衰) レベルを設定します。

選択肢：-INFINITY、-24dB、-18dB、-12dB、-9dB、-6dB、-3dB (初期値)

信号がスレッシュホールドを下回ってからダッキングがオフになるまでの時間設定

RELEASE TIME 項目を選択し、信号がダッキング動作のスレッシュホールドレベルを下回ってからダッキング機能をオフにするまでの時間を設定します。

選択肢：0.1sec (初期値)、0.5sec、1.0sec、1.5sec、2.0sec、2.5sec、3.0sec、3.5sec、4.0sec、4.5sec、5.0sec

EOM機能を使う

EOM機能をオンにしておくと、トラックまたは再生対象の残り時間が設定した時間以下になるとPARALLEL端子からEOMタリー信号を出力します。

EOMタリー出力のトリガーを設定する

1. **PLAY 2** ページの **EOM TRACK** 項目または **EOM MEDIA** 項目を選択します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



EOM TRACK : トラックの残り時間をトリガーにする
EOM MEDIA : 再生対象の残り時間をトリガーにする

2. EOMタリー信号を出力するトリガーとなるトラックの残り時間または再生対象の残り時間を設定します。

選択肢 : OFF (初期値)、0sec ~ 99sec (秒、1sec ステップ)

メモ

EOM TRACK 項目を 0s に設定したときは、トラック終了時に約 100ms のパルスを出力します。

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

実際の使用方法

1. EOMタリー信号を受信する機器を、PARALLEL端子に接続します。
2. 本機および受信機器の電源を入れます。
3. 本機の再生を始めます。

再生中のトラックまたは再生対象の残り時間が設定された時間以下になると、PARALLEL端子からEOMタリー信号が出力されます。トラックおよび再生対象の残り時間が両方ともトリガーとして設定されている場合は、どちらかの条件を満たした時点でEOMタリー信号が出力されます。

リジューム再生機能を使う

リジューム再生機能をオンにすると、前回再生を停止した位置（リジュームポイント）から再生を開始することができます。リジュームポイントは、以下の操作を行うと消去されます。

- カレントメディアを取り出す
- 再生対象を切り換える
- 再生モードを切り換える
- カレントメディアの内容を変更する（録音、編集、消去など）

リジューム再生機能のオン/オフ設定は、メニューを使って行います。

1. **PLAY 3** ページの **RESUME** 項目を選択し、**RESUME** 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. リジューム再生機能のオン/オフを設定します。

選択肢 : OFF、ON (初期値)

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

- 再生可能なトラックが存在しない場合（再生モードの設定がPROGRAM のとき）、カウンター表示が全てゼロ表示となります。
- リジュームポイントが存在しない（リジュームポイントとして登録されている時間が存在しない）場合は、再生対象のトラックの先頭がリジュームポイントになります。

タイムスキップ機能を使う

再生待機中または再生中、現在位置の前後にタイムスキップ機能で指定した時間分スキップすることができます。

再生待機中または再生中に本体の ◀◀ [A-B] / ▶▶ [INPUT] ボタン（リモコンの ◀◀ [I◀◀] / ▶▶ [▶▶I] ボタン）を押すと、現在の位置からタイムスキップ機能で指定した時間分スキップします。タイムスキップ後の動作は、タイムスキップ前の動作にしたがいます。

1. **PLAY 3** ページの **TIME SKIP** 項目を選択し、**TIME SKIP** 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



2. タイムスキップ機能にてスキップする時間を設定します。
設定値：OFF、1sec ~ 60sec（初期値、1sec 刻み）、5min、10min

メモ

タイムスキップ機能設定が OFF のときは、スキップを行いません。

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

- トラックの先頭からタイムスキップ機能で指定した時間未満の位置で本体の ◀◀ [A-B] ボタン（リモコンの ◀◀ [I◀◀] ボタン）を押した場合、現在のトラックの先頭にタイムスキップします。
- トラックの先頭から1秒未満の位置で本体の ◀◀ [A-B] ボタン（リモコンの ◀◀ [I◀◀] ボタン）を押した場合、前のトラックの終わりからタイムスキップ機能で指定した時間より前の位置にタイムスキップします。
- カレントメディアまたはプログラムの先頭トラックの場合、現在のトラックの先頭で再生待機状態になります（再生モードの設定が **RANDOM** のとき、トラックの先頭からタイムスキップ機能で指定した時間未満の位置で本体の ◀◀ [A-B] ボタン（リモコンの ◀◀ [I◀◀] ボタン）を押した場合も、トラックの先頭にタイムスキップします）。
- トラックの残り時間が、タイムスキップ機能で指定した時間未満の位置で本体の ▶▶ [INPUT] ボタン（リモコンの ▶▶ [▶▶I] ボタン）を押した場合、次のトラックの先頭にタイムスキップします。ただし、カレントメディアまたはプログラムの最終トラックの場合、現在のトラックの最後で再生待機状態になります。

再生を開始するタイミングを設定する

本機が再生待機の状態、外部コントローラーのフェーダーを下げた状態（-∞）から上げたときの再生を開始するタイミングを設定することができます。

1. **PLAY 3** ページの **FADER DELAY** 項目を選択し、**FADER START DELAY** 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



2. 再生を開始するタイミングの設定します。
設定値：OFF（初期値）、100msec、200msec、300msec
3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

出力する音声のサンプリングレートを設定する

ファイルのサンプリングレートに関係なく、設定したサンプリングレートで音声を入力することができます。

1. **PLAY 3** ページの **OUTPUT RATE** 項目を選択し、**OUTPUT RATE** 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



2. 出力する音声のサンプリングレートを設定します。

選択肢	内容
AUTO（初期値）	ファイルのサンプリングレートにしたがいます。
44.1kHz	44.1kHzに変換し出力します。
48kHz	48kHzに変換し出力します。
96kHz	96kHzに変換し出力します。
EXTERNAL	入力ソースのクロックに同期したサンプリングレートにしたがいます。アナログ入力設定の場合は、AUTO となります。

メモ

EXTERNAL 設定で外部クロックに同期できない場合は、ファイルのサンプリングレートにしたがいます。

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

IF-DA2（Dante）から出力する音声のサンプリングレートは、この設定に関わらず、IF-DA2の動作サンプリングレートにしたがいます。

コール機能を使う

コール機能とは、コールポイント（再生待機状態から最後に再生を開始したポイント）に戻って、再生待機状態にする機能です。再生待機中にPAUSE [CALL] ボタンを押すと、最後に再生待機状態から再生を開始したポイントに戻って再生待機状態になります。コールポイントは、以下の操作を行うと消去されます。

- 電源を切る
- カレントメディアを取り出す
- 再生対象を切り換える
- 再生モードを切り換える
- カレントメディアの内容を変更する（録音、編集、消去など）

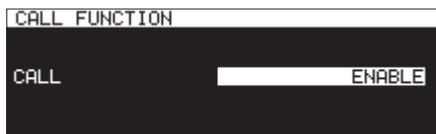
メモ

- コールポイントが設定されていないときに、PAUSE [CALL] ボタンを押すと、警告メッセージ「No Call Point」がポップアップ表示されます。
- 再生モードの設定が PROGRAM または RANDOM のとき、コール機能を使用できません。

コール機能の設定

再生待機中にPAUSE [CALL] ボタンを押すと、コールポイントをサーチして再生待機になります。

1. PLAY 3 ページの CALL 項目を選択し、CALL FUNCTION 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



2. コール機能のオン/オフを設定します。

選択肢

- DISABLE : コール機能を使用しない
 ENABLE (初期値) : コール機能を使用する

メモ

CALL FUNCTION 画面の設定が DISABLE のとき、コールポイントをサーチしません。

3. 設定を確認し、メニュー画面に戻ります。

リンク再生機能を使う

リンク再生機能を使うことにより、マスター側での再生操作をスレーブ側でリンクすることができます。

スレーブ側を再生のバックアップとして使用できます。

リンクする操作は、再生/再生待機/停止/トラックスキップ/サーチです。ただし、操作に対する動作の同期を保証するものではありません。

動作のズレを小さくするためには、極力マスターとスレーブでは同じメーカーの同じ種類のメディアで内容を同じにして使用してください。また、再生設定（オートキュー機能やオートレディ機能など）の設定やフラッシュロードの状況なども合わせてください。

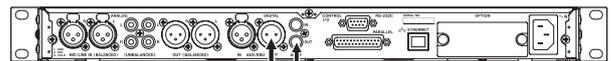
クロック同期はしませんので、長時間再生を続けていると再生時間が若干ズレる可能性があります。また、リンク再生機能を使用中はリンク機能で、使用しているデジタル端子の音声入出力は使用できません。

リンク再生の接続

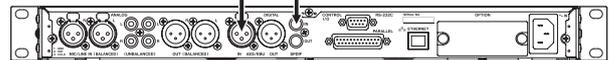
マスター側のデジタル出力端子とスレーブ機のデジタル入力端子を接続します。

SPDIF IN / OUT端子 (RCA) またはAES/EBU IN / OUT端子 (XLR) のどちらかを選び、接続してください。

マスター機



スレーブ機



リンク再生の設定

UTILITY ページの LINK PLAY 項目を選択し、LINK PLAY 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



メモ

LINK PLAY 画面表示中に ◀◀ [A-B] ボタン / ▶▶ [INPUT] ボタンを押すと、カーソルが設定項目間を移動します。

リンク再生モードの設定

MODE 項目を選択し、リンク再生時のマスター機/スレーブ機を設定します。

選択肢：OFF (初期値)、MASTER、SLAVE

リンク再生する端子の設定

TERMINAL 項目を選択し、リンク再生する端子を設定します。

選択肢	内容
COAXIAL (初期値)	SPDIF IN / OUT端子で接続
XLR	AES/EBU IN / OUT端子で接続

フラッシュスタート機能を使う

フラッシュスタート機能を使って、あらかじめ登録しておいたトラックを瞬時に再生開始することができます。

最大96トラックの開始位置をあらかじめメモリーに取り込み、本機のフロントパネルに接続したUSBキーボード、リアパネルのPARALLEL端子に接続した外部機器からの操作、または別売のポン出しリモートコントロールユニット (TASCAM RC-SS150) からの操作で、瞬時に再生を開始することができます。

1. 再生対象を設定します。(→ 30ページ「再生対象」)
フラッシュスタートしたいトラックを登録したプレイリスト、またはフォルダーを現在の再生対象に設定します。
2. 再生モードの設定を **CONTINUE** または **PROGRAM** に設定します。(→ 31ページ「再生モードを設定する」)

メモ

再生モードの設定を **RANDOM** に設定すると、フラッシュロードを行うことができません。

3. 停止中に、本体の**SHIFT**ボタンを押しながら**STOP [LOAD]** ボタンを押す (SS-CDR250Nのみ)、または外部コントローラーのフラッシュロードボタンを押します。
本機が再生対象内のトラック開始位置のデータを次々と読み込みます。
再生モードの設定が **CONTINUE** の場合は先頭トラックから順次読み込み、再生モードの設定が **PROGRAM** の場合はプログラム順に読み込みます。
読み込み中、ホーム画面にメッセージ「Loading Flash Play Data」がポップアップ表示されます。
読み込みを完了すると、ホーム画面に **FLASH LOAD** アイコンが表示されます。

メモ

- 再生モードの設定が **RANDOM** のとき、本体の**SHIFT**ボタンを押しながら**STOP [LOAD]** ボタンを押す (SS-CDR250Nのみ)、または外部コントローラーのフラッシュロードボタンを押すと警告メッセージ「Cannot Select」がポップアップ表示され、データの読み込みを行いません。
- 再生モードの設定が **SINGLE** のとき、本体の**SHIFT**ボタンを押しながら**STOP [LOAD]** ボタンを押す (SS-CDR250Nのみ)、または外部コントローラーのフラッシュロードボタンを押すと、再生モードの設定が **CONTINUE** と同じように再生対象内の先頭トラックから次々と読み込みます。

4. ホーム画面に **FLASH LOAD** アイコンを表示中、本機のフロントパネルに接続したUSBキーボード、または本機のPARALLEL端子に接続した外部機器を使って、フラッシュスタートを行います。
USBキーボードからは、Ctrl + ファンクションキー (F1 ~ F12) を使って、トラック1 ~ 12までのフラッシュスタートを行うことができます。(→ 97ページ「キーボード操作一覧」)
PARALLEL端子を使う場合は、トラック1 ~ 20までのフラッシュスタートを行うことができます。(→ 15ページ「PARALLEL端子について」)

ヒント

再生対象を **PLAYLIST** に設定し、フラッシュスタートしたいトラックのみを登録したプレイリストをカレントプレイリストとして選択することにより、希望トラックのフラッシュスタート設定を効率的に行うことができます。(→ 30ページ「再生対象」)、(→ 50ページ「第7章 プレイリストの編集 (USBメモリー / SDカードのみ)」)

第5章 フォルダーやファイルの操作 (BROWSE画面)

本機は、SDカード／USBメモリー上のオーディオファイルをフォルダー構造で管理することができます。また、MP3ファイルやWAVファイルを記録したデータCDをフォルダー構造で管理することができます。(→ 49ページ「第6章 オーディオCDのBROWSE画面の操作 (SS-CDR250Nのみ)」)

BROWSE 画面から操作対象のフォルダーまたはファイルを選択し、フォルダーまたはファイルのメニューをポップアップ表示することができます。

SDカード／USBメモリーの場合、メニューからフォルダーの作成、フォルダーやファイルの名前編集と削除、ファイルのプレイリスト登録などを行うことができます。また、BROWSE 画面からの直接操作によって、フォルダーやファイルのフォルダー間の移動やコピーを行うことができます。

MP3ファイルやWAVファイルを記録したデータCDの場合、BROWSE 画面での編集やプレイリスト登録はできません。ただし、未ファイナライズのデータCDの場合は、BROWSE 画面でフォルダーの作成ができます。

なお、オーディオCDの場合、オーディオCDの BROWSE 画面を表示します。(→ 49ページ「オーディオCDのBROWSE画面を開く」)

メモ

- パソコンでSDカード／USBメモリーの内容を読み込むことにより、フォルダー構成の変更、フォルダー名／ファイル名の編集、フォルダー／ファイルの削除などをパソコンから行うことができます。
- パソコンで編集を行った場合は、本機でのファイル再生順が編集以前と変わる場合があります。

オーディオCDとデータCDのBROWSE画面のできることの違い

- データCDは、トラック名の編集ができない。
- ファイナライズされていないオーディオCDは、トラック名 (CD-TEXT) が編集できる。
- データCDにはフォルダーを作成できるが、オーディオCDにはフォルダーを作成できない。

CDとUSBメモリー／SDカードのBROWSE画面のできることの違い

- データCDでは、フォルダー／ファイルの編集操作ができない。
- オーディオCDでは、ファイナライズされているとトラック名の編集ができない。
- データCDでは、ファイナライズされているとフォルダーを作成できない。
- CDのトラックは、プレイリスト登録できない。

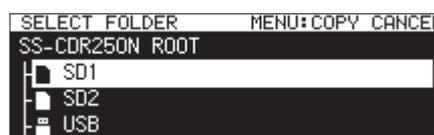
BROWSE画面を開く

以下の操作は、例としてSDカードが挿入され、カレントメディアに「SD1」が選択されていることを前提としています。(→ 28ページ「メディアを選択する」)

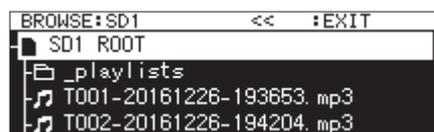
再生対象が「ALL」または「FOLDER」の場合は、停止中／再生待機中／再生中にSHIFTボタンを押しながらPITCH [BROWSE] ボタンを押すと、BROWSE 画面が表示されます。(→ 30ページ「再生対象」)

初回は、カレントメディアのカレントフォルダーの内容が表示されます。

2回目以降は、最後に表示したメディア／フォルダーの内容が表示されます。



[BROWSE 画面メディア選択表示]



[BROWSE 画面 SD1 ROOT 階層表示]

メモ

メディア選択画面に戻るには、メディアのROOT階層画面でMENU [JOG] ボタンまたは◀ [A-B] ボタンを押します。

BROWSE画面内のナビゲーション

BROWSE 画面には、パソコンにおけるファイルのリスト表示のように、フォルダーや音楽ファイルがリスト表示されます。

BROWSE 画面が表示されているとき、MULTI JOGダイヤルおよび ◀◀ [A-B] / ▶▶ [INPUT] ボタン (リモコンの F3 / F4 ボタン および ◀◀ [I◀◀] / ▶▶ [▶▶I] ボタン) を使って、操作対象のフォルダーやファイルを選択します。

- MULTI JOGダイヤルを押して、フォルダーメニューやファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 43ページ「フォルダーの操作」)、(→ 44ページ「ファイルの操作」)
- MULTI JOGダイヤルを回す、またはリモコンの F3 / F4 ボタンを押して、同フォルダー内でのフォルダー／ファイルの選択をします。
- 本体の ◀◀ [A-B] ボタン (リモコンの ◀◀ [I◀◀] ボタン) を押すと上位の階層に、2行目以下でフォルダーを選択中に本体の ▶▶ [INPUT] ボタン (リモコンの ▶▶ [▶▶I] ボタン) を押すと下位の階層に移動できます。また、フォルダーの選択中に MULTI JOGダイヤルを押してポップアップ表示されるフォルダーメニューの EXIT 項目または ENTER 項目を選択することでも階層に移動できます。BROWSE 画面の1行目を選択時は、EXIT 項目が表示されて上位の階層に、2行目以下を選択時は、ENTER 項目が表示されて下位の階層に移動します。
- HOME [INFO] ボタン (リモコンの F2 ボタン) を押すと、ホーム画面に戻ります。
- MENU [JOG] ボタンを押すと、メニュー画面に切り換わります。
- フォルダーやファイルを選択中に本体またはリモコンの PLAY ボタンを押すと、ホーム画面に戻り選択したフォルダーやファイルが再生されます。
再生対象が FOLDER の場合は、選択中のフォルダーがカレントフォルダーになります。
- フォルダーやファイルを選択中に PAUSE [CALL] ボタンを押すとホーム画面に戻り、そのフォルダーやファイルの先頭で再生待機状態となります。
再生対象が FOLDER の場合は、選択中のフォルダーがカレントフォルダーになります。
- フォルダーやファイルを選択中に SHIFT ボタンを押すと、選択したファイル名やフォルダー名が表示しきれていない場合にスクロール表示します。

BROWSE画面内のアイコン表示

以下に BROWSE 画面内のアイコン表示を説明します。

メディアアイコン

選択したメディア (□ / ■ / ⊙ / 田) アイコンに続いて、「ROOT」と表示されます。

- アイコン：SDカード
- アイコン：USBメモリー
- ⊙ アイコン：CD
- 田 アイコン：FTP

プレイリスト

田 アイコンに続いて、ファイル名が表示されます。カレントプレイリストは、田 アイコンが表示されます。

フォルダー

田 アイコンに続いて、ファイル名が表示されます。カレントフォルダーは、田 アイコンが表示されます。

オーディオファイル

田 アイコンに続いて、音楽ファイル名が表示されます。

その他のファイル

田 アイコンに続いて、ファイル名が表示されます。

メモ

BROWSE 画面でCDの内容を表示する際は、カレントメディアを「CD」にしてください。

フォルダーの操作

BROWSE 画面内の希望のフォルダーを選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してフォルダーメニューをポップアップ表示します。



MULTI JOGダイヤルを回して希望の項目を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

メモ

- SDカード / USBメモリーの場合は、フォルダーメニューの全ての機能を実行することができます。データCDの場合は、一部の機能だけ実行することができます。
- プロテクトされているSDカードがセットされているとき、**RENAME** 項目、**DELETE** 項目、**CREATE FOLDER** 項目の操作はできません。(→ 27ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」)

ENTER / EXIT

ENTER 項目表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、選択中のフォルダー内に移動し、リストを表示します。

EXIT 項目表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、選択中のフォルダーを閉じて上の階層に移動します。

RENAME

RENAME 画面が表示され、選択したフォルダー名を編集します。(→ 45ページ「フォルダー名 / ファイル名を編集する」)

DELETE

選択したフォルダーを削除します。(→ 45ページ「フォルダー / ファイルを削除する」)

UNDO

フォルダーやファイルを削除した直後であれば、削除を取り消すことができます。(→ 72ページ「エディットメニューの操作を取り消す (UNDO)」)

COPY

選択したフォルダーをコピーします。(→ 47ページ「フォルダー / ファイルをコピーする」)

MOVE

選択したフォルダーを移動します。(→ 48ページ「フォルダー / ファイルを移動する」)

SORT BY TIME

表示中のフォルダーやファイルを作成日付順に並び替えます。

メモ

CDでは、並び替えはできません。

SORT BY NAME

表示中のフォルダーやファイルを名前順に並び替えます。

メモ

CDでは、並び替えはできません。

SET TO CURRENT FOLDER

選択したフォルダーをカレントフォルダーに設定します。

GO TO CURRENT FOLDER

カレントフォルダーに移動します。

メモ

- カレントフォルダーとは
 - 再生範囲が **FOLDER** のときの再生対象
 - 録音ファイルの格納先
 - タイマーイベント機能のダウンロードイベントによるファイルのダウンロード先のフォルダーです。
- 録音ファイルを取納するための新規フォルダーを作成した場合は、上記の手順で新規フォルダーをカレントフォルダーにすることができます。

CREATE FOLDER

新しいフォルダーを作ります。(→ 47ページ「新しいフォルダーを作成する」)

INFO

選択したフォルダーの情報 (総ファイル数、トータル時間 / 総容量、最終更新日) がポップアップ表示されます。



CANCEL

フォルダーメニューを閉じます。

メモ

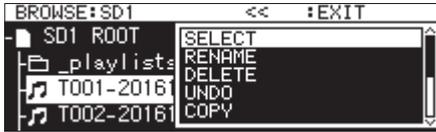
下記フォルダーメニュー項目は、**CREATE FOLDER** 操作で新規にフォルダーを作成した場合に表示されます。

- **RENAME**
- **DELETE**
- **UNDO**
- **MOVE**

第5章 フォルダーやファイルの操作 (BROWSE画面)

ファイルの操作

BROWSE 画面内の希望のオーディオファイルを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。



MULTI JOGダイヤルを回して希望の項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

メモ

- SDカード／USBメモリーの場合は、ファイルメニューの全ての機能を実行することができます。CDの場合は、一部の機能だけ実行することができます。
- プロテクトされているSDカードがセットされているとき、RENAME 項目、DELETE 項目、ASSIGN to PLAYLIST 項目、COPY 項目の操作はできません。(→ 27ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」)

SELECT

選択したファイルをカレントトラックとして選択します。

RENAME

RENAME 画面が表示され、選択したファイル名を編集します。(→ 45ページ「フォルダー名／ファイル名を編集する」)、(→ 49ページ「CD-TEXTを編集する(CD-R / CD-RWディスクのみ)」)

DELETE

選択したファイルを削除します。(→ 45ページ「フォルダー／ファイルを削除する」)

UNDO

フォルダーやファイルを削除した直後であれば、削除を取り消すことができます。(→ 45ページ「フォルダー／ファイルを削除する」)

COPY

選択したファイルを別のフォルダーコピーします。(→ 47ページ「フォルダー／ファイルをコピーする」)

MOVE

選択したファイルを移動します。(→ 48ページ「フォルダー／ファイルを移動する」)

ASSIGN to PLAYLIST

選択したファイルをカレントプレイリストの希望の位置に追加します。(→ 46ページ「ファイルをプレイリストに登録する」)

SORT BY TIME

表示中のフォルダーのファイルを作成日付順に並び替えます。

メモ

CDでは並び替えはできません。

SORT BY NAME

表示中のフォルダーのファイルをファイル名順に並び替えます。

メモ

CDでは並び替えはできません。

INFO

選択したファイルの情報（ファイル形式、サンプリング周波数など）がポップアップ表示されます。

CANCEL

ファイルメニューを閉じます。

メモ

下記操作はPLAY MODE がCONTINUE に設定されている場合のみ有効です。

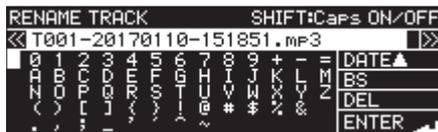
- RENAME / DELETE / UNDO / COPY / MOVE / SORT BY TIME / SORT BY NAME

フォルダー名／ファイル名を編集する

メモ

データCDまたはファイナライズされたオーディオCDでは、フォルダー名／ファイル名の編集はできません。

1. 名前を編集するフォルダー／ファイルを選択し、フォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 43ページ「フォルダーの操作」)、(→ 44ページ「ファイルの操作」)
2. **RENAME** 項目を選択し、**RENAME FOLDER** 画面または **RENAME TRACK** 画面または **RENAME FILE** 画面を表示します。



[ファイル名編集時の表示]

3. 名前を編集します。
名前の編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。
4. 名前の編集が終了したら **ENTER** を選択後、名前を確定します。「**RENAMING...**」がポップアップ表示され、名前が編集されます。名前を編集後、**BROWSE** 画面に戻ります。

注意

- USBメモリー／SDカードをパソコンに接続してパソコンからファイル名を編集することもできますが、パソコンで編集を行った場合には本機でのファイル再生順が編集以前と変わる場合があります。
- 名前入力画面には、半角英数字および記号以外の文字は表示されません。半角英数字および記号以外の文字が名前に含まれていた場合は、名前入力画面を表示する際、これらの文字が除去されます。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。
/ : * ? " < > |

フォルダー／ファイルを削除する

フォルダーやファイルをSDカード／USBメモリーから削除することができます。
フォルダーを削除すると、その中に含まれるファイルも削除されます。再生モードの設定が **CONTINUE** のときのみ可能です。

メモ

CDでは、フォルダー／ファイルの削除はできません。

1. 削除したいフォルダーやファイルを選択し、フォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 43ページ「フォルダーの操作」)、(→ 44ページ「ファイルの操作」)
2. **DELETE** 項目を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押します。以下のメッセージがポップアップ表示されます。



[ファイル削除時の表示]

メモ

削除を中止するには、**MENU [JOG]** ボタンを押します。

3. **MULTI JOG**ダイヤルを押します。
再度確認のためのメッセージがポップアップ表示されます。
4. **MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、USBメモリー／SDカードから選択したフォルダーまたはファイルが削除されます。削除中は、「**Deleting Folder...**」のようにポップアップ表示され、フォルダーまたはファイルが削除されます。削除が終了すると、**BROWSE** 画面に戻ります。

メモ

フォルダーやファイルを削除した直後であれば、削除を取り消すことができます。(→ 72ページ「エディットメニューの操作を取り消す (UNDO)」)

フォルダーやファイルの削除を取り消す (UNDO)

フォルダーやファイルを削除した直後であれば、削除を取り消すことができます。

取り消し (UNDO) は、再生モードの設定が **CONTINUE** のときのみ可能です。

メモ

CDでは、取り消し (UNDO) はできません。

1. **BROWSE** 画面で**MULTI JOG**ダイヤルを押してフォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 43ページ「フォルダーの操作」)、(→ 44ページ「ファイルの操作」)
2. **UNDO** 項目を選択して、**MULTI JOG**ダイヤルを押すと確認メッセージがポップアップ表示されます。
3. **MULTI JOG**ダイヤルを押すと取り消し (UNDO) を行います。取り消し中は、実行ポップアップが表示されます。取り消し (UNDO) が終了すると、**BROWSE** 画面に戻ります。

メモ

- 取り消し (UNDO) を中止するには、**MENU [JOG]** ボタンを押します。
- 取り消し (UNDO) が可能なフォルダー／ファイルが存在しない場合は、警告メッセージ「**Cannot UNDO**」がポップアップ表示されます。

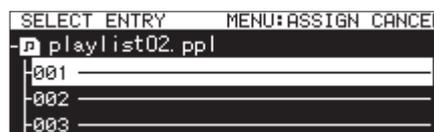
ファイルをプレイリストに登録する

ファイルをカレントプレイリストの希望の位置に登録することができます。

メモ

CDのトラックは、プレイリストに登録できません。

1. プレイリストに登録したいファイルを選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 44ページ「ファイルの操作」)
2. **ASSIGN to PLAYLIST** 項目を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、プレイリストへの登録画面を表示します。



3. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、追加するファイルのプレイリスト内のエントリー位置を選択します。
4. **MULTI JOG**ダイヤルを押して、プレイリストエントリーメニューをポップアップ表示します。



5. **ASSIGN** 項目を選択して**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、ファイルがプレイリストに追加されます。

メモ

- プレイリストには最大100のエントリーが登録できます。ただし、フラッシュ再生できるのは96エントリーまでです。詳細は、50ページ「第7章 プレイリストの編集 (USBメモリー／SDカードのみ)」を参照ください。
- 「プレイリストのこの場所にファイルを登録したい」という場合の操作手順は、54ページ「プレイリストにファイルを登録する」を参照ください。

新しいフォルダーを作成する

メモ

オーディオCDおよびファイナライズされたデータCDには、フォルダーは作成できません。

1. 新しいサブフォルダーを作成するフォルダーを選択し、フォルダーメニューをポップアップ表示します。(→ 43ページ「フォルダーの操作」)
2. CREATE FOLDER 項目を選択し、CREATE FOLDER 画面を表示します。



3. フォルダー名を入力します。
フォルダー名の入力方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。
4. フォルダー名の編集が終了したら ENTER を選択後、名前を確定します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



メモ

フォルダーの作成を中止するには、MENU [JOG] ボタンを押します。

5. MULTI JOGダイヤルを押して、新しいフォルダーを作成します。「Creating Folder...」がポップアップ表示され、新規フォルダーが作成されます。
新規フォルダーを作成後、BROWSE 画面に戻り、新規フォルダーがカレントフォルダーになります。

メモ

- 1つのSDカード／USBメモリー上に作成できるフォルダー数は、最大999個です。
- 1つのデータCD上に作成できるフォルダー数は、最大250個です。
- 2GB以下のメディアをご使用の場合は、ファイルシステムの制限によりルートフォルダーに上記の最大フォルダー数まで作成することができない場合があります(使用状況により異なります)。
- 最初に表示されるフォルダー名は、内蔵時計の年月日となります。(例: 20150301)
- 既存の名前と重複した場合には、内蔵時計の年月日に3桁の番号が追加されたものとなります。(例: 20150301_001)

フォルダー／ファイルをコピーする

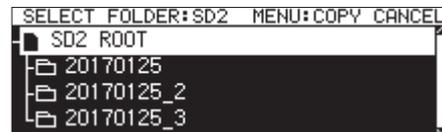
1. コピーするフォルダーやファイルを選択し、フォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 43ページ「フォルダーの操作」)、(→ 44ページ「ファイルの操作」)
2. COPY 項目を選択しMULTI JOGダイヤルを押すと、コピー先フォルダーの選択画面に切り換わります。

メモ

- FTPからFTPへのコピーはできません。
- BROWSE 画面では、CDへのコピー／CDからのコピーはできません。CDメニューの BURN TO CD/RIP TO MEMORY 項目をご利用ください。(→ 75ページ「USBメモリー／SDカードのファイルをブランクCDにコピー／変換コピーする」)、(→ 78ページ「CDのファイルをUSBメモリー／SDカードにコピー／変換コピーする」)
- 3. コピー先のフォルダーに移動します。
 - 初回コピーの際は、メディア選択画面になりますので、コピー先フォルダーが含まれるメディアを選択してコピー先フォルダーに移動します。

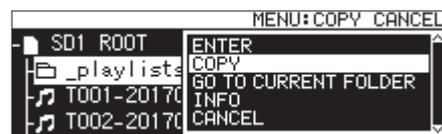


- 2回目以降は、最後に表示したコピー先フォルダーの選択画面になります。



メモ

- コピー先選択中は BROWSE 表示が SELECT FOLDER 表示の点滅に切り換わります。
- コピー先選択中にMENU [JOG] ボタンを押すと、確認メッセージ「CANCEL COPY?」がポップアップ表示されます。MULTI JOGダイヤルを押すと、コピー先フォルダーの選択画面から BROWSE 画面に戻ります。
- コピー先選択中にフォルダーメニューまたはファイルメニューの CANCEL 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、コピー先フォルダーの選択画面から BROWSE 画面に戻ります。
- 4. コピー先フォルダーを選択し、フォルダーメニューをポップアップ表示します。



第5章 フォルダーやファイルの操作 (BROWSE画面)

5. COPY 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、確認メッセージがポップアップ表示されます。



6. MULTI JOGダイヤルを押すと、コピーが実行されます。コピーを中止する場合やコピー先を変更する場合は、MENU [JOG] ボタンを押してください。

メモ

コピー先に同じフォルダー名／ファイル名が存在した際は、メッセージ「Cannot Copy Folder」／「Cannot Copy File」がポップアップ表示されます。

コピーするフォルダー名／ファイル名を変更する場合は、MULTI JOGダイヤルを押してください。

名前の入力方法は、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

MENU [JOG] ボタンを押すと、コピーを中止します。

7. コピー中は、メッセージ「COPYING Track...」がポップアップ表示されます。コピーが完了するとポップアップ表示が消えて、BROWSE 画面に戻ります。

フォルダー／ファイルを移動する

1. 移動するフォルダーやファイルを選択し、フォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 43ページ「フォルダーの操作」)、(→ 44ページ「ファイルの操作」)
2. MOVE 項目を選択しMULTI JOGダイヤルを押すと、移動先フォルダーの選択画面に切り換わります。

メモ

CD / FTPからの移動、CD / FTPへの移動はできません。

3. 選択先のフォルダーに移動します。
 - 初回移動の際は、メディア選択画面になりますので、選択先フォルダーが含まれるメディアのフォルダーを選択します。
 - 2回目以降は、最後に表示した移動先フォルダーの選択画面になります。

メモ

- 移動先選択中は BROWSE 表示が SELECT FOLDER 表示の点滅に切り換わります。
 - 移動先選択中にMENU [JOG] ボタンを押すと、確認メッセージ「CANCEL MOVE?」がポップアップ表示されます。MULTI JOGダイヤルを押すと、移動先フォルダーの選択画面から BROWSE 画面に戻ります。
 - 移動先選択中にフォルダーメニューまたはファイルメニューの CANCEL 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、移動先フォルダーの選択画面から BROWSE 画面に戻ります。
4. 移動先フォルダーを選択し、フォルダー／ファイルメニューをポップアップ表示します。
 5. MOVE 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、確認のメッセージがポップアップ表示されます。
 6. MULTI JOGダイヤルを押すと、移動が実行されます。移動を中止する場合や移動先を変更する場合は、MENU[JOG] ボタンを押してください。

メモ

移動先に同じフォルダー名／ファイル名が存在した際は、メッセージ「Cannot Move Folder」／「Cannot Move File」がポップアップ表示されます。

移動するフォルダー名／ファイル名を変更する場合は、MULTI JOGダイヤルを押してください。

名前の入力方法は、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

MENU [JOG] ボタンを押すと、移動を中止します。

7. 移動中は、「MOVING Track...」がポップアップ表示されます。移動が完了するとポップアップ表示が消えて、BROWSE 画面に戻ります。

第6章 オーディオCDのBROWSE画面の操作(SS-CDR250Nのみ)

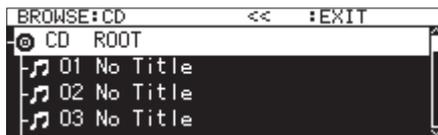
オーディオCDの場合、BROWSE 画面を使って、再生するトラックを選択することができます。また、オーディオCD形式の未ファイナライズのCD-R / CD-RWディスクの場合、CD-TEXTの編集を行うことができます。

以下の説明では、オーディオCDが挿入され、カレントメディアに「CD」が選択されていることを前提にしています。

オーディオCDのBROWSE画面を開く

停止中／再生待機中／再生中に、SHIFTボタンを押しながらPITCH [BROWSE] ボタンを押すと、オーディオCDの BROWSE 画面が表示されます。

この画面には、トラック番号順にトラックがリスト表示されます。

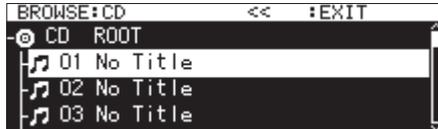


BROWSE画面を終了してホーム画面に戻るには：
HOME [INFO] ボタン（リモコンのF2ボタン）を押します。

再生するトラックを選ぶ

オーディオCDの BROWSE 画面から、以下の手順で再生するトラックを選ぶことができます。

1. BROWSE 画面を開き、再生したいトラックを反転させます。



2. PLAYボタン（リモコンのPLAYボタン）を押します。
停止中に上記操作を行うと、反転トラックの再生が始まります。
再生待機中に上記操作を行うと、反転トラックの先頭で再生待機状態になります。

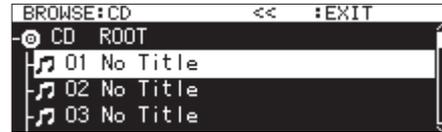
メモ

ファイルメニューの SELECT 項目で、選択したトラックをカレントトラックとして選択することもできます。

CD-TEXTを編集する (CD-R / CD-RWディスクのみ)

オーディオCD形式の未ファイナライズのCD-R / CD-RWディスクが挿入されている場合、以下の手順でCD-TEXTを編集することができます。

1. BROWSE 画面を開き、希望のトラックを反転させます。



2. MULTI JOGダイヤルを押して、ファイルメニューをポップアップ表示します。（→ 44ページ「ファイルの操作」）



3. RENAME 項目を選択し、RENAME TRACK 画面を表示します。



4. 名前を編集します。
名前の編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。
5. CD-TEXTの編集が終了したら、ENTER を選択後、編集を確定します。
CD-TEXTを編集後、BROWSE 画面に戻ります。

注意

- EJECTボタンを押すと、警告メッセージがポップアップ表示されます。CD-TEXTの編集の有効にするには、ファイナライズを行ってください。（→ 73ページ「CD-R / CD-RWディスクのファイナライズ」）
- 名前入力画面には、半角英数字および記号以外の文字は表示されません。半角英数字および記号以外の文字が名前に含まれていた場合は、名前入力画面を表示する際、これらの文字が除去されます。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。
/ : * ? " < > |

第7章 プレイリストの編集(USBメモリー / SDカードのみ)

プレイリストの編集の概要

SDカード / USBメモリーを本機に最初にセットした時点で、そのメディアに1つの空のプレイリストが自動作成されます。また、プレイリストは新規に作成することが可能です。

プレイリストの中の再生単位を「エントリー」と呼びます。

プレイリストには、最大100のエントリーが登録できます。

エントリーとして登録できるのは、プレイリストを作成したメディアに含まれるファイルだけです。

他のメディアにあるファイルは、カレントメディアにコピーしてからプレイリストに登録してください。

プレイリストを再生中でも、エントリーを登録したり、登録を解除したりすることができます。

ただし、再生中のエントリーは変更することができません。

プレイリスト画面を開く

BROWSE画面からプレイリスト画面を開く

プレイリストは、BROWSE画面から見ることができます。

本機でメディアをフォーマットした場合は、ROOTフォルダー直下の `_playlists` フォルダー内にプレイリスト `playlist01.ppl` が自動作成されます。また、`_playlists` フォルダー内に、新規にプレイリストを作成することも可能です。(→ 53ページ「新しいプレイリストを作成する」)

下記操作は、フォーマット後に自動作成されるプレイリスト `playlist01.ppl` を見る場合の例です。

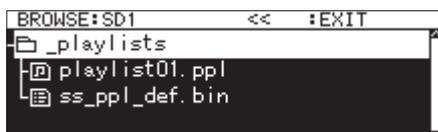
1. **SHIFT**ボタンを押しながら**PITCH [BROWSE]** ボタンを押して、**BROWSE** 画面を表示します。
2. **ROOT** フォルダーを選択している状態で**MULTI JOG**ダイヤルを回し、`_playlists` フォルダーを選択します。



3. **MULTI JOG**ダイヤルを押して、フォルダーメニューをポップアップ表示します。



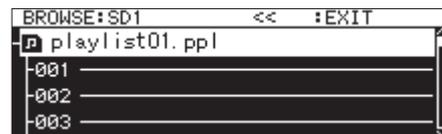
4. **ENTER** 項目を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押します。`_playlists` フォルダー内に移動し、自動作成されたプレイリスト `playlist01.ppl` が表示されます。



5. `playlist01.ppl` を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してプレイリストメニューをポップアップ表示します。



6. **ENTER** 項目 (カレントプレイリストが `playlist01.ppl` の場合) または **LOAD** 項目 (カレントプレイリストが `playlist01.ppl` 以外の場合) を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してプレイリスト `playlist01.ppl` に登録されているファイルを表示します。なお、未登録の場合は、100個の空エントリーが表示されます。

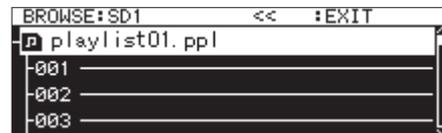


メモ

本機では、新規の場合にプレイリスト `playlist01.ppl` がカレントプレイリストとなります。また、プレイリスト `playlist01.ppl` 以外に作成したあとは、最後に開いたプレイリストがカレントプレイリストとなります。

メニューページからカレントプレイリスト画面を開く

PLAYLIST ページの **PLAYLIST EDIT** 項目を選択し、カレントプレイリストのエントリーリスト画面を表示します。



プレイリストに登録する

プレイリストにファイルを登録することができます。

詳細は、54ページ「プレイリストにファイルを登録する」をご参照ください。

プレイリストメニューの操作

プレイリストを選択している状態で**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、プレイリストメニューがポップアップ表示されます。プレイリストに対して、操作を行いたい場合の操作メニューです。

メモ

Playlists フォルダーおよびカレントプレイリストを選択してプレイリストメニューをポップアップ表示した場合は、**RENAME** 項目と **DELETE** 項目は表示されません。

LOAD

選択したプレイリストをカレントプレイリストとして読み込み、プレイリストのエントリーリスト画面に切り換えます。(→ 51ページ「カレントプレイリストを設定する」)

ENTER

選択したカレントプレイリストのエントリーリスト画面に切り換えます。

EXIT

1つ前の階層画面に移動します。エントリーリスト画面を表示中の場合は、**_playlists** フォルダーに移動します。

RENAME

プレイリストの名称変更を行います。(→ 52ページ「プレイリスト名を編集する」)

SAVE AS

カレントプレイリストを同一 **_playlists** フォルダー内に、別名で保存します。(→ 52ページ「カレントプレイリストを別名で保存する」)

DELETE

プレイリストを削除します。(→ 52ページ「プレイリストを削除する」)

COPY

選択されたプレイリストファイルをコピーします。(→ 47ページ「フォルダー / ファイルをコピーする」)

MOVE

選択したプレイリストファイルを移動します。(→ 48ページ「フォルダー / ファイルを移動する」)

CREATE PLAYLIST

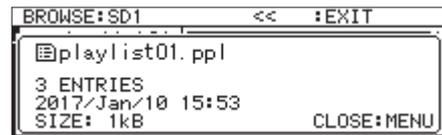
新しいプレイリストを作成します。(→ 53ページ「新しいプレイリストを作成する」)

メモ

プロテクトされているSDカードがセットされているとき、**RENAME** 項目、**DELETE** 項目、**CREATE PLAYLIST** 項目の操作はできません。(→ 27ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」)

INFO

プレイリストの情報を表示します。



CANCEL

選択中のプレイリストに関する操作を取り消し、プレイリストメニューを閉じます。

メモ

下記操作は **PLAY MODE** が **CONTINUE** に設定されている場合のみ有効です。

- **RENAME / DELETE / UNDO / COPY / MOVE / SORT BY TIME / SORT BY NAME**

カレントプレイリストを設定する

1. カレントプレイリストにしたいプレイリストを選択し、プレイリストメニューをポップアップ表示します。(→ 51ページ「プレイリストメニューの操作」)
2. **LOAD** 項目を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



メモ

プレイリストの読み込みを中止するには、**MENU [JOG]** ボタンを押します。

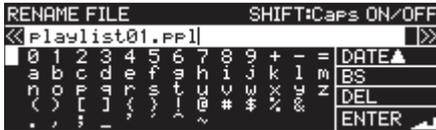
3. 再度**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、選択しているプレイリストがカレントのプレイリストとして読み込まれます。読み込み中は、「**LOADING PLAYLIST...**」がポップアップ表示されます。



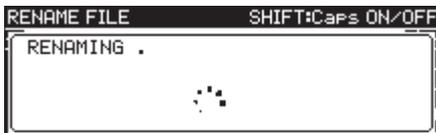
読み込みが終了すると、カレントプレイリストのエントリーリスト画面に移動します。

プレイリスト名を編集する

1. 名前を編集するプレイリストを選択し、プレイリストメニューをポップアップ表示します。(→ 51ページ「プレイリストメニューの操作」)
2. RENAME 項目を選択し、RENAME FILE 画面を表示します。



3. プレイリスト名を編集します。
プレイリスト名の編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。
4. プレイリスト名の編集が終了したら、ENTER を選択しMULTI JOGダイヤルを押して名前を確定します。
「RENAMING...」がポップアップ表示され、プレイリスト名が編集されます。



プレイリスト名を編集後、BROWSE 画面に戻ります。

カレントプレイリストを別名で保存する

1. カレントに設定されているプレイリストを選択し、プレイリストメニューをポップアップ表示します。(→ 51ページ「プレイリストメニューの操作」)
2. SAVE AS 項目を選択し、PLAYLIST NAME 画面を表示します。



3. プレイリスト名を編集し、保存します。
プレイリスト名の編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。
4. プレイリスト名の編集が終了したら、ENTER を選択しMULTI JOGダイヤルを押して名前を確定します。
「Saving File...」がポップアップ表示され、プレイリスト名が保存されます。



別名保存が終了すると、BROWSE 画面に戻ります。

プレイリストを削除する

メモ

カレントプレイリストは、削除できません。

1. 削除したいプレイリストを選択し、プレイリストメニューをポップアップ表示します。(→ 51ページ「プレイリストメニューの操作」)
2. DELETE 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



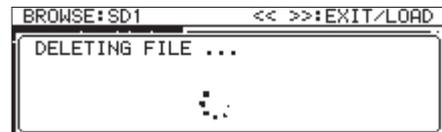
メモ

プレイリストの削除を中止するには、MENU [JOG] ボタンを押します。

3. MULTI JOGダイヤルを押すと、再度確認のためのメッセージがポップアップ表示されます。



4. 再度MULTI JOGダイヤルを押し続けると、選択しているプレイリストが削除されます。
取り消し中は「DELETING FILE...」がポップアップ表示され、プレイリストが削除されます。



削除が終了すると、BROWSE 画面に戻ります。

メモ

プレイリストを削除しても、オーディオファイルそのものは削除されません。プレイリストとして登録した情報のみ削除されます。
オーディオファイル自身を削除したい場合は、45ページ「フォルダー/ファイルを削除する」を参照してください。

新しいプレイリストを作成する

プレイlists フォルダ内に、新規にプレイリストを作成します。

1. BROWSE 画面で `_playlists` フォルダまたはプレイリストを選択し、プレイリストメニューをポップアップ表示します。(→ 51ページ「プレイリストメニューの操作」)
2. CREATE PLAYLIST 項目を選択し、CREATE PLAYLIST 画面を表示します。



3. 希望するプレイリスト名を入力します。
プレイリスト名の入力方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。
4. プレイリスト名の入力が終了したら、ENTER を選択しMULTI JOGダイヤルを押して名前を確定します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



メモ

プレイリストの作成を中止するには、MENU [JOG] ボタンを押します。

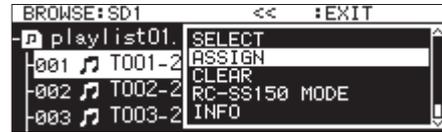
5. MULTI JOGダイヤルを押して、新しいプレイリストを作成します。
「CREATING...」がポップアップ表示され、新規プレイリストが作成されます。



作成後、BROWSE 画面に戻ります。

プレイリストエントリーメニューの操作

プレイリストに登録されているファイルを選択している状態でMULTI JOGダイヤルを押すと、プレイリストエントリーメニューをポップアップ表示します。



プレイリストに登録されているファイルに対して、操作を行いたい場合の操作メニューです。

SELECT

選択中のプレイリストに登録したファイルをカレントトラックとして選択し、ホーム画面に戻ります。

ASSIGN

プレイリストの選択した位置にファイルを登録します。
選択された位置にすでにファイルが存在する場合は、上書き登録されます。(→ 54ページ「プレイリストにファイルを登録する」)

CLEAR

プレイリストの選択した位置に登録されたファイルの登録を解除します。(→ 54ページ「プレイリストのファイルの登録を解除する」)

登録解除後は、空のエントリーになります。

RC-SS150 MODE

リスト形式の画面からTASCAM RC-SS150向けのプレイリスト登録画面に切り換えます。

LIST MODE

TASCAM RC-SS150向けの画面からリスト形式のプレイリスト登録画面に切り換えます。

INFO

プレイリストに登録したファイルの情報を表示します。

メモ

プロテクトされているSDカードがセットされているとき、ASSIGN 項目と CLEAR 項目の操作はできません。(→ 27ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」)

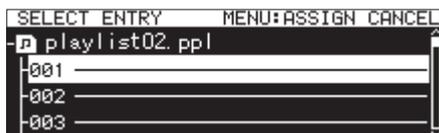
CANCEL

選択中のプレイリストファイルに関する操作を取り消し、プレイリストファイルメニューを閉じます。

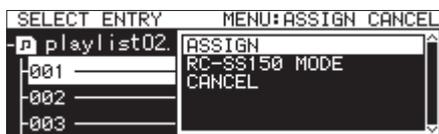
プレイリストにファイルを登録する

プレイリストにファイルを登録する場合は、プレイリストエントリーメニューの **ASSIGN** 項目から行います。

1. 登録したいプレイリスト内のエントリー位置を選択し、プレイリストエントリーメニューをポップアップ表示します。(→ 53ページ「プレイリストエントリーメニューの操作」)
2. **ASSIGN** 項目を選択し、**SELECT ENTRY** 画面を表示します。



3. 登録したいファイルを選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。



4. **ASSIGN** 項目を選択して**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、ファイルがプレイリストに登録されます

メモ

- プレイリストには、最大100のエントリーが登録できます。ただし、フラッシュ再生できるのは96エントリーまでです。
- 「このファイルをプレイリストに登録したい」という場合の操作手順は、46ページ「ファイルをプレイリストに登録する」を参照ください。

プレイリストのファイルの登録を解除する

プレイリストに登録したファイルの登録を解除する場合は、プレイリストファイルメニューの **CLEAR** 項目から行います。

この操作は、プレイリスト内からファイルの登録を解除するのみであり、ファイルそのものは消去されません。

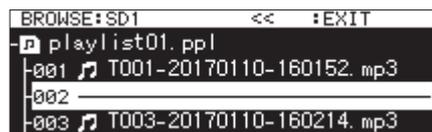
1. 登録を解除したいプレイリスト内のトラックを選択し、プレイリストエントリーメニューをポップアップ表示します。(→ 53ページ「プレイリストエントリーメニューの操作」)
2. **CLEAR** 項目を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



メモ

登録解除を中止するには、**MENU [JOG]** ボタンを押します。

3. **MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、登録を解除します。
4. ファイルの登録解除後、**BROWSE** 画面に戻ります。登録解除後は、空のエントリーになります。



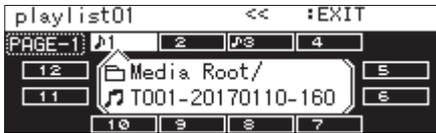
メモ

オーディオファイル自身を削除したい場合は、45ページ「フォルダー / ファイルを削除する」を参照してください。

RC-SS150 MODEのプレイリスト登録画面

別売の専用リモコンTASCAM RC-SS150のキー配置に合わせて、プレイリスト登録することができる画面です。

MULTI JOGダイヤルで登録したいエントリー／ページを選択します。



エントリーを選択しているときにMULTI JOGダイヤルを押して、プレイリストエントリーメニューをポップアップ表示し、希望する操作を実施します。

操作方法は、リスト形式のときと同じです。



画面左上のページ項目を選択しているときにMULTI JOGダイヤルを押すと、編集対象のページ変更画面に切り換わります。



MULTI JOGダイヤルを回して、ページを変更します。

設定範囲は、1～8です。

MULTI JOGダイヤルを押すと変更を確定し、RC-SS150 MODEのプレイリスト登録画面に戻ります。

第8章 録音

本機は、SDカード／USBメモリーまたはCD-R／CD-RWディスク（SS-CDR250Nのみ）に以下の形式で録音することができます。

CD-DA形式

Fs=44.1kHz, bit=16bit

MP3形式

Fs = 44.1k/48kHz, bps = 64k/128k/192k/256k/320k bps

WAV / BWF形式

Fs = 44.1k/48k/96kHz, bit = 16/24bit

以下の説明では、録音可能なSDカード／USBメモリーまたはCD-R／CD-RWディスク（SS-CDR250Nのみ）が挿入され、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていることを前提としています。

注意

- カレントメディアが「CD」で、CD-DA形式で録音する場合、ブランクまたは未ファイナライズのCD-R／CD-RWディスクが挿入されていることが必要です。
- カレントメディアが「CD」で、MP3形式で録音する場合、ブランクのCD-R／CD-RWディスクが挿入されていることが必要です。

メモ

- 本機で録音可能な最大トラック数およびフォルダー数は、下記の通りです。（SDカード／USBメモリーまたはCD-R／CD-RWディスク共通）
トラック数：1メディアあたり最大999トラック
フォルダー数：1メディアあたり最大999個（CD以外）
1メディアあたり最大250個（CD）
- 2GB以下のメディアをご使用の場合、ファイルシステムの制限によりルートフォルダーには999トラックまで録音することができません。サブフォルダーには最大999トラックまで録音することができます（使用状況により異なります）。
- プロテクトされているSDカードがセットされているときは、録音できません。（→ 27ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」）
- CD-R／CD-RWディスクにWAV形式で録音することはできません。ただし、SDカード／USBメモリーからCD-R／CD-RWディスクにWAVファイルをコピーする、またはWAVファイルを記録したデータCDを再生することはできます。（→ 76ページ「データCDを作成する」）
- CDとSDカード／USBメモリー間でのオーディオファイルのコピーや変換コピーも可能です。詳しくは、75ページ「USBメモリー／SDカードのファイルをブランクCDにコピー／変換コピーする」、78ページ「CDのファイルをUSBメモリー／SDカードにコピー／変換コピーする」をご覧ください。
- データCDの場合、8階層以上の深い階層構造の作成は、読み込み速度が極端に遅くなる場合があるため、お控えください。

不慮の電源遮断について

SDカード／USBメモリー／CDへの録音中、不慮の電源遮断が発生した場合に、録音中のトラック全てが消失してしまわないための保護機能があります。25秒前までのデータが保護されます。

注意

- 保護機能を装備していますが、SDカード／USBメモリーの特性上、システム領域への書き込みを行っている場合に電源が切れた、またはSDカード／USBメモリーが本体より抜かれた場合は、SDカード／USBメモリー内全てのファイルが破壊、消失する場合があります。したがって、録音再生中の電源遮断は、可能な限り避けてください。
- CD-R／CD-RWの場合、記録済みオーディオデータの修復を試みます。修復に失敗する場合もあるため録音中の電源遮断は、可能な限り避けてください。
- 本機能は、録音中に外部タイマーなどで電源を切るなどといった使用を想定した機能ではありません。

入力ソースを選択する

入力ソース（録音ソース）を、以下の中から選択します。

選択肢	内容
ANALOG UNBALANCED (初期値)	ANALOG IN (UNBALANCED) L / R 端子から入力
ANALOG BALANCED	ANALOG MIC/LINE IN(BALANCED) L / R端子から入力
DIGITAL COAXIAL	SPDIF IN端子から入力
DIGITAL MLR	AES/EBU IN端子から入力
IF-DA2 (Dante) (IF-DA2装着時のみ表示)	Danteインターフェースカード「IF-DA2」から入力

入力ソースを選択するには、以下の操作で行います。

メモ

録音中は、入力ソースを切り換えることができません。

ホーム画面で選択する

1. SHIFTボタンを押しながら▶▶ [INPUT] ボタンを押すと、入力ソース設定ウィンドウをポップアップ表示します。入力ソース設定ウィンドウには、現在の入力が表示されます。



2. 入力ソース設定ウィンドウ表示中にMULTI JOGダイヤルで入力ソースを選択して、MULTI JOGダイヤルを押すと入力ソースが切り換わります。

メニュー画面で選択する

- REC 1 ページの INPUT SELECT 項目を選択し、INPUT SELECT 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- 入力ソースを選択します。

選択肢：ANALOG UNBALANCED (初期値)、ANALOG BALANCED、DIGITAL COAXIAL、DIGITAL XLR、IF-DA2(Dante) (IF-DA2装着時のみ表示)

メモ

入力ソースが DIGITAL COAXIAL / DIGITAL XLR / IF-DA2(Dante) (IF-DA2装着時のみ表示) のいずれかで、UNLOCKの場合は選択肢の末尾に「*」が付きます。

- 設定を確認し、メニュー画面に戻ります。

入力ソースの表示

現在選択されている入力ソースは、前項の「入力ソースを選択する」の手順にて確認する、または録音画面の入力設定状態表示にて確認します。



入力ソース表示

メモ

入力ソースを DIGITAL XLR / DIGITAL COAXIAL / IF-DA2(Dante) (IF-DA2装着時のみ表示) を選択した場合、以下のような状態のときにポップアップ表示します。

- 本機が入力ソースにデジタルロックしない (DIN UNLOCK を表示します)。
- 入力ソースがオーディオではない (DIN NotAudio を表示します)。
- REC 3 ページの SAMPLE 項目で設定したサンプリング周波数が入力ソースと異なる場合は、「FS UNMATCH」を表示します。ただし、サンプリングレートコンバーターを有効にした場合は、サンプリング周波数が異なっていても録音可能です。(→ 64ページ「サンプリングレートコンバーターを使う」)

L / Rチャンネルの入力を個別に設定する

本機は、LチャンネルとRチャンネルの入力設定を個別に行うことができます。

個別の設定ができる画面は、以下になります。

- BALANCED INPUT GAIN 画面 (→ 58ページ「マイク/ライン入力の感度を設定する」)
- INPUT LEVEL 画面 (→ 58ページ「入力信号のレベルを調節する」)
- PHANTOM POWER 画面 (→ 59ページ「ファンタム電源を設定する」)
- MIC AGC 画面 (→ 59ページ「マイク入力時のオートゲインコントロール機能を設定する」)
- DYNAMICS 画面 (→ 60ページ「ダイナミクス機能を設定する」)
- LOW CUT 画面 (→ 60ページ「ローカットフィルターを設定する」)

- REC 1 ページの REC SET LINK 項目を選択し、REC SET LINK 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- L / Rチャンネルの設定方法を選択します。

選択肢	内容
OFF	L / Rチャンネルの入力設定を個別に行いません。
ON (初期値)	L / Rチャンネルの入力設定をリンクさせます。

メモ

L / Rチャンネルを個別に設定した状態で REC SET LINK 画面の LINK 項目を ON にすると、Rチャンネルの設定値はLチャンネルの設定値と同じ値になります。再度、REC SET LINK 画面の LINK 項目を OFF にするとRチャンネルはLチャンネルと同じ設定値を保持しています。

- 設定を確認し、メニュー画面に戻ります。

マイク／ライン入力の感度を設定する

録音した音声もしくは信号の入力が大きすぎて歪む、または小さすぎてノイズに埋もれてしまうことを避けるために、録音する前に入力ゲインを調節する必要があります。

メモ

入力ソースが ANALOG BALANCED 以外に設定されているときは、この項目は表示されません。(→ 56ページ「入力ソースを選択する」)

- REC 1 ページの BAL. INPUT GAIN 項目を選択し、BALANCED INPUT GAIN 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

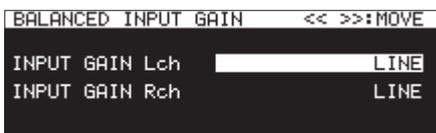


- マイク入力の感度を設定します。

選択肢	内容
LINE (初期値)	外部機器のライン出力端子をMIC/LINE IN (BALANCED) L / R端子に接続した場合。
MIC-LOW	マイクをMIC/LINE IN (BALANCED) L / R端子に接続した場合。
MIC-HIGH	マイクをMIC/LINE IN (BALANCED) L / R端子に接続した場合。

メモ

REC 1 ページの REC SET LINK 項目が OFF のときは、LチャンネルとRチャンネルの入力信号のレベルを個別に調節します。(→ 57ページ「L / Rチャンネルの入力を個別に設定する」)



- 設定を確認し、メニュー画面に戻ります。

入力信号のレベルを調節する

入力信号のレベルを調節します。

- REC 1 ページの INPUT LEVEL 項目を選択し、INPUT LEVEL 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



[LINE-LEVEL調節時の INPUT LEVEL 画面表示]

- 入力信号のレベルを調節します。

LINE LEVEL (BALANCE INPUT GAIN 画面の設定が LINE の場合)

選択肢: -inf、-54dB、-48dB、-42dB、-36dB、-30dB、-24dB、-20dB、-16dB、-12dB、-10dB、-8dB、-6dB ~ 0.0dB (初期値) ~ +6.0dB (0.5dB 刻み)、+7.0dB ~ +18.0dB (1.0dB 刻み)

MIC LEVEL (BALANCE INPUT GAIN 画面の設定が MIC-LOW または MIC-HIGH の場合)

選択肢: MUTE (絞り切り)、-4.0dB ~ 0.0dB (初期値) ~ +6.0dB (0.5dB 刻み)、+7.0dB ~ +31.0dB (1.0dB 刻み)、+31.5dB

DIGITAL LEVEL (INPUT SELECT 画面の設定が DIGITAL COAXIAL または DIGITAL XLR または IF-DA2(Dante) の場合)

選択肢: -6.0dB ~ 0.0dB (初期値、0.1dB 刻み) ~ +6.0dB

メモ

REC 1 ページの REC SET LINK 項目が OFF のときは、LチャンネルとRチャンネルの入力信号のレベルを個別に調節します。(→ 57ページ「L / Rチャンネルの入力を個別に設定する」)

- 設定を確認し、メニュー画面に戻ります。

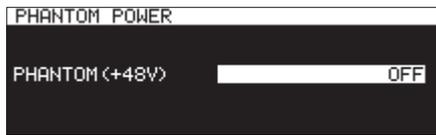
メモ

INPUT LEVEL 画面には、レベルメーターが表示されていますので、確認しながら入力レベルを調節することができます。レベルメーターのピークレベルを超えない範囲で、なるべくレベルを高めに調節してください。

ファンタム電源を設定する

MIC/LINE IN (BALANCED) L / R端子にファンタム電源を必要とする外部マイクを接続したとき、ファンタム電源をオンにします。

- REC 1 ページの MIC PHANTOM 項目を選択し、PHANTOM POWER 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- ファンタム電源のオン/オフを設定します。
選択肢：OFF (初期値)、ON

メモ

- ファンタム電源の設定がオンのとき、録音画面の録音機能の設定状態表示部に **[48V]** アイコンが表示されます。実際に機器のファンタム電源がオンになるのは INPUT SELECT 画面が ANALOG BALANCED、および BAL. INPUT GAIN 画面が MIC-LOW または MIC-HIGH のときになります。また、ファンタム電源が実際にオンになる場合には、メッセージ「Phantom Power ON?」がポップアップ表示されます。
 - REC 1 ページの REC SET LINK 項目が OFF のときは、LチャンネルとRチャンネルのファンタム電源を個別に設定します(→ 57ページ「L / Rチャンネルの入力を個別に設定する」)
- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

MIC/LINE IN (BALANCED) L / R端子のファンタム電源(48V)がオンになりマイクに供給されます。

注意

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にしてください。
- MIC/LINE IN (BALANCED) L / R端子にライン機器を接続する場合は、ファンタム電源がオフになっていることを確認してください。ファンタム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- ファンタム電源をオンにした状態で、MIC/LINE IN (BALANCED) L / R端子にマイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファンタム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファンタム電源をオンにしてください。ファンタム電源を必要としないダイナミックマイクなどを接続しているときにファンタム電源をオンにすると、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファンタム電源を必要とするコンデンサーマイクとダイナミックマイクを合わせて使用する場合は、必ずバランスタイプのダイナミックマイクをご使用ください。アンバランスタイプのダイナミックマイクを混用することはできません。
- リボンマイクの中には、ファンタム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファンタム電源を供給しないでください。
- コンデンサーマイクによっては、48Vに設定されたファンタム電源では動作しないものもあります。

マイク入力時のオートゲインコントロール機能を設定する

MIC AGC機能(マイク入力時のオートゲインコントロール機能)をオンにすると、入力音声に合わせてマイクの入力レベルが自動で調節されます。

入力音が小さいときは大きく、大きいときは小さくなるように録音レベルを自動で調節するため、会議録音などに適しています。

- REC 2 ページの MIC AGC 項目を選択し、MIC AGC 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- MIC AGC機能のオン/オフを設定します。
選択肢：OFF (初期値)、ON

メモ

- オートゲインコントロール機能がオンのとき、録音画面の録音機能の設定状態表示部に **[AGC]** アイコンが表示されます。
 - REC 1 ページの REC SET LINK 項目が OFF のときは、LチャンネルとRチャンネルのオートゲインコントロール機能を個別に設定します(→ 57ページ「L / Rチャンネルの入力を個別に設定する」)
- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

ダイナミクス機能を設定する

ダイナミクス機能をオンにすると、録音ソースに本機のリミッターやコンプレッサーを掛け、入力信号のレベルオーバーを防いで録音することができます。

- REC 2 ページの **DYNAMICS** 項目を選択し、**DYNAMICS** 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- 入力信号のダイナミクス機能を設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	ダイナミクス機能を使用しない。
LIMITER	リミッターが掛かります。突発的な過大入力音による歪みを抑えることができます。
COMP_SOFT	軽いコンプレッサーが掛かります。音楽の録音に適しています。
COMP_HARD	きついコンプレッサーが掛かります。会議などの録音に適しています。

メモ

- ダイナミクス機能のいずれかがオンのとき、録音画面の録音機能の設定状態表示部に **LIMITER** / **COMP.SOFT** / **COMP.HARD** アイコンが表示されます。
 - 入力音が大きすぎるとリミッターを掛けても歪んでしまう場合があります。その場合は録音レベルを下げるか、音源からマイクを離してください。
 - コンプレッサーとは、ピーク音を抑え、音の粒（1音ごとの強弱）を揃えることで聴き取りやすい音質にするエフェクターです。
 - REC 1 ページの **REC SET LINK** 項目が **OFF** のときは、LチャンネルとRチャンネルの入力信号のレベルを個別に調節します。この場合、録音・録音待機中のホーム画面にはLチャンネルの設定が優先されて表示されます。Lチャンネルの設定が **OFF** でRチャンネルの設定が **OFF** 以外の場合は、Rチャンネルの設定がホーム画面に表示されます。(→ 57ページ「L / Rチャンネルの入力を個別に設定する」)
- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

ローカットフィルターを設定する

ローカットフィルターを使用すると、空調機やプロジェクターなどによるノイズや耳障りな風切音などのノイズを低減することができます。

- REC 2 ページの **LOW CUT** 項目を選択し、**LOW CUT** 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- 入力時のローカットフィルターのカットオフ周波数を設定します。

選択肢：OFF (初期値)、40Hz、80Hz、120Hz、180Hz、220Hz

メモ

- ローカットフィルター機能がオンのとき、録音画面の録音機能の設定状態表示部に **LC** アイコンが表示されます。
 - REC 1 ページの **REC SET LINK** 項目が **OFF** のときは、LチャンネルとRチャンネルのローカットフィルターを個別に設定します
- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

録音するファイル形式を設定する

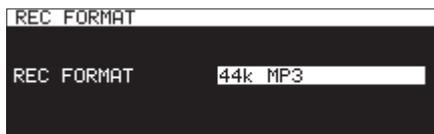
REC 3 ページの REC FORMAT 項目 / BACKUP/RELAY MEDIA 項目 / WAV SETTING 項目 / MP3 BITRATE 項目 / FILE TYPE 項目を使って録音ファイル形式を設定します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

録音するフォーマットの設定

REC FORMAT 項目を選択し、REC FORMAT 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

録音のサンプリング周波数とファイル形式の組み合わせを設定します。

カレントメディアが「CD」、REC FORMAT 項目の設定が「CD-DA」の場合、録音されるファイル形式は 44.1kHz / 16bit / STEREO固定となります。



選択肢	録音内容	
	サンプリング周波数 / ファイル形式	オプション機能
44k WAV	44.1kHz WAV	なし
44k MP3 (初期値)	44.1kHz MP3	なし
44k WAV+MP3	44.1kHz WAV(16bit) + MP3	デュアルフォーマット録音機能
44k WAV (BACKUP)	44.1kHz WAV	バックアップ録音機能
44k MP3 (BACKUP)	44.1kHz MP3	
44k WAV (RELAY)	44.1kHz WAV	リレー録音機能
44k MP3 (RELAY)	44.1kHz MP3	
44k WAV+MP3 (RLV)	44.1kHz WAV(16bit) + MP3	リレー録音機能 / デュアルフォーマット録音機能
48k WAV	48kHz WAV	なし
48k MP3	48kHz MP3	なし
48k WAV+MP3	48kHz WAV(16bit) + MP3	デュアルフォーマット録音機能
48k WAV (BACKUP)	48kHz WAV	バックアップ録音機能
48k MP3 (BACKUP)	48kHz MP3	
48k WAV (RELAY)	48kHz WAV	リレー録音機能
48k MP3 (RELAY)	48kHz MP3	
48k WAV+MP3 (RLV)	48kHz WAV(16bit) + MP3	リレー録音機能 / デュアルフォーマット録音機能
96k WAV	96kHz WAV	なし

CDがカレントメディアとして選択されている場合

選択肢	録音内容
	サンプリング周波数 / ファイル形式
CD-DA	44.1kHz 16bit
44k MP3	44.1kHz MP3
48k MP3	48kHz MP3

録音のオプション機能について

- 2つのファイルフォーマットで同時に録音する (デュアルフォーマット録音機能)
「WAV+MP3」が表示された選択肢に設定すると、WAV 16bit (BWF) とMP3の2つのファイルフォーマットで同時に録音することができます。
- 複数メディアに同時録音する (バックアップ録音機能)
「(BACKUP)」が表示された選択肢に設定すると、複数のメディアに同時録音することができます。
この機能を使用することで、メディアに問題が生じ意図せず録音が止まってしまうことを防ぐことができます。
- 複数メディアに連続で録音する (リレー録音機能)
「(RELAY)」が表示された選択肢に設定すると、複数のメディアに連続で録音することができます。
この機能を使用することで、長時間の継続録音ができます。
- リレー録音が終了すると、カレントメディアは最初に録音を開始したメディアに戻ります。
- リレー録音機能で作成されたファイルのファイル名は「R001_20170101-123456.wav」のようにファイル名の先頭文字が「R」になります。

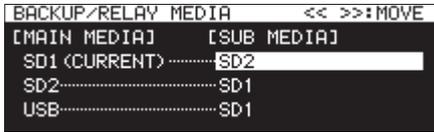
メモ

- リレー録音機能が設定されているとき、録音画面の右上部に SD1+SD2 のようにカレントメディアとリレー録音先メディアが表示されます。
- デュアルフォーマット録音機能を選択すると、録音画面の右上部に MP3/WAV のようにデュアルフォーマット録音される2つのフォーマットが表示されます。
- デュアルフォーマット録音の場合、WAVのビット長設定は16bit固定になります。
- WAV SETTING 画面の BIT LENGTH 項目で 24bit が選択されていた場合は、自動的に16bitに変更されます。(→ 62ページ「WAVファイルの設定」)
- CD-R / CD-RWディスクへのMP3形式での録音は、ブランクCD挿入時のみ可能です。ディスクを取り出す、または電源を切ると、以後の追加録音はできません。(→ 73ページ「CD-R / CD-RWディスクのファイナライズ」)

バックアップ録音相手メディア／リレー録音先メディアの設定

BACKUP/RELAY MEDIA 項目を選択し、BACKUP/RELAY MEDIA 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

各メディアをカレントメディアとして設定したときのバックアップ録音相手メディア／リレー録音先メディアを設定します。



- SD1 項目を選択し、SD1がカレントメディア (MAIN MEDIA) として選択されているときの、バックアップ録音相手メディア／リレー録音先メディア (SUB MEDIA) を設定します。

選択肢：SD2 (初期値)、USB

- SD2 項目を選択し、SD2がカレントメディア (MAIN MEDIA) として選択されているときの、バックアップ録音相手メディア／リレー録音先メディア (SUB MEDIA) を設定します。

選択肢：SD1 (初期値)、USB

- USB 項目を選択し、USBがカレントメディア (MAIN MEDIA) として選択されているときの、バックアップ録音相手メディア／リレー録音先メディア (SUB MEDIA) を設定します。

選択肢：SD1 (初期値)、SD2

メモ

- バックアップ録音／リレー録音メディアに「 CD 」を選択することはできません。また、カレントメディアが「 CD 」の場合、REC 2 ページの BACKUP/RELAY MEDIA 項目の設定表示は「 ---- -- 」表示となります。
- [MAIN MEDIA] のメディア名末尾に「 (CURRENT) 」表記があるメディアが、現在の設定でのカレントメディアになります。
- カレントメディアと同一パスのフォルダーをバックアップ録音相手メディア／リレー録音先メディアに作成し、録音します。

WAVファイルの設定

WAV SETTING 項目を選択し、WAV SETTING 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- FORMAT TYPE 項目を選択し、WAV形式で録音するときのファイルフォーマットを設定します。

選択肢：WAV (初期値)、BWF

- BIT LENGTH 項目を選択し、WAV形式で録音するときのビット長を設定します。

選択肢：16bit (初期値)、24bit

メモ

- カレントメディアが「 CD 」のときは、この項目は表示されません。
- デュアルフォーマット録音がオンの場合は、24bitは選択できません。

MP3ファイルのビットレートの設定

MP3 BITRATE 項目を選択し、MP3 BITRATE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

MP3形式で録音するときのビットレートを設定します。



選択肢：MP3-64kbps、MP3-128kbps、MP3-192kbps (初期値)、MP3-256kbps、MP3-320kbps

録音するファイルタイプの設定

FILE TYPE 項目を選択し、FILE TYPE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

録音するファイルタイプを設定します。



選択肢	内容
STEREO (初期値)	L / Rチャンネルの入力音声をステレオファイルに保存します。
MONO (MIX)	L / Rチャンネルの入力音声をミックスし、モノラルファイルとして保存します。
MONO (2ch)	L / Rチャンネルの音声を別々の2つのモノラルファイルに保存します。

メモ

カレントメディアが「 CD 」、REC FORMAT 項目が「 CD-DA 」の場合、録音されるファイルは、設定にかかわらず STEREO 固定になります。その時、REC 3 ページの FILE TYPE 項目の設定表示は、「 ---- -- 」表示となります。また、REC FORMAT 項目が「 CD-DA 」以外の場合、「 MONO (2ch) 」を選択することはできません。

入力信号をモニターする

RECORD [TRACK INC] ボタン（リモコンのRECORDボタン）押しで録音待機状態にすると、RECORD [TRACK INC] ボタンとPAUSE [CALL] ボタンが点灯し、入力信号が本機の各種出力端子（ヘッドホン、アナログバランス、アナログアンバランス、およびデジタル）から出力されます。また、ホーム画面上のメーターが入力レベルを表示します。

録音待機を解除するには、STOPボタン（リモコンのSTOPボタン）を押します。

ヒント

録音を前提としないで単に入力信号をモニターしたい場合は、カレントメディアをセットしない状態で、RECORD [TRACK INC] ボタン（リモコンのRECORDボタン）を押します。

RECORD [TRACK INC] ボタンが点滅します。

入力信号のモニターを解除するには、STOPボタン（リモコンのSTOPボタン）を押します。

録音の基本操作

次の設定（入力ソースの選択、録音するファイル形式の設定、サンプリングレートコンバーターのオン/オフ、入力レベルの調節）を終えたら、録音を行います。

停止状態から録音待機状態にするには：

RECORD [TRACK INC] ボタン（リモコンのRECORDボタン）を押します。（RECORD [TRACK INC] ボタンおよびPAUSE [CALL] ボタンが点灯）。

録音待機状態から録音を開始するには：

本体またはリモコンのPLAYボタンを押します。

録音を待機状態にするには：

PAUSE [CALL] ボタン（リモコンのF1ボタン）を押します。

録音を止めるには：

本体またはリモコンのSTOPボタンを押します。

録音を止めると、録音情報の書き込みが行われ、オーディオファイルが作成されます。

メモ

- 作成されるオーディオファイルに自動的に付加されるオーディオファイル名は、FILE NAME 画面を使って設定することができます。（→ 61ページ「録音するファイル形式を設定する」）
- 各トラックの最大ファイルサイズは、2GBです。
- 録音されたトラックは、カレントフォルダーに作成されます。（→ 43ページ「フォルダーの操作」）

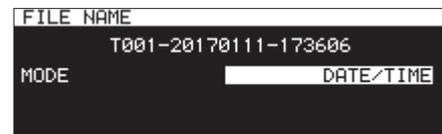
注意

カレントメディアに録音内容を記録する間、「WRITING FILE...」が表示されます。この間は、本機を動かしたり、電源を切ったり、カレントメディアを取り出したりしないでください。録音内容が正しく記録できなくなります。

ファイル名の形式を設定する

録音時に自動的に付加されるファイル名の形式を設定することができます。

- REC 4 ページの FILE NAME 項目を選択し、FILE NAME 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）

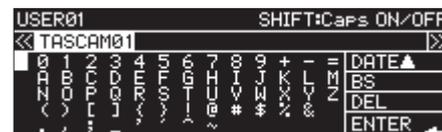


- ファイル名の形式を設定します。

選択肢	内容
DATE/TIME (初期値)	本機の内蔵時計の日時がファイル名になります。
USER01	ユーザー登録した文字列（8文字）がファイル名になります。
USER02	
USER03	

- DATE/TIME を選択した場合、または USER01 ~ USER03 を選択してファイル名を編集しない場合は、MULTI JOGダイヤルを押してメニュー画面に戻します。

USER01 ~ USER03 を選択してファイル名を編集する場合は、▶ [INPUT] ボタンを押して USER01 画面を表示します。



- ファイル名を編集します。
- 編集が終了したら、MULTI JOGダイヤルを回して ENTER を選択後、MULTI JOGダイヤルを押して編集した文字列を確認し、FILE NAME 画面に戻します。
- 再度、MULTI JOGダイヤルを押してメニュー画面に戻します。

文字列の編集方法

以下の操作で文字列を編集します。

カーソル（編集位置）を移動するには：

◀ [A-B] / ▶ [INPUT] ボタンを押します。

入力する文字を変更するには：

MULTI JOGダイヤルを回します。

カーソル位置（編集位置）に選択された文字を入力するには：

MULTI JOGダイヤルを押します。

1文字分の空白（スペース）を空けるには：

MULTI JOGダイヤルを回して各行の左端にある空白文字を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。

文字を削除するには：

MULTI JOGダイヤルを回して DEL（カーソルより後ろの文字を削除する場合）、または BS（カーソルより前の文字を削除する場合）を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。

カーソルより後ろの文字を全て削除するには：

MULTI JOGダイヤルを回して DEL 表示を選択し、MULTI JOGダイヤルを押し続けます。

カーソルより前の文字を全て削除するには：

MULTI JOGダイヤルを回して BS 表示を選択し、MULTI JOGダイヤルを押し続けます。

大文字／小文字を切り換えるには：

SHIFTボタンを押します。

編集をキャンセルするには：

MENU [JOG] ボタンを押します。

日付を入力するには：

MULTI JOGダイヤルを回して DATE ▲ を選択します。

MULTI JOGダイヤルを押すと、yyyy-mm-dd 形式の本体内蔵時計の日付が入力されます。

RENAME FOLDER 画面では、すでに同じフォルダー名があるとき、「_」（アンダースコア）に加えてその時点で存在しない番号が付加されます。

注意

- SDカード／USBメモリーをパソコンに接続して、パソコンからファイル名を編集することもできますが、パソコン上でファイル名の編集を行った場合は、本機でのファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。

- 名前入力画面には、半角英数字および記号以外の文字は表示されません。半角英数字および記号以外の文字が名前に含まれていた場合は、名前入力画面を表示する際、これらの文字が除去されます。

- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

／：*？" < > |

メモ

USBキーボードを使って文字を編集することも可能です。（→ 97ページ「キーボードを使って名前や数値を入力する」）

入力文字数制限について

文字列表示エリアでは、最大文字数以内の背景が白く表示されます。最大文字数を越えた部分の背景は黒で表示され、Enter を選択して確定すると切り捨てられます。

ディザーを掛けて録音する

16ビット WAV形式で録音するときには16ビットであるので、ダイナミックレンジは約96.3dBとなります。

欠落してしまう17ビット目以降の小さな音（量子化ノイズ）をどう処理して録音するかを設定することができます。

1. REC 4 ページの DITHER 項目を選択し、DITHER 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



2. ディザーを設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	ディザー処理を行いません。有効量子化ビット未満（17ビット目以降）はカットし、16ビットまでをそのまま録音します。
DITHER	有効量子化最小ビット（16ビット目）の半分の大きさのランダムノイズ（ホワイトノイズ）を加算し、16ビット目と17ビット目の境に「ゆらぎ」を発生させ、量子化ノイズを抑えます。
NOISE SHAPE	1次ノイズシェイピングです。量子化ノイズ自身をフィードバックして微分し、量子化ノイズを抑え、ダイナミックレンジの拡大を図ります。

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

サンプリングレートコンバーターを使う

本機は、サンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、デジタル入力ソースのサンプリング周波数と異なるサンプリング周波数で録音することも可能です。

サンプリングレートコンバーターの設定がオンのとき、録音画面の録音機能の設定状態表示部に [SRC] アイコンが表示されます。

1. REC 4 ページの SRC 項目を選択し、SRC 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



2. サンプリングレートコンバーター（SRC）のオン／オフを設定します。

選択肢：OFF（初期値）、ON

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

- SAMPLING RATE 画面で設定したサンプリング周波数と異なるサンプリング周波数のデジタル信号をデジタル入力端子から受信しているとき、サンプリングレートコンバーター（SRC）をオフの状態に録音しようとするとき、メッセージ「-- DIN ERROR -- Digital input is illegal.」がポップアップ表示されます。（→ 61ページ「録音するファイル形式を設定する」）

- サンプリングレートコンバーターの動作範囲は、32k ~ 192k Hzです。

ポーズモードを設定する

録音から録音待機状態にしたときにトラック番号を更新する、または更新しないを設定することができます。

- REC 4 ページの PAUSE MODE 項目を選択し、PAUSE MODE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- ポーズモード機能の動作モードを設定します。

選択肢	内容
SAME TRACK (初期値)	「録音」→「録音待機」でトラック番号を更新しない。
NEW TRACK	「録音」→「録音待機」でトラック番号を更新します。

- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

注意

録音中または録音待機中に変更できません。

録音待機せずに録音を開始する (ダイレクト録音機能)

録音待機状態を経ずに録音を開始することができます。この機能がオンのときは、RECORDボタンを一度押すと録音が始まります。

- REC 4 ページの DIRECT REC 項目を選択し、DIRECT REC 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- ダイレクト録音機能のオン/オフを設定します。

選択肢：OFF (初期値)、ON

- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

録音開始の少し前から録音する (プリ録音機能)

録音待機中に入力される信号を設定した時間内部メモリに取り込みを行い、録音開始時に最大5秒前からの信号を録音することができます (プリ録音機能)。

- REC 5 ページの PRE REC 項目を選択し、PRE REC 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- プリ録音機能が働く時間を設定します。

選択肢：OFF (初期値)、1sec、2sec、3sec、4sec、5sec

- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

録音待機状態になってから設定した時間以内に録音を開始した場合は、録音待機状態にした時点からの録音となります。

シンク録音機能を使う

シンク録音機能をオンにすると、あらかじめ設定したレベル (シンクレベル) 以上の信号が入力されたときに自動的に録音が始まります。録音開始後、シンクレベル以下の信号が一定時間 (ストップタイム) 以上続くと、自動的に録音待機状態になります。

シンク録音の設定

REC 5 ページの SYNC REC 項目を選択し、SYNC REC 画面を表示します。SYNC REC 画面を使って、シンク録音の設定をします。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



シンク録音機能のオン/オフの設定

MODE 項目を選択し、シンク録音機能のオン/オフを設定します。

選択肢：OFF (初期値)、ON

メモ

シンク録音機能がオンのとき、録音画面の録音機能の設定状態表示部に [SYNC REC] アイコンが表示されます。

シンク録音機能のシンクレベルの設定

LEVEL 項目を選択し、シンク録音機能のシンクレベルを設定します。

選択肢：-72dB、-66dB、-60dB、-54dB、-48dB、
-42dB (初期値)、-36dB、-30dB、-24dB

第8章 録音

録音を開始するまでの時間の設定

DELAY 項目を選択し、シンクレベルを超える信号を検出してから録音を開始するまでの時間（10msecステップ）を設定します（10msec = 0.01秒）。

マイナス値に設定すると、検出時より前に溯ることができます。

選択肢：-1000msec ~ 0msec（初期値、10msec 刻み） ~ +1000msec

録音待機状態にする条件の設定

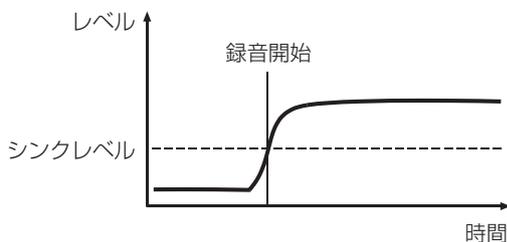
STOP TIME 項目を選択し、シンクレベル以下の信号がどれだけ続くと録音を止めて録音待機にするかを設定します。

選択肢：INF、5sec（初期値） ~ 30sec

シンク録音の動作

シンク録音機能をオンにした状態で本機を録音待機状態にすると、入力ソースのレベルに応じて自動的に録音の開始/停止が行われます。

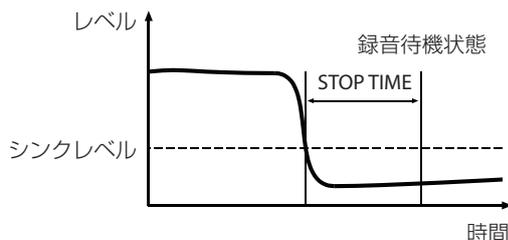
- シンクレベル以上の信号が入力されると、自動的に録音を開始します。ただし、録音待機後のシンクレベル以下の信号が1秒以上続かないと、入力を検知しても録音が始まりません。



メモ

上記の説明は、DELAY 項目が 0msec（初期値）の場合です。DELAY 項目を変更すると、「録音開始」ポイントを変更することができます。

- 録音中、STOP TIME 項目で設定した時間以上シンクレベル以下の信号が続くと、自動的に録音待機状態になります。



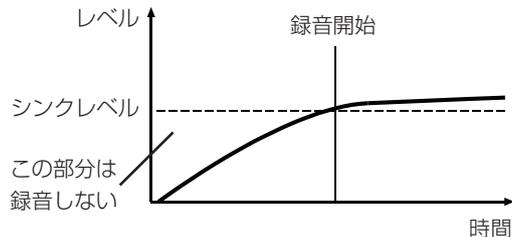
メモ

STOP TIME 項目の設定値を INF に設定した場合は、シンクレベル以下の信号が続いても、自動的に録音待機状態にはなりません。

- シンク録音を解除するには、SYNC REC 画面の MODE 項目を OFF にします。（→ 65ページ「シンク録音の設定」）

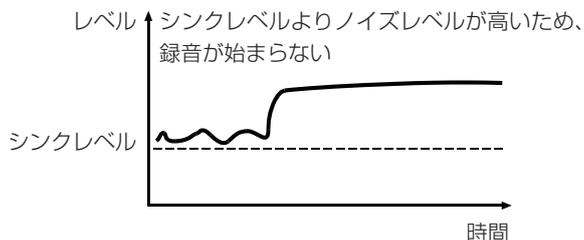
シンクレベルが高すぎる場合

シンクレベルの設定が高すぎると、小さい音から始まる曲の先頭が欠けてしまうなどの不具合が起きる可能性があります。



シンクレベルが低すぎる場合

録音待機中、すでにシンクレベルを超えるようなノイズレベルの大きいソースの場合は、シンク録音が始まりません。



録音中にトラック番号を更新する

録音中に手動で、または設定された条件を満たしたときにトラック番号を自動更新します。トラック番号が更新されるごとに新しいオーディオファイルが作成されます。

メモ

- 新しいトラックが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。
- 新たに作成するトラックのファイル名がすでに存在する場合は、さらに数字が繰り上がります。

トラック番号を手動で更新する

録音中にRECORD [TRACK INC] ボタン（リモコンのRECORD ボタン）を押すと、トラック番号を更新することができます。ただし、4秒以下のトラックを作成することはできません。

メモ

WAV形式で録音した場合は、編集機能を使うと、録音後にトラックの分割や結合が可能です。（→ 71ページ「トラックを分割する (DIVIDE)」）、（→ 72ページ「トラックを結合する (COMBINE)」）

注意

MP3形式で録音する場合は、トラックの更新を短時間に多数行うと、SDカード／USBメモリーによってはエラーメッセージ「RECORD Error Buffer overflow.」が表示され、録音を停止することがあります。これを防ぐには、更新の間隔を空けてご使用ください。

トラック番号を自動で更新する

メニューを使って、オートトラック機能の動作モードの選択および詳細設定を行います。

オートトラック機能がオンのとき、録音画面の各録音機能の設定状態表示部に **A TRACK** アイコンが表示されます。

オートトラック機能の設定は、いつでも行うことができますので、録音を始めてから設定を変更することも可能です。

メモ

WAV形式で録音した場合は、録音したあとから編集機能を使ってトラックの分割や結合が可能です。（→ 71ページ「トラックを分割する (DIVIDE)」）、（→ 72ページ「トラックを結合する (COMBINE)」）

1. REC 5 ページの AUTO TRACK 項目を選択し、AUTO TRACK 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



2. オートトラック機能の動作モードを設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	トラックの自動更新を行いません。
LEVEL	オートトラック動作レベル（AUTO TRACK 画面の LEVEL 項目の設定値）以下の信号が2秒以上続いたあとで、信号が動作レベルを超えたとき、トラック番号を更新します。

選択肢	内容
DD	デジタル入力端子経由でデジタルソース（CD、MD）を録音するときに、ソース側のトラックの区切りを検出するとトラック番号を更新します。ただし、アナログソース録音時、または上記以外のデジタルソース録音時は LEVEL モードになり、入力レベルに応じてトラックを更新します。
SIZE	一定サイズごとにトラック番号を更新します。
TIME	一定時間ごとにトラック番号を更新します。

3. 設定したオートトラック機能の動作モードによって、次に設定する設定項目が異なります。

LEVEL 選択時



LEVEL 項目を選択し、オートトラック機能の動作レベルを設定します。

選択肢：-72dB、-66dB、-60dB、-54dB（初期値）、-48dB、-42dB、-36dB、-30dB、-24dB

DELAY 項目を選択し、オートトラック機能の動作レベルを超える信号を検出してからトラックを更新するまでの時間を設定します（10msec = 0.01秒）。

マイナス値に設定すると、検出時より前に溯ることができます。

選択肢：-1000msec ~ 0msec（初期値、10msec刻み） ~ +1000msec

DD 選択時



選択肢：-1000msec ~ 0msec（初期値、10msec刻み） ~ +1000msec

SIZE 選択時



選択肢：640MByte、1GByte、2GByte（初期値）

TIME 選択時



選択肢：1min ~ 5min（初期値） ~ 10min、15min、30min、1hour、2hour、6hour、8hour、12hour、24hour

録音中に手動でマークポイントを登録する

録音中に手動でファイルの任意の位置にマークポイントを付け、再生時には素早くその位置に移動して再生することができます。

メモ

- カレントメディアが「CD」の場合、手動でのマークポイント登録はできません。
- マークポイント位置への移動は、停止中、再生中、再生待機中のみ可能です。(→ 88ページ「マークポイントに移動する」)

録音中のマークポイントの登録

録音中または録音待機中、ホーム画面でマークポイントを登録したい位置に来たときにMULTI JOGダイヤルを押すと、その位置にマークポイントを登録することができます。

登録したマーク番号がディスプレイの下部にプルアップ表示されます。



メモ

- 本機で録音したファイルは、録音中に付けたマークポイントの情報がファイルへ保存されます。BWF対応ソフトなどで、このマークポイント情報を使用することができます。
- マークポイントは、ファイルごとに最大99個付けることができ、ファイルにマークポイントの情報を記録します。
- 停止中/再生中/再生待機中にマークポイントを登録することも可能です。(→ 87ページ「マークポイントを登録する」)
- 手動で付けたマークポイントには、マークポイント名 MARK*** * が付きます。

*「***」は、全マークポイントに共通の通し番号です。

録音中に自動でマークポイントを登録する

オートマーク機能をオンにすると、オーディオレベルがオーバードロートしたときや、外部クロックが外れて同期エラーが発生したときに自動的にマークポイントを登録することができます。これにより、録音中に発生したシステム上の問題発生位置を素早くサーチして確認することができます。

オートマーク機能がオンのとき、録音画面の録音機能の設定状態表示部に **A.MARK** アイコンが表示されます。

1. REC 5 ページの AUTO MARK 項目を選択し、AUTO MARK 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. 以下のオートマーク機能の項目を設定します。

OVER

オーディオレベルが0dB (フルビット) になった場合に、マークポイントを登録します。

選択肢：OFF (初期値)、ON

TIME

一定時間ごとにマークポイントを登録する間隔の時間を設定します。

選択肢：OFF (初期値)、1min ~ 10min、15min、30min、1hour

UNLOCK

外部クロックとの同期が外れた場合にマークポイントを登録します。

選択肢：OFF、ON (初期値)

REC

プリ録音機能がオンのとき、録音開始位置にマークポイントを登録します。

選択肢：OFF (初期値)、ON

BOF

バッファオーバーフローが発生した場合にマークポイントを登録します。

選択肢：OFF、ON (初期値)

メモ

AUTO MARK 画面表示中に << [A-B] ボタン / >> [INPUT] ボタンを押すと、カーソルが設定項目間を移動します。

3. カーソルが BOF 項目のとき、MULTI JOGダイヤルを押して選択を確定し、メニュー画面に戻します。

メモ

- カレントメディアが「CD」の場合、オートマーク機能は無効になります。また、REC 5 ページの AUTO MARK 項目の設定表示は、「-----」表示となります。

- OVER または UNLOCK のマークポイントを登録したあとは、10秒経過するまで同一マークポイントは登録されません。
- OVER した場合には、マークポイント名 OVER*** *が登録されます。
- TIME の場合には、マークポイント名 TIME*** *が登録されます。
- UNLOCK の場合には、マークポイント UNLK*** *が登録されます。
- REC の場合には、マークポイント REC*** *が登録されます。
- BOF の場合には、マークポイント BOF*** *が登録されます。

*「***」は、全マークポイントに共通の通し番号です。

録音時間について

各ファイルフォーマットにおける、SD / SDHC / SDXCカード、USBメモリー容量別の録音時間を以下の表に示します。

ファイルフォーマット (録音時の容量)		SD / SDHC / SDXCカード、USBメモリー容量					CD-R / CD-RWディ スク容量	
		4GB	8GB	32GB	64GB	128GB	700MB	
WAV / BWF 16bit (STEREO / MONO (2ch))	44.1kHz	6時間17分	12時間35分	50時間23分	100時間39分	201時間16分	1時間05分	
	48kHz	5時間47分	11時間34分	46時間17分	92時間36分	185時間13分	1時間00分	
	96kHz	2時間53分	5時間47分	23時間08分	46時間17分	92時間36分	-----	
WAV / BWF 24bit (STEREO / MONO (2ch))	44.1kHz	4時間11分	8時間23分	33時間35分	67時間05分	134時間24分	43分	
	48kHz	3時間51分	7時間42分	30時間51分	61時間44分	123時間28分	40分	
	96kHz	1時間55分	3時間51分	15時間25分	30時間51分	61時間44分	-----	
MP3 (STEREO / MONO (2ch))	64kbps	44.1kHz / 48kHz	138時間	277時間	1111時間	2222時間	4444時間	24時間50分
	128kbps	44.1kHz / 48kHz	69時間26分	138時間	555時間	1111時間	2222時間	12時間25分
	192kbps	44.1kHz / 48kHz	46時間17分	92時間35分	370時間	740時間	1480時間	8時間15分
	256kbps	44.1kHz / 48kHz	34時間43分	69時間26分	277時間	555時間	1111時間	6時間10分
	320kbps	44.1kHz / 48kHz	27時間46分	55時間33分	222時間	444時間	888時間	4時間55分
CD-DA	44.1kHz	-----	-----	-----	-----	-----	1時間20分	

- 上記録音時間は目安です。ご使用のSD / SDHC / SDXCカード、USBメモリーにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD / SDHC / SDXCカード、USBメモリーに可能な録音合計時間です。
- MONO (MIX) 録音の場合は、上記録音時間の約2倍の時間となります。
- デュアルフォーマット (WAV16+MP3) 設定での録音の場合は、上記表のWAV / BWF 16bit (STEREO) での録音時間よりも短い録音時間になります。

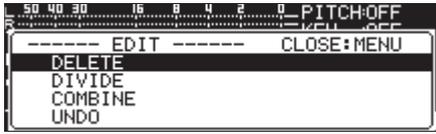
メモ

CD-R / CD-RWディスクへは、**MONO (2ch)** で録音することはできません。

第9章 エディットメニューを使う(USBメモリー／SDカードのみ)

エディットメニューの操作

SHIFTボタンを押しながらKEY [EDIT] ボタンを押すと、エディットメニューをポップアップ表示します。



MULTI JOGダイヤルを回して希望の項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

メモ

プロテクトされているSDカードがセットされているとき、以下の操作はできません。(→ 27ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」)

DELETE

選択したトラックを削除します。(→ 70ページ「トラックを削除する (DELETE)」)

DIVIDE

選択したトラックを分割します。(→ 71ページ「トラックを分割する (DIVIDE)」)

COMBINE

選択したトラックを結合します。(→ 72ページ「トラックを結合する (COMBINE)」)

UNDO

エディットメニューの操作を取り消します。(→ 72ページ「エディットメニューの操作を取り消す (UNDO)」)

トラックを削除する (DELETE)

ホーム画面に表示中のトラックをUSBメモリー／SDカードから削除することができます。

再生モードの設定がCONTINUE のときのみ可能です。

1. 削除するトラックを選択し、SHIFTボタンを押しながらKEY [EDIT] ボタンを押してエディットメニューをポップアップ表示します(→ 70ページ「エディットメニューの操作」)。
2. DELETE 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。以下のメッセージがポップアップ表示されます。



メモ

削除を中止するには、MENU [JOG] ボタンを押します。

3. MULTI JOGダイヤルを押します。再度確認のためのメッセージがポップアップ表示されます。
4. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、USBメモリー／SDカードから選択したトラックが削除されます。削除中は、「Deleting Track...」のようにポップアップ表示され、トラックが削除されます。

メモ

ファイルを削除した直後であれば、削除を取り消すことができます。(→ 72ページ「エディットメニューの操作を取り消す (UNDO)」)

トラックを分割する (DIVIDE)

録音したトラックを任意の位置で、2つのトラックに分割することができます。

再生モードの設定が **CONTINUE** のときのみ可能です。

注意

- MP3トラックを分割することは、できません。
- 分割を行うと、元のトラックは残りません。

メモ

分割したあとで、分割操作を取り消すことができます。(→ 72ページ「エディットメニューの操作を取り消す (UNDO)」)

1. 分割するトラックを選択し、**SHIFT**ボタンを押しながら**KEY [EDIT]** ボタンを押してエディットメニューをポップアップ表示します。(→ 70ページ「エディットメニューの操作」)
2. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、**DIVIDE** 項目を選択します。
3. **MULTI JOG**ダイヤルを押すと、ホーム画面が表示されます。このとき、分割のリハーサル状態になり、ホーム画面 **TRACK** モード表示のトラック経過時間に10msec単位の値が表示され、本体の**PLAY**ボタンと**PAUSE [CALL]** ボタンが点滅します。



4. スクラブ再生機能を使って、分割ポイントを正確に設定します。**MULTI JOG**ダイヤルを回すとスクラブ再生を行い、分割ポイントが移動します。

5. 分割ポイントを決めたら、**MULTI JOG**ダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



分割ポイントを変更する場合は、**MENU [JOG]** ボタンを押してください。

分割のリハーサル状態に戻りますので、手順3.からやり直します。

分割を実行する場合は、次の手順6.に進みます。

メモ

- 分割すると、トラック名の末尾に「_a」または「_b」が付加されたトラックが作成されます。

例)

分割前のトラック名

T001-20170101-123456.wav

分割後のトラック名

T001-20170101-123456_a.wav

T001-20170101-123456_b.wav

- 編集対象のトラックがプレイリストに登録されていた場合は、そのプレイリストは再生できなくなります。

PLAYLIST EDIT 画面でプレイリストから削除してください。

6. **MULTI JOG**ダイヤルを押すと、分割 (**DIVIDE**) を行います。分割中は、「**NOW WORKING...**」がポップアップ表示されます。



トラックを結合する (COMBINE)

録音した2つのトラックを結合して、1つのトラックにすることができます。

再生モードの設定が **CONTINUE** のときのみ可能です。

注意

- MP3形式のトラックを結合することは、できません。
- サンプリング周波数、チャンネル数、ファイル形式の異なる2つのトラックを結合することはできません。
- 同一トラックは結合できません。
- 結合を行うと、元の2つのトラックは残りません。

メモ

結合したあとで、結合操作を取り消すことができます。(→ 72ページ「エディットメニューの操作を取り消す (UNDO)」)

1. 結合するトラックを選択し、**SHIFT**ボタンを押しながら**KEY [EDIT]** ボタンを押してエディットメニューをポップアップ表示します (→ 70ページ「エディットメニューの操作」)。
2. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、**COMBINE** 項目を選択します。
3. **MULTI JOG**ダイヤルを押すと、結合トラックを選択するために **TRACK COMBINE** 画面が表示されます。



4. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、結合したいトラックを選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。
5. **SELECT** 項目を選択して、**MULTI JOG**ダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示され、本体の**PLAY**ボタンと**PAUSE [CALL]** ボタンが点滅し、結合ポイントの前後4秒間をリピート再生します。



結合を中止する場合は、**MENU [JOG]** ボタンを押します。
TRACK COMBINE 画面に戻りますので、手順4.からやり直します。

メモ

- 結合すると、2つのトラック名が連続したトラックが作成されます。
例)

結合前のトラック名

T001-20170101-123456.wav

T002-20170101-234501.wav

結合後のトラック名

T001-20170101-123456_T002-20170101-234501.wav

- 編集対象のファイルがプレイリストに登録されていた場合は、そのプレイリストは再生できなくなります。**PLAYLIST EDIT** 画面でプレイリストから削除してください。

6. **MULTI JOG**ダイヤルを押すと、結合 (COMBINE) を行います。結合中は、実行ポップアップが表示されます。

エディットメニューの操作を取り消す (UNDO)

エディットメニュー操作のうち、トラック分割 / トラック結合 / トラック削除については、操作を実行した直後に、操作を取り消すことができます。また、**BROWSE** 画面でのフォルダーやファイルの削除についても、操作を実行した直後に操作を取り消すことができます。再生モードの設定が **CONTINUE** のときのみ可能です。

メモ

取り消し操作を行うときは、エディットメニューを開く前のホーム画面で、どのトラックが選択されていてもかまいません。

1. **SHIFT**ボタンを押しながら**KEY [EDIT]** ボタンを押して、エディットメニューをポップアップ表示します。(→ 70ページ「エディットメニューの操作」)
2. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、**UNDO** 項目を選択します。
3. **MULTI JOG**ダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



4. **MULTI JOG**ダイヤルを押すと、取り消し (UNDO) を行います。取り消し中は、「NOW WORKING...」がポップアップ表示されます。



取り消し (UNDO) が終了すると、ホーム画面が表示されます。

メモ

- 取り消し (UNDO) を中止する場合は、**MENU [JOG]** ボタンを押します。
- 取り消し (UNDO) 可能なファイル操作が存在しない場合は、警告メッセージ「CAN'T UNDO」がポップアップ表示されます。

第10章 CD機能 (SS-CDR250Nのみ)

CD ページを使って、CD-R / CD-RWディスクのファイナライズ、CD-RWディスクのアンファイナライズ、トラック消去、ディスク消去、ディスクのリフレッシュ（全面消去）を行うことができます。本章では、これらのCD-R / CD-RWディスク管理機能について説明します。

以下の操作説明は、カレントメディアが「CD」に設定され、CD-R / CD-RWディスクが挿入されていることを前提としています。

メモ

CDメニューを使って、この他にCDとUSBメモリー / SDカード間のファイルコピーを行うことができます。

CD-R / CD-RWディスクのファイナライズ

CD-R / CD-RWディスクに録音を行った場合、本機以外のCDプレーヤー / CDドライブを使ってファイルを再生するには、ファイナライズを行う必要があります。

ファイル形式がデータCD形式（MP3）のときとオーディオCD形式（CD-DA）のときで、本機の動作が異なります。

データCD形式での録音時

CD-R / CD-RWディスクを取り出すときに本機が自動的にファイナライズを行います。したがって、データCD形式で録音したディスクをいったん本機から取り出すと、その後追記することができなくなります。

なお、CD-R / CD-RWディスクを取り出さずに電源をオフにした場合、次回電源をオンにしたときに本機が自動的にデータの修復を試み、ディスクのファイナライズを行います。

ディスクを取り出さずに、挿入した状態でメニューを使ってファイナライズを行うこともできます。（→ 73ページ「ファイナライズする」）

オーディオCD形式で録音時

オーディオCD形式による録音を行った場合、本機が自動的にファイナライズを行うことはありません。

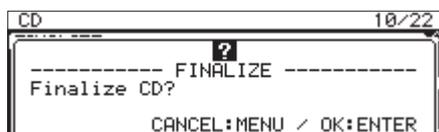
メニューを使ってファイナライズを行うまで、（ディスクに空き容量がある限り）何度でも追記することができます。ただし、ファイナライズを行う前の状態では、本機以外の機器で再生することができません。ファイナライズの方法は、次項をご覧ください。

ファイナライズする

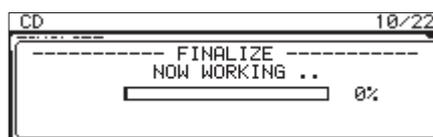
上記のように、本機を使ってオーディオCD形式で録音したCD-R / CD-RWディスクを他の機器で再生するには、ディスクを手動でファイナライズする必要があります。また、データCD形式で録音したディスクの場合、前述のようにディスク取り出し時に自動的にファイナライズされますが、ディスクを挿入した状態でも手動でファイナライズすることも可能です。

いずれの場合も、以下の手順でファイナライズを行います。

1. MEDIAボタンを使って MEDIA SELECT 画面を表示し、CD を選択します。（→ 28ページ「メディアを選択する」）
2. CD ページの FINALIZE 項目を選択し、FINALIZE 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



3. MULTI JOGダイヤルを押します。
ファイナライズが始まります。



ファイナライズを終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

メモ

ファイナライズ済みのCD-RWディスクをアンファイナライズすることができます。（→ 73ページ「CD-RWディスクをアンファイナライズする」）

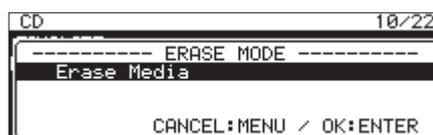
CD-RWディスクをアンファイナライズする

ファイナライズ済みのオーディオCD形式のCD-RWディスクが挿入されている場合には、ERASE 項目を使ってアンファイナライズを行うことができます。

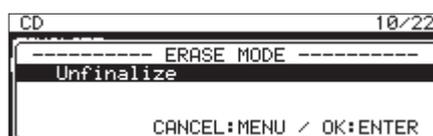
メモ

CD-RディスクやデータCD形式のCD-RWディスクは、アンファイナライズすることはできません。

1. CD ページの ERASE 項目を選択し、ERASE MODE 画面を表示します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）



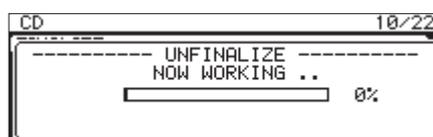
2. MULTI JOGダイヤルを回して、Unfinalize 項目を選択します。



3. MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



4. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、アンファイナライズを開始します。



アンファイナライズを終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

CD-RWディスクを消去する

書き込み済みのCD-RWディスク全体を消去することができます。

1. CD ページの **ERASE** 項目を選択し、**ERASE** 画面を表示します。
(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)
2. **MULTI JOG**ダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



3. **MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、ディスク消去を開始します。

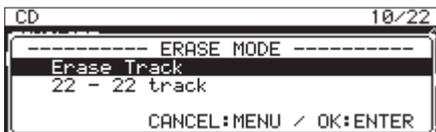


ディスク消去を終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

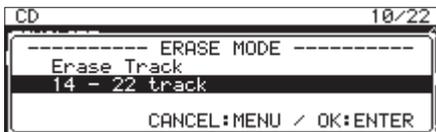
トラックを消去する

オーディオCD形式のCD-RWディスクの場合、トラックを消去することができます。指定のトラック番号以降（最終トラックまで）が消去されます。

1. CD ページの **ERASE** 項目を選択し、**ERASE MODE** 画面を表示します。
(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)
2. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、**Erase Track** 項目を選択します。



3. **MULTI JOG**ダイヤルを押します。
消去するトラック範囲の始まりのトラックを選択状態にします。



4. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、消去するトラック範囲の始まりのトラックを選択します。
上の表示例では、トラック **14** が選ばれています。
トラック範囲の最終トラック（上図の **22** 部）は、ディスクの最終トラックに固定され変更できません。

5. 選択が終了したら、**MULTI JOG**ダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



6. **MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、トラック消去を開始します。



トラック消去を終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

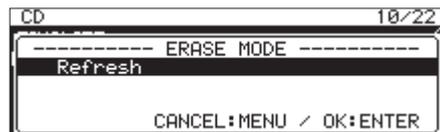
メモ

- ファイナライズ済みのCD-RWディスクに対してトラック消去を実行する場合は、CD-RWディスクをアンファイナライズしてから、指定のトラックの消去を行います。
- オーディオCD形式のディスクでのみ実行可能です。

ディスクをリフレッシュ（全面消去）する

CD-RWディスクをリフレッシュ（全面消去）することができます。停電などが原因でファイナライズの途中で強制終了したCD-RWディスクや、パソコンで使用したCD-RWディスクは、本機で認識できないことがあります。このような場合は、以下の手順でCD-RWディスクをリフレッシュすると、認識できるようになります。

1. CD ページの **ERASE** 項目を選択し、**ERASE MODE** 画面を表示します。
(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)
2. **MULTI JOG**ダイヤルを回して、**Refresh** 項目を選択します。



3. **MULTI JOG**ダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



4. **MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、CD-RWディスクのリフレッシュ（全面消去）を開始します。



CD-RWディスクのリフレッシュ（全面消去）を終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

USBメモリー／SDカードのファイルをブランクCDにコピー／変換コピーする

USBメモリー／SDカードに記録されているファイルを、ブランクCDにコピー（または変換コピー）することができます。

USBメモリー／SDカード上のMP3ファイルまたはWAVファイルをブランクCDにコピー／変換コピーする場合は、そのままのファイル形式でデータCDとして記録するか、オーディオCD形式で記録するかを選択します。

オーディオCDを選択した場合は、USBメモリー／SDカード上のMP3ファイルまたはWAVファイルを、オーディオCD形式に変換してブランクCDに記録することができます。

すでにトラックが記録されていてファイナライズされていないCD-R／CD-RWディスクを使う場合、ディスクの書き込み形式（オーディオCDまたはデータCD）がすでに決定していますので、その形式にしたがって記録を行います。

注意

本機は、CD-R／CD-RWディスクにWAVファイルを録音することはできませんが、USBメモリー／SDカード上のWAVファイルをCD-R／CD-RWディスクにコピーすることができます。CD-R／CD-RWディスクにコピーされたWAVファイルは、本機で再生することができます。

オーディオCDを作成する

USBメモリー／SDカード上のMP3ファイルまたはWAVファイルをオーディオCD形式に変換してCD-R／CD-RWディスクに書き込む手順を説明します。

以下の手順は、カレントメディアが「CD」に設定され、コピー元のファイルを含むUSBメモリー／SDカードおよびコピー先のCD-R／CD-RWディスクが本機に挿入されていることを前提にしています。

メモ

MENU [JOG] ボタンを押す、またはプルアップメニューの PREVIOUS STEP 項目を選択すると、1つ前の手順に戻ります。

1. CD ページの BURN TO CD 項目を選択します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）
2. MULTI JOGダイヤルを押して、ファイルのコピー元メディアの選択肢をポップアップ表示します。



3. MULTI JOGダイヤルを回して、コピー元のファイルのあるメディア名を選択します。
4. MULTI JOGダイヤルを押して、CD-R／CD-RWディスクの書き込み形式の選択肢をポップアップ表示します。



メモ

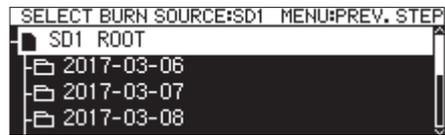
選択したメディアがセットされていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

5. MULTI JOGダイヤルを回して、CD-DA を選択します。

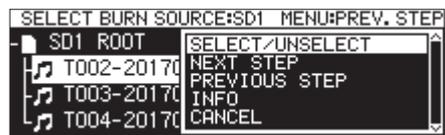
メモ

CD-R／CD-RWディスクにすでにオーディオ形式のファイルが書き込まれている場合は、書き込み形式の選択肢は表示されず、自動的に CD-DA が選択されます。

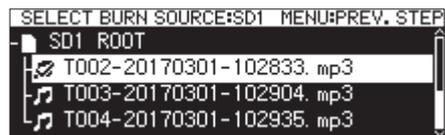
6. MULTI JOGダイヤルを押して、選択したメディアの SELECT BURN SOURCE 画面が表示します。



7. 希望のオーディオファイルを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。



8. ファイルメニューの SELECT/UNSELECT 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。選択したファイルには、チェックマーク (✓) が付きます。



ファイルのみ複数選択が可能です。フォルダーを選択することはできません。複数のファイルを選択するには、希望のファイルを選択した状態でファイルメニューから SELECT/UNSELECT 項目を選択して MULTI JOGダイヤルを押すという操作を繰り返します。選択したファイルを選択解除するには、ファイルメニューから SELECT/UNSELECT 項目を選択して MULTI JOGダイヤルを押します。

メモ

- コピー元ファイルのトータル容量が選択したメディアの残り容量を超える、またはトラック数がシステムの制限を超えると、それぞれ「No Free Space」、「Track limit reached.」、「Folder limit reached.」のメッセージがポップアップ表示されます。
 - この場合、MENU [JOG] ボタンを押してポップアップ表示を消し、コピー元のトータル容量あるいは数を減らしてから、NEXT STEP 項目を選択してください。
 - コピー元ファイルが4秒未満のファイルを選択しようとする、メッセージ「Cannot select as CD-DA track. This track is under 4sec.」がポップアップ表示されます。
9. CD-R／CD-RWディスクに書き込むファイルを全て選択したら、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。

第10章 CD機能 (SS-CDR250Nのみ)

10. ファイルメニューの **NEXT STEP** 項目を選択し、**MULTI JOG** ダイアルを押します。



11. **SELECT BURN TARGET** 画面が表示されます。
ファイルメニューの **NEXT STEP** 項目を選択し、**MULTI JOG** ダイアルを押します。



12. **MULTI JOG** ダイアルを押します。
確認のメッセージがポップアップ表示されます。



13. **MULTI JOG** ダイアルを押すと、**CD-R / CD-RW** ディスクへの書き込みを開始します。



書き込みが終了すると、**CD** メニュー画面に戻ります。

トラックリスト内のトラックを移動する

SELECT BURN TARGET 画面を表示中に、以下の手順でトラックの順番を変更することができます。すでに**CD-R / CD-RW** ディスクに書き込み済みのトラックの順番は、変更できません。

1. **MULTI JOG** ダイアルを回して、トラック順を変更したいトラックを選択します。
2. **MULTI JOG** ダイアルを押して、ポップアップメニューを表示します。
3. **MOVE TRACK** 項目を選択し、**MULTI JOG** ダイアルを押します。選択していた移動対象ファイルが点滅します。
4. **MULTI JOG** ダイアルを回して、移動対象ファイルを希望の位置に移動します。
5. **MULTI JOG** ダイアルを押して、移動を確定します。
6. 必要に応じて、上記手順1. ~ 5.を繰り返します。

トラックリスト内のトラックを削除する

SELECT BURN TARGET 画面を表示中に、以下の手順でトラックを削除することができます。すでに**CD-R / CD-RW** ディスクに書き込み済みのトラックは、削除できません。削除する場合は、74ページ「トラックを消去する」を参照ください。

1. **MULTI JOG** ダイアルを回して、削除したいトラックを選択します。

2. **MULTI JOG** ダイアルを押して、ポップアップメニューを表示します。
3. **CLEAR TRACK** 項目を選択し、**MULTI JOG** ダイアルを押すと、確認メッセージがポップアップ表示されます。
4. **MULTI JOG** ダイアルを押すと、選択したトラックがトラックリストから削除されます。
5. 必要に応じて、上記手順1. ~ 4.を繰り返します。

データCDを作成する

USBメモリー / SDカード上のMP3ファイルまたはWAVファイルをそのままの形式でデータCDにコピーする手順を説明します。以下の手順は、カレントメディアが「**CD**」に設定され、コピー元のファイルを含むUSBメモリー / SDカードおよびコピー先の**CD-R / CD-RW** ディスクが本機に挿入されていることを前提にしています。

注意

本機は、USBメモリー / SDカード上のWAVファイルを**CD-R / CD-RW** ディスクにコピーすることができますが、**CD-R / CD-RW** ディスクにWAVファイルの録音はできません。

メモ

MENU [JOG] ボタンを押す、またはブルーアップメニューの **PREVIOUS STEP** 項目を選択すると、1つ前の手順に戻ります。

1. **CD** ページの **BURN TO CD** 項目を選択します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)
2. **MULTI JOG** ダイアルを押して、ファイルのコピー元メディアの選択肢をポップアップ表示します。



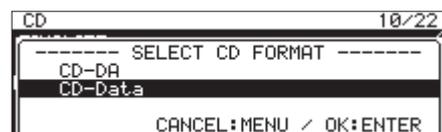
3. **MULTI JOG** ダイアルを回して、コピー元のファイルのあるメディア名を選択します。
4. **MULTI JOG** ダイアルを押して、**CD-R / CD-RW** ディスクの書き込み形式の選択肢をポップアップ表示します。



メモ

選択したメディアがセットされていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

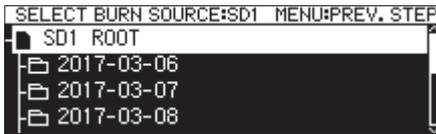
5. **MULTI JOG** ダイアルを回して、**CD-Data** を選択します。



メモ

CD-R / CD-RW ディスクにすでにMP3ファイルまたはWAVファイルが書き込まれている場合には、書き込み形式の選択肢は表示されず、自動的に **CD-Data** が選択されます。

6. MULTI JOGダイヤルを押して、選択したメディアの SELECT BURN SOURCE 画面が表示します。

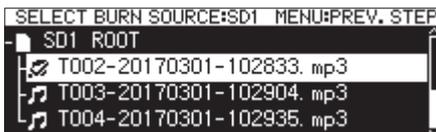


7. CD-R / CD-RWディスクにコピーするフォルダーまたはファイルを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。フォルダーを選択すると、フォルダー内のファイルが全てコピーされます。



8. ファイルメニューの SELECT/UNSELECT 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。

選択したフォルダーやファイルには、チェックマーク (✓) が付きます。



同一フォルダー内にあるフォルダーやファイルのみ、複数選択が可能です。

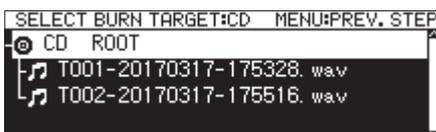
複数のフォルダーやファイルを選択する場合は、希望のフォルダーまたはファイルを選択した状態でファイルメニューから SELECT/UNSELECT 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すという操作を繰り返します。

選択したフォルダーやファイルを選択解除するには、ファイルメニューから SELECT/UNSELECT 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押します。

メモ

同一フォルダー内のフォルダー／ファイルのみ選択可能ですので、1つ目のフォルダー／ファイルを選択すると、以後は別のフォルダーに移動することができなくなります。

9. CD-R / CD-RWディスクに書き込むファイルを全て選択したら、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。
10. ファイルメニューの NEXT STEP 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。SELECT BURN TARGET 画面が表示されます。

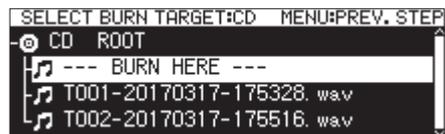


ディスクの空き容量やトラック数制限を超えるようなコピー元選択を行った場合には、BURN TARGET SELECT 画面に進むことができません。このような場合、選択したフォルダーやファイルの選択解除を行って、制限を超えないようにしてください。

メモ

- コピー元ファイルのトータル容量が選択したメディアの残り容量を超える、またはトラック数／フォルダー数がシステムの制限を超えると、それぞれ「No Free Space」、「Track limit reached.」、「Folder limit reached.」のメッセージがポップアップ表示されます。
- この場合、MENU [JOG] ボタンを押してポップアップ表示を消し、コピー元のトータル容量あるいは数を減らしてから、NEXT STEP 項目を選択してください。

11. MULTI JOGダイヤルを回して、書き込み位置 (ターゲット) を選択します。すでにフォルダー構造を持っているディスクの場合は、BROWSE 画面内を移動して書き込み位置を選択します。「BURN HERE」と表示された選択位置に、フォルダーやファイルが書き込まれます。



12. 書き込み位置を選択したら、ファイルメニューの NEXT STEP 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



メモ

名前の重複がある場合は、メッセージ「Cannot BURN. This name already exists.」がポップアップ表示されます。

13. MULTI JOGダイヤルを押すと、CD-R / CD-RWディスクへの書き込みを開始します。



書き込みが終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

メモ

EJECTボタンを押してCD-R / CD-RWディスクを取り出すとき、自動的にファイナライズを行ってからディスクを排出されます。(→ 73ページ「CD-R / CD-RWディスクのファイナライズ」)

CDのファイルをUSBメモリー／SDカードにコピー／変換コピーする

CD上のファイルをUSBメモリー／SDカードにコピー／変換コピーすることができます。オーディオCDからのコピーでは、各トラックが指定されたファイル形式（MP3ファイルまたはWAVファイル）に変換されて書き込まれます。

MP3ファイルやWAVファイルを記録したCD-R／CD-RWディスクからのコピーでは、そのままの形式で書き込まれます。

メモ

ライトプロテクトされているSDカードには、コピーできません。
 (→ 10ページ「SDカードのライトプロテクトについて」)

オーディオCDのトラックを変換コピーする

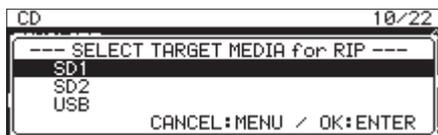
CD上のオーディオCD形式のトラックを、MP3形式またはWAV形式のファイルに変換して選択したメディア（USBメモリー／SDカード）に書き込む手順を説明します。

以下の手順は、カレントメディアが「CD」に設定され、コピー元のファイルを含むCDおよびコピー先の選択したメディアが本機にセットされていることを前提としています。

メモ

MENU [JOG] ボタンを押す、またはプルアップメニューの PREVIOUS STEP 項目を選択すると、1つ前の手順に戻ります。

1. CD ページの RIP TO MEMORY 項目を選択します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)
2. MULTI JOGダイヤルを押して、ファイルの変換コピー先メディアの選択肢をポップアップ表示します。



3. MULTI JOGダイヤルを回して、コピー先のメディア名を選択します。
4. MULTI JOGダイヤルを押して、CD-R／CD-RWディスクの書き込み形式の選択肢をポップアップ表示します。



メモ

選択したメディアがセットされていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

5. MULTI JOGダイヤルを回して、選択したメディアに記録するファイル形式を選択します。

FILE

ファイル形式を設定します。

選択肢：MP3、WAV、BWF

BITRATE

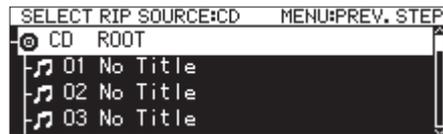
MP3形式のビットレートを設定します。

選択肢：64kbps、128kbps、192kbps、256kbps、320kbps

メモ

選択したメディアに記録するファイルのサンプリング周波数は、44.1kHz固定です。

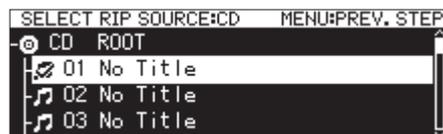
6. 全ての設定が終了したら、MULTI JOGダイヤルを押して SELECT RIP SOURCE 画面を表示します。



7. コピーするトラックを選択します。
 ソースにするファイルを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。



8. ファイルメニューの SELECT/UNSELECT 項目を選択して、MULTI JOGダイヤルを押します。
 選択したファイルには、チェックマーク (✓) が付きます。



複数のファイルを選択する場合、この操作を繰り返します。
 選択したファイルを選択解除するには、再びMULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。
 次に SELECT/UNSELECT 項目を選択して、MULTI JOGダイヤルを押します。

メモ

コピー元ファイルのトータル容量が選択したメディアの残り容量を超える、またはトラック数／フォルダー数がシステムの制限を超えると、それぞれ「No Free Space」、「Track limit reached.」、「Folder limit reached.」のメッセージがポップアップ表示されます。

この場合、MENU [JOG] ボタンを押してポップアップ表示を消し、コピー元のトータル容量あるいは数を減らしてから、NEXT STEP 項目を選択してください。

9. コピーする全てのファイルを選択したら、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。
10. ファイルメニューの NEXT STEP 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。



11. 書き込み先（ターゲット）選択を行うための RIP TARGET SELECT 画面が表示されます。

12. MULTI JOGダイヤルを回して、書き込み位置（ターゲット）を選択します。
 フォルダ構造を持っているメディアの場合は、BROWSE 画面内を移動して書き込み位置を選択します。
 「RIP HERE」と表示された選択位置に、フォルダやファイルが書き込まれます。



13. 書き込み位置を選択したら、ファイルメニューの NEXT STEP 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
 確認メッセージがポップアップ表示されます。



14. MULTI JOGダイヤルを押すと、選択したメディアに書き込みを開始します。



書き込みが終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

データCDのファイルをコピーする

データCD上のMP3ファイルまたはWAVファイルを、そのままの形式で選択したメディア（USBメモリー／SDカード）にコピーする手順を説明します。

以下の手順は、カレントメディアが「CD」に設定され、コピー元のファイルを含むCD-R／CD-RWディスクおよびコピー先の選択したメディアが本機にセットされていることを前提にしています。

メモ

MENU [JOG] ボタンを押す、またはプルアップメニューの PREVIOUS STEP 項目を選択すると、1つ前の手順に戻ります。

1. CD ページの RIP TO MEMORY 項目を選択します。（→ 21ページ「メニュー操作の手順」）
2. MULTI JOGダイヤルを押して、ファイルのコピー先メディアの選択肢をポップアップ表示します。

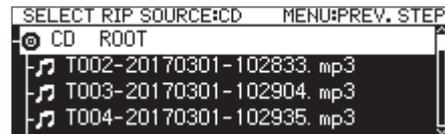


3. MULTI JOGダイヤルを回して、コピー先のメディア名を選択します。

メモ

選択したメディアがセットされていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

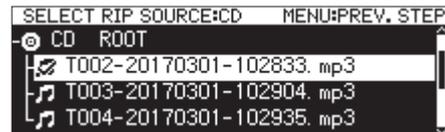
4. MULTI JOGダイヤルを押して、SELECT RIP SOURCE 画面を表示します。



5. コピーするファイルまたはフォルダを SELECT RIP SOURCE 画面内から選択し、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。
 フォルダを選択すると、フォルダ内のファイルが全てソースになります。



6. ファイルメニューの SELECT/UNSELECT 項目を選択して、MULTI JOGダイヤルを押します。
 選択したフォルダやファイルには、チェックマーク (✓) が付きます。



同一フォルダ内にあるフォルダやファイルのみ、複数選択が可能です。

複数のフォルダやファイルを選択する場合は、希望のフォルダまたはファイルを選択した状態でMULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示し、SELECT/UNSELECT 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すという操作を繰り返します。

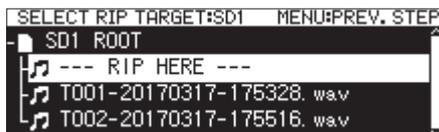
選択したフォルダやファイルを選択解除するには、MULTI JOGダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示し、SELECT/UNSELECT 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押します。

メモ

- 同一フォルダ内のフォルダ／ファイルのみ複数選択可能ですので、ファイルメニューの SELECT/UNSELECT 項目を使って1つ目のフォルダやファイルを選択すると、以後は別のフォルダに移動することができなくなります。
- コピー元ファイルのトータル容量が選択したメディアの残り容量を超える、またはトラック数／フォルダ数がシステムの制限を超えると、それぞれ「No Free Space」、「Track limit reached.」、「Folder limit reached.」メッセージがポップアップ表示されます。
- この場合、MENU [JOG] ボタンを押してポップアップ表示を消し、コピー元のトータル容量あるいは数を減らしてから、NEXT STEP 項目を選択してください。
- 7. コピーするファイルを全て選択したら、ファイルメニューの NEXT STEP 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押して選択を確定します。
 書き込み先（ターゲット）選択を行うための RIP TARGET SELECT 画面が表示されます。

第10章 CD機能 (SS-CDR250Nのみ)

8. MULTI JOGダイヤルを回して、書き込み位置（ターゲット）を選択します。
フォルダー構造を持っているメディアの場合は、BROWSE 画面内を移動して書き込み位置を選択します。
「RIP HERE」と表示された選択位置に、フォルダーやファイルが書き込まれます。



9. 書き込み位置を選択したら、ファイルメニューの NEXT STEP 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



メモ

コピー先にすでにあるファイルと名前が重複している場合は、メッセージ「Cannot RIP. This name already exists.」がポップアップ表示されます。

10. MULTI JOGダイヤルを押すと、選択したメディアに書き込みを開始します。



書き込みが終了すると、CD メニュー画面に戻ります。

第11章 タイマーイベント機能 (USBメモリー / SDカードのみ)

タイマーイベント機能をオン / オフする

タイマーイベント機能により、録音 / 再生 / ダウンロードなどの動作を、設定した時刻に自動で行うことができます。

1. **TIMER EVENT** ページの **TIMER EVENT** 項目を選択し、**TIMER EVENT** 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. タイマーイベント機能の有効 / 無効を設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	タイマーイベント機能を無効にします。
ON	タイマーイベント機能を有効にします。

3. 設定を確認し、メニュー画面に戻ります。

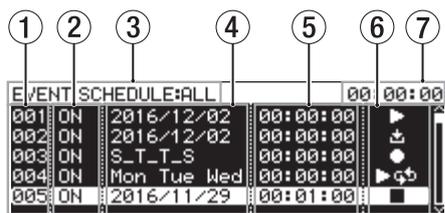
メモ

- タイマーイベント機能の設定がオンのとき、ホーム画面に  アイコンが表示されます。
- **PLAY AREA** が **PLAYLIST** に設定されている場合またはカレントメディアが「**CD**」の場合は、タイマーイベント機能は使用できません。

タイマーイベントリスト画面を表示する

タイマーイベントリスト画面は、イベントを設定時間に自動的に実施するタイマーイベントを表示 / 操作する画面です。

TIMER EVENT ページの **TIMER EVENT LIST** 項目を選択し、タイマーイベント画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



① No.表示

タイマーイベント番号を表示します。

② ON / OFF表示

タイマーイベントごとに実施する (ON) / しない (OFF) を表示します。

③ SCHEDULE表示

指定した範囲のイベントを表示します。
表示範囲の設定は、タイマーイベントリストメニューで行います。(→ 82ページ「タイマーイベントリストメニューの操作」)

表示	内容
ALL	全てのイベントを表示
TODAY	今日のイベントのみを表示
YYYY/MM/DD (年/月/日)	指定した日時のイベントを表示 例) 2016/11/11

④ イベント実施日付 / 曜日表示

イベントを実施する日付または曜日を表示します。

• 日付の場合

例) 2016/01/30
毎月指定の場合は、2017/**/30 のように表示します。

• 曜日の場合

3つ以下の曜日指定の場合は、Mon/Tue/Wed のように表示します。
4つ以上の曜日指定の場合は、_M_TFS のように曜日の頭文字のみを表示します。

• 毎日の場合

EVERY DAY と表示されます。

⑤ イベント実施時刻表示

イベントを実施する時刻を表示します。

⑥ TYPE表示

イベントの種類をアイコンで表示します。

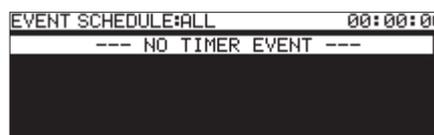
アイコン	内容
	再生
	リピート再生
	録音
	停止
	ダウンロード (FTPサーバーからダウンロード)
	削除後ダウンロード (カレントフォルダー内のオーディオファイルを全て削除後、FTPサーバーからダウンロード)

⑦ 現在時刻表示 (時 : 分 : 秒)

現在の内蔵時計の時刻を表示します。

メモ

イベントが登録されていない場合は、以下の画面が表示されます。



タイマーイベントリストメニューの操作

タイマーイベントリスト画面の希望のタイマーイベントを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してタイマーイベントリストメニューをポップアップ表示します。



MULTI JOGダイヤルを回して希望の項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

SET TO ON / SET TO OFF

選択したタイマーイベントを実施する (ON) / しない (OFF) を設定します。

EDIT EVENT

選択したタイマーイベントの EDIT EVENT 画面を表示します。(→ 82ページ「タイマーイベントを編集する」)

CREATE NEW EVENT

新しいタイマーイベントを作ります。(→ 86ページ「新しいタイマーイベントを作成する」)

DELETE

選択したタイマーイベントを削除します。(→ 86ページ「タイマーイベントを削除する」)

DELETE ALL

登録した全てのタイマーイベントを削除します。(→ 86ページ「登録した全てのタイマーイベントを削除する」)

SHOW ALL

登録した全てのタイマーイベントを表示します。

SHOW TODAY

当日のタイマーイベントだけを表示します。

SHOW SPECIFIED DATE

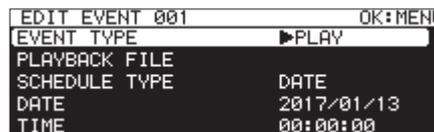
指定した日付のタイマーイベントだけを表示します。

CANCEL

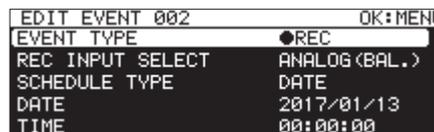
イベントリストメニューを閉じます。

タイマーイベントを編集する

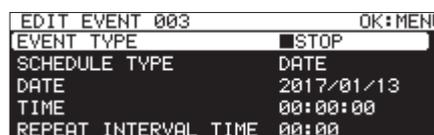
EDIT EVENT 項目を選択し、EDIT EVENT 画面を表示します。



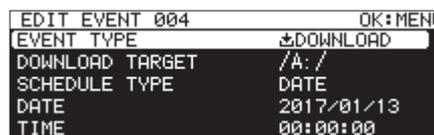
[EVENT TYPE 項目 PLAY または REPEAT PLAY 選択時の表示]



[EVENT TYPE 項目 REC 選択時の表示]



[EVENT TYPE 項目 STOP 選択時の表示]



[EVENT TYPE 項目 DOWNLOAD および DEL&DOWNLOAD 選択時の表示]

MENU[JOG]ボタンを押すと、編集内容を確認し、タイマーイベントリスト画面に戻ります。

MULTI JOGダイヤルを回して希望の項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

EVENT TYPE

設定時間に自動的に実施するタイマーイベントを設定 / 表示します。(→ 83ページ「イベントの種類を設定する」)

PLAYBACK FILE

EVENT TYPE 画面の設定が PLAY または REPEAT PLAY のとき、EDIT EVENT 画面に PLAYBACK FILE 項目が表示され、設定時間に自動的に再生を行うファイルを設定 / 表示します。(→ 83ページ「再生対象ファイルを選択する」)

REC INPUT SELECT

EVENT TYPE 画面の設定が REC のとき、EDIT EVENT 画面に REC INPUT SELECT 項目が表示され、設定時間に自動的に録音を実施する際の入力を設定 / 表示します。(→ 84ページ「録音時の入力を選択する」)

DOWNLOAD TARGET

EVENT TYPE 画面の設定が DOWNLOAD および DEL&DOWNLOAD のとき、EDIT EVENT 画面に DOWNLOAD TARGET 項目が表示され、設定時間に FTPサーバーから自動的にダウンロードを行う対象フォルダー / ファイルを設定 / 表示します。(→ 84ページ「FTPサーバーのダウンロード対象となるフォルダー / ファイルを設定する」)

SCHEDULE TYPE

タイマーイベントの実施スケジュールの種類を設定 / 表示します。(→ 84ページ「タイマーイベントの実施スケジュールを設定する」)

DATE

タイマーイベントを実施する年月日を指定 / 表示します。(→ 85ページ「タイマーイベントを実施する日付を設定する」)

TIME

タイマーイベントの実施時刻(時:分:秒)を設定 / 表示します。(→ 85ページ「タイマーイベントを実施する時刻を設定する」)

TIME MODE

再生対象ファイルの再生を指定時間に開始するか / 停止するかを選択 / 表示します。(→ 85ページ「再生タイマーイベントの指定時間の動作を設定する」)

REPEAT INTERVAL TIME

繰り返し実施するイベントの実行間隔(時:分)を指定 / 表示します。(→ 85ページ「繰り返し実施するイベントの実行時間を設定する」)

REPEAT EVENT COUNT

繰り返し実施するタイマーイベントの実行回数を指定 / 表示します。(→ 85ページ「イベントを繰り返す回数を設定する」)

イベントの種類を設定する

- EVENT TYPE 項目を選択し、EVENT TYPE 画面を表示します。



- 設定時間に自動的に実施するタイマーイベントを選択します。

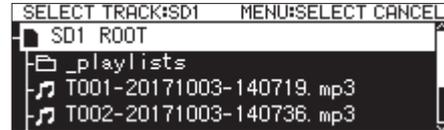
選択肢	内容
<input type="checkbox"/> PLAY	再生
<input checked="" type="checkbox"/> REPEAT PLAY	リピート再生
<input type="checkbox"/> REC	録音
<input type="checkbox"/> STOP	停止
<input checked="" type="checkbox"/> DOWNLOAD	ダウンロード (FTPサーバーからダウンロード)
<input checked="" type="checkbox"/> DEL&DOWNLOAD	削除後ダウンロード (カレントフォルダー内のオーディオファイルを全て削除後、FTPサーバーからダウンロード)

- MULTI JOGダイヤルを押します。
設定が確定し、EDIT EVENT 画面に戻ります。

再生対象ファイルを選択する

EVENT TYPE 画面の設定が PLAY または REPEAT PLAY のとき、EDIT EVENT 画面に PLAYBACK FILE 項目が表示されます。

- PLAYBACK FILE 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押して BROWSE 画面を表示します。



- 希望のファイルを再生対象ファイルとして選択し、EDIT EVENT 画面に戻ります。

再生対象ファイルを指定する

フォルダー選択の BROWSE 画面で MULTI JOGダイヤルを押して、メニューをポップアップ表示します。



KEYBOARD SCREEN 項目を選択して MULTI JOGダイヤルを押すと、ファイル名入力画面に切り換わります。
ファイル名入力画面で再生対象のファイル名を文字入力して、EDIT EVENT 画面に戻ります。
編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

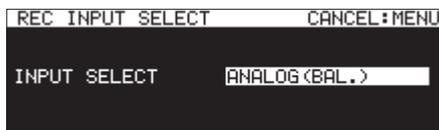
- メディアにないファイルも指定することができます。
- ファイル名入力画面では、半角英数字および記号以外の文字は入力できません。
- ファイル名が画面幅より広い場合、◀ [A-B] / ▶ [INPUT] ボタンでカーソルを移動すると、ファイル名が左右にスクロールして表示されます。左右端が表示されていない場合は、左右端に「...」が表示されます。
- BROWSE 画面に切り換えるには、ファイル名入力画面右上の BROWSE ▶ を選択して MULTI JOGダイヤルを押します。

第11章 タイマーイベント機能 (USBメモリー / SDカードのみ)

録音時の入力を選択する

EVENT TYPE 画面の設定が REC のとき、EDIT EVENT 画面に REC INPUT SELECT 項目が表示されます。

1. REC INPUT SELECT 項目を選択し、REC INPUT SELECT 画面を表示します。



2. 設定時間に自動的に録音を実施する際の入力を選択します。

選択肢	内容
ANALOG<UNBAL.>	ANALOG IN (UNBALANCED) L / R 端子から入力
ANALOG<BAL.>	MIC/LINE IN (BALANCED) L / R 端子から入力
DIGITAL<COAX.>	SPDIF IN端子から入力
DIGITAL<HLR>	AES/EBU IN端子から入力
DIGITAL<Dante>	Danteインターフェースカード「IF-DA2」から入力

メモ

DIGITAL<Dante> は、別売のDanteインターフェースカードIF-DA2を本機に挿入した場合のみ選択ができます。

注意

DIGITAL<Dante> に設定したあとに、DanteインターフェースカードIF-DA2を本機から取り外した場合、入力を切り換えずに録音のイベントを実施します。そのため、この場合は所望の音声録音されない可能性があります。

3. MULTI JOGダイヤルを押します。
設定が確定し、EDIT EVENT 画面に戻ります。

FTPサーバーのダウンロード対象となるフォルダー / ファイルを設定する

EVENT TYPE 画面の設定が DOWNLOAD および DEL&DOWNLOAD のとき、EDIT EVENT 画面に DOWNLOAD TARGET 項目が表示されます。

1. DOWNLOAD TARGET 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押してFTPサーバーの DOWNLOAD TARGET 画面を表示します。



2. FTPサーバーの BROWSE 画面で希望のフォルダー / ファイルをダウンロード対象フォルダー / ファイルとして選択し、MULTI JOGダイヤルを押して、フォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。
3. SELECT 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、ダウンロード対象フォルダー / ファイルが選択されて、EDIT EVENT 画面に戻ります。

パス名を入力してダウンロード対象となるファイル / フォルダーを選択する

FTPサーバーと接続できない状況でも、ダウンロード対象の名前を設定することができます。

FTPサーバーのフォルダー選択の BROWSE 画面でMULTI JOGダイヤルを押して、メニューをポップアップ表示します。



KEYBOARD SCREEN 項目を選択して、MULTI JOGダイヤルを押すとパス名入力画面に切り換わります。



パス名入力画面でダウンロード対象のパス名を文字入力して、EDIT EVENT 画面に戻ります。

編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

- パス名入力画面では、半角英数字および記号以外の文字は入力できません。
- 「/」 「:」 は、FTPサーバーのパス入力時にのみ表示されます。
- パス名が画面幅より広い場合、<< [A-B] / >> [INPUT] ボタンでカーソルを移動すると、パス名が左右にスクロールして表示されます。左右端が表示されていない場合は、左右端に「...」が表示されます。
- BROWSE画面に切り換えるには、パス入力画面右上の BROWSE▶ を選択してMULTI JOGダイヤルを押します。

タイマーイベントの実施スケジュールを設定する

1. SCHEDULE TYPE 項目を選択し、SCHEDULE TYPE 画面を表示します。



2. タイマーイベントの実施スケジュールの種類を選択します。

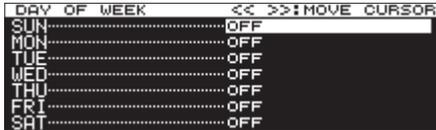
選択肢	内容
DAY OF WEEK	タイマーイベントを実施する曜日を指定できます。(毎週何曜日) (→ 85ページ「タイマーイベントを実施する曜日を設定する」)
DATE	タイマーイベントを実施する日付を指定できます。(→ 85ページ「タイマーイベントを実施する日付を設定する」)、(→ 85ページ「タイマーイベントを実施する時刻を設定する」)
EVERY DAY	毎日実施するタイマーイベントに設定できます。

3. MULTI JOGダイヤルを押します。
設定が確定し、EDIT EVENT 画面に戻ります。

タイマーイベントを実施する曜日を設定する

SCHEDULE TYPE 画面の設定が DAY OF WEEK のとき、EDIT EVENT 画面に DAY OF WEEK 項目が表示され、イベントを実施する曜日を指定できます。

1. DAY OF WEEK 項目を選択し、DAY OF WEEK 画面を表示します。



2. MULTI JOGダイヤルを回して、ON / OFFを切り換えます。MULTI JOGダイヤルを押すと、カーソルが次の行に移動します。
◀ [A-B] / ▶ [INPUT] ボタンで、カーソルを移動することもできます。

選択肢：OFF (初期値)、ON

3. カーソルが一番下の行にあるときにMULTI JOGダイヤルを押すと、設定が確定し、EDIT EVENT 画面に戻ります。MENU [JOG] ボタンを押すと、設定をキャンセルして EDIT EVENT 画面に戻ります。

タイマーイベントを実施する日付を設定する

SCHEDULE TYPE 画面の設定が DATE のとき、DATE 画面でタイマーイベントを実施する年 / 月 / 日を指定することができます。

1. SCHEDULE TYPE DATE 項目を選択し、DATE 画面を表示します。



2. イベントを実施する年 / 月 / 日を指定します。
3. 「年」 → 「月」 → 「日」を変更すると、カーソルが消え、日時の設定が終了します。

メモ

月エリアでは、1月 (01) と12月 (12) の間に毎月 (**) が指定できます。

タイマーイベントを実施する時刻を設定する

1. SCHEDULE TYPE DATE 項目を選択し、TIME 画面を表示します。



2. イベントの実施時刻 (時 : 分 : 秒) を指定します。
選択肢：00:00:00 (初期値) ~ 23:59:59
3. MULTI JOGダイヤルを回して、時刻の設定を変更します。MULTI JOGダイヤルを押すと、カーソルが右に移動します。
◀ [A-B] / ▶ [INPUT] ボタンで、カーソルを移動することもできます。
カーソルが秒にあるときにMULTI JOGダイヤルを押すと、設定が確定し、EDIT EVENT 画面に戻ります。

再生タイマーイベントの指定時間の動作を設定する

1. TIME MODE 項目を選択し、TIME MODE 画面を表示します。



2. 再生対象ファイルの再生を指定時間に開始するか / 停止するかを選択します。

選択肢	内容
START TIME	再生対象ファイルの再生を指定時間に開始するイベントとして設定します。
END TIME	再生対象ファイルの再生を指定時間に終了するイベントとして設定します。

繰り返し実施するイベントの実行時間を設定する

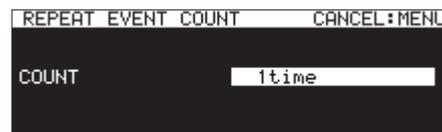
1. REPEAT INTERVAL TIME 項目を選択し、REPEAT INTERVAL TIME 画面を表示します。



2. 繰り返し実施するイベントの実行間隔 (時 : 分) を設定します。
選択肢：00:00 (初期値) ~ 23:59
3. 「時」 → 「分」を変更すると、カーソルが消え、日時の設定が終了します。

イベントを繰り返す回数を設定する

1. REPEAT EVENT COUNT 項目を選択し、REPEAT EVENT COUNT 画面を表示します。



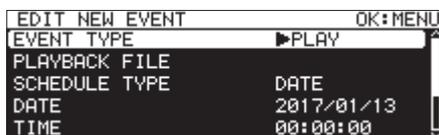
2. 繰り返し実施するイベントの実行回数を設定します。
選択肢：1time (初期値) ~ 100times

メモ

REPEAT EVENT COUNT 画面の設定が 1time のときは、イベントを繰り返しません

新しいタイマーイベントを作成する

1. CREATE NEW EVENT 項目を選択し、EDIT NEW EVENT 画面を表示します。



2. タイマーイベントの詳細を設定します。(→ 82ページ「タイマーイベントを編集する」)

メモ

登録／実行可能イベント数は200個です。

たとえば10回繰り返すイベントが25個ある場合は、実施イベントの総数が $10 \times 25 = 250$ 個になってしまうため、実施イベント数が200個以内となるリスト先頭から20個のイベントだけが実施され、後半5個のイベントは実施されません。

タイマーイベントを削除する

1. 削除したいタイマーイベントを選択し、タイマーイベントリストメニューをポップアップ表示します。(→ 82ページ「タイマーイベントリストメニューの操作」)
2. DELETE 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



3. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、選択しているタイマーイベントが削除されます。削除が終了すると、EDIT EVENT 画面に戻ります。

メモ

タイマーイベントの削除を中止するには、MENU [JOG] ボタンを押します。

登録した全てのタイマーイベントを削除する

1. タイマーイベントリストメニューをポップアップ表示します。(→ 82ページ「タイマーイベントリストメニューの操作」)
2. DELETE ALL 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



3. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、タイマーイベントリスト内の全てのタイマーイベントを削除します。削除が終了すると EDIT EVENT 画面に戻り、「---NO TIMER EVENT---

メモ

タイマーイベントリストの削除を中止するには、MENU [JOG] ボタンを押します。

マーク機能(USBメモリー / SDカードのみ)

マークポイントを登録する

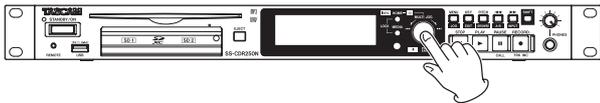
以下の方法でマークポイントを登録します。

マークポイントは、オートマーク機能によって登録されたマークポイントと合わせて、1つのファイルあたり最大99個まで登録することができます。

手動でマークポイントを登録する

MULTI JOGダイヤルを押すと、そのときの再生 / 録音時刻にマークポイントを登録することができます。

マークポイント名は、MARKxx となります。



注意

MP3ファイルの場合、本機で録音したMP3ファイルにのみマークポイントを登録できます。

自動でマークポイントを登録する

オートマーク機能を使って、録音中に自動でマークポイントを登録することができます。オートマーク機能については、68ページ「録音中に自動でマークポイントを登録する」をご参照ください。マークポイント名は、それぞれ以下ようになります。

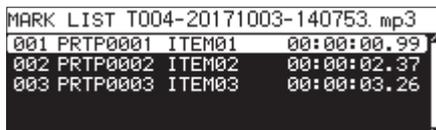
オートマーク機能による登録	マークポイント名表示
オーディオレベルが0dB (フルビット) になったとき	OVERxx
一定時間ごと	TIMExx
外部クロックとの同期が外れたとき	UNLKxx
プリ録音機能使用時の録音開始位置	RECxx
バッファオーバーフローが発生したとき	BOFxx

外部機器でマークポイントを登録する

株式会社オーディオテクニカのデジタルスマートミキサー「ATDM-1012 / ATDM-1012DAN」と組み合わせることにより、議事録用途に特化したマークポイントを登録することができます。

本機とATDM-1012 / ATDM-1012DANとの接続方法およびマークポイント登録方法は、ATDM-1012 取扱説明書をご参照ください。

この場合、1つのファイルあたり最大999個まで登録することができます。



[ATDM-1012にて登録したときの MARK LIST 画面表示]

画面表示	内容
PRTP	参加者 (Participants) を特定するためのID番号
ITEM	議事項目を特定するためのID番号

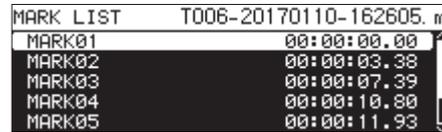
注意

- ATDM-1012 / ATDM-1012DANと組み合わせて使用する場合、オートマーク機能は無効になります。
- CD-R / CD-RWメディアは、ATDM-1012 / ATDM-1012DANからの制御の対象外となります。

マークポイントの操作

MARK LIST ページの MARK LIST 項目を選択し、MARK LIST 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

カレントファイルにマークポイントが登録されていない場合は、「No Mark Point」と表示します。



MARK LIST 画面内の希望のマークポイントを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してマークメニューをポップアップ表示します。



MULTI JOGダイヤルを回して希望の項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押すと、次の動作を行います。

LOCATE

選択したマークポイントの時刻に移動します。(→ 88ページ「マークポイントに移動する」)

EDIT TIME

選択したマークポイント時刻を編集する EDIT MARK TIME 画面を表示します。(→ 88ページ「マークポイントの位置を編集する」)

EDIT NAME

選択したマークポイント名を編集する MARK NAME 画面を表示します。(→ 88ページ「マークポイントの名前を編集する」)

DELETE

選択したマークポイントを削除します。(→ 88ページ「マークポイントを削除する」)

DELETE ALL

カレントファイルの全てのマークポイントを削除します。(→ 88ページ「カレントファイルの全てのマークポイントを削除する」)

SORT BY TIME

マークポイント時刻順にソートして表示します。

SORT BY NAME

マークポイント名順にソートして表示します。

INFO

カレントファイルの各種マークポイントの数をポップアップ表示します。(→ 88ページ「マークポイントの情報を見る」)

CANCEL

マークポイントメニューを閉じます。

メモ

ATDM-1012 / ATDM-1012DANでマークポイントを登録した場合は、LOCATE / DELETE / CANCEL 項目のみ表示されます。

マークポイントに移動する

MULTI JOGダイヤルの操作でマークポイントに移動する

ホーム画面表示中、再生中／再生待機中にMULTI JOGダイヤルを回すと、マークポイントが登録されている場合は、マークポイントへ移動します。

マークメニューを使ってマークポイントに移動する

1. MULTI JOGダイヤルを回して、移動したいマークポイントを選択します。
2. MULTI JOGダイヤルを回してマークメニューをポップアップ表示し、LOCATE 項目を選んでMULTI JOGダイヤルを押すと、選択したマークポイントに移動します。(→ 87ページ「マークポイントの操作」)

マークポイントの名前を編集する

1. 名前を編集したいマークポイントを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してマークメニューをポップアップ表示します。(→ 87ページ「マークポイントの操作」)
2. マークメニューの EDIT NAME 項目を選択しMULTI JOGダイヤルを押して、MARK NAME 画面を表示します。



3. マークポイント名を入力します。
マークポイント名の編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

- オートマーク機能によって登録されたマークポイントは、編集できません。
- マークポイントの名前の編集は、停止中、再生待機中のみ可能です。

マークポイントを削除する

1. 削除したいマークポイントを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してマークメニューをポップアップ表示します。(→ 87ページ「マークポイントの操作」)
2. マークメニューの DELETE 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。
3. MULTI JOGダイヤルを押すと、再度確認のメッセージがポップアップ表示されます。
4. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、選択したマークポイントを削除します。

メモ

マークポイントの削除は、停止中／再生待機中のみ可能です。

カレントファイルの全てのマークポイントを削除する

1. MULTI JOGダイヤルを押して、マークメニューをポップアップ表示します。(→ 87ページ「マークポイントの操作」)
2. マークメニューの DELETE ALL 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。
3. MULTI JOGダイヤルを押すと、再度確認のメッセージがポップアップ表示されます。
4. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、カレントファイルの全てのマークポイントを削除します。

メモ

マークポイントの削除は、停止中／再生待機中のみ可能です。

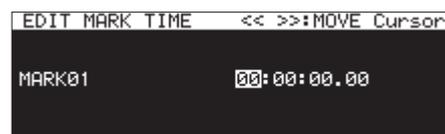
マークポイントの位置を編集する

MULTI JOGダイヤル操作で付けたマークポイント（マークポイント名が MARK:xx のもの）は、マークポイントの位置（時刻）を編集することができます。

メモ

- オートマーク機能によって登録されたマークポイントは、編集できません。
- マークポイントの位置の編集は、停止中／再生待機中のみ可能です。

1. 位置を編集したいマークポイントを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してマークメニューをポップアップ表示します。(→ 87ページ「マークポイントの操作」)
2. マークメニューの EDIT TIME 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
3. EDIT MARK TIME 画面が表示されるので、MULTI JOGダイヤルを使って時刻を変更します。



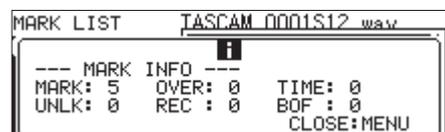
最後の桁でMULTI JOGダイヤルを押して確定し、MARK LIST 画面に戻ります。

メモ

- 編集中にMENU [JOG] ボタンを押すと変更を中止し、MARK LIST 画面に戻ります。
- USBキーボードで数字を入力することもできます。

マークポイントの情報を見る

MULTI JOGダイヤルを押してマークメニューをポップアップ表示し、INFO 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すとカレントファイルの各種マークポイントの数をポップアップ表示します。(→ 87ページ「マークポイントの操作」)



MENU [JOG] ボタンを押すと、ポップアップ表示を閉じます。

指定した位置にロケートする

USBキーボードを使用すると、停止中／再生中／再生待機に、指定した位置に移動（ロケート）することができます。

注意

再生モードが **PROGRAM** または **RANDOM**、再生対象が **PLAYLIST** または **FOLDER** のときは、ロケートを行うことができません。

ホーム画面で*キー（アスタリスクキー）を押すと、トラック番号と時間表示がクリアされて、数字入力待ち状態になります。

そのままテンキーを使って、以下の順番で数字を入力します。

- トラック番号：3桁
- トラックの先頭からの経過時間
xx時 xx分 xx秒 xx（10msec単位）：それぞれ2桁

たとえば、トラック2の先頭から1分30秒の位置を指定する場合、以下の順にボタンを押します。

0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 0 → 1 → 3 → 0 → 0 → 0

11桁の数字入力を終えた時点で、自動的に指定位置にロケートします。

本機のロケート後の状態（停止中／再生待機中／再生中）は、ロケート前の状態と同じになります。

この条件により、再生中にロケートを行った場合のみ、ロケート後もその位置からすぐに再生が始まります。

メモ

USBキーボードのBackspaceキーまたは / キー（バックスラッシュキー）を押すと、入力した数値を1桁削除します。

途中まで指定したロケート条件でサーチを行う

指定する時間の値の入力が完了する前にUSBキーボードのEnterキーを押す、本体の**MULTI JOG**ダイヤルを押す、または**PLAY**ボタンや**PAUSE [CALL]** ボタンを押すと、その時点で入力した指定位置にロケートします。

たとえば、下記の順序で途中までボタンを押します。

0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 1 → 2

この状態で**PLAY**ボタンを押すと、トラック2の先頭から12分の位置にロケートします。

ロケート前に押したボタンによって、ロケート後の動作が異なります。

MULTI JOGダイヤルを押した場合：

ロケート前の状態に応じて再生または再生待機状態になります。

PLAYボタンを押した場合：

再生を開始します。

PAUSE [CALL] ボタンを押した場合：

再生待機状態になります。

第13章 ネットワーク機能

ネットワーク機能の設定

本機はイーサネット端子を使用し、ネットワーク接続することで、ファイルの転送や外部からの本体制御ができます。

NETWORK 1 ページおよび NETWORK 2 ページを使って、ネットワーク機能の設定を行います。

```
NETWORK 1:LINKED 13/22
[MAC ADDRESS 00-02-EE-01-90-05]
[IP ADDRESS 192.168.100.100]
[DNS ADDRESS 0.0.0.0]
IP SETUP STATIC
DNS SETUP STATIC
```

```
NETWORK 2 14/22
IP PASSWORD >>
NICKNAME >>
ADMIN PASSWORD >>
```

LINKED / UNLINKED

NETWORK ページに続いて、機器間のネットワークのリンク状態を表示します。

表示	内容
LINKED	リンクが確立されています。
UNLINKED	リンクが確立されていません。

MAC ADDRESS

本機のMACアドレスを表示します。

IP ADDRESS

現在のIPアドレスを表示します。

DNS ADDRESS

DNSサーバーのIPアドレスを表示します。

IP SETUP

IP SETUP 画面の MODE 項目の設定状態を表示します。

IP SETUP 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、IP SETUP 画面を表示します。

```
IP SETUP << >>:MOVE Cursor
MODE STATIC
IP ADDR 192.168.100.100
SUBNET 255.255.255.0
GATEWAY 192.168.100.1
APPLY
```

[MODE 項目 STATIC 選択時の画面表示]

```
IP SETUP
MODE AUTO
```

[MODE 項目 AUTO 選択時の画面表示]

MODE 項目：

IPアドレスの設定モードを設定します。

選択肢	内容
STATIC	IP SETUP 画面の IP ADDR / SUBNET / GATEWAY 項目を手動で設定します。
AUTO (初期値)	IP SETUP 画面の IP ADDR / SUBNET / GATEWAY 項目を自動で設定します。ネットワーク上に DHCPサーバーが存在する場合に、この設定にします。

IP ADDR / SUBNET / GATEWAY 項目：

IP SETUP 画面の MODE 項目が STATIC のとき、IP ADDR / SUBNET / GATEWAY 項目を表示し、設定を変更することができます。

選択肢：0 ~ 255

(IP ADDR 項目の初期値：192. 168. 100. 100)

(SUBNET 項目の初期値：255. 255. 255. 0)

(GATEWAY 項目の初期値：192. 168. 100. 1)

MODE 項目が STATIC の場合、最後の行の APPLY でMULTI JOGダイヤルを押すと、変更した設定を確認しメニュー画面に戻ります。

メモ

MENU [JOG] ボタンを押すと、メニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。

DNS SETUP

DNS SETUP 画面の MODE 項目の設定状態を表示します。

DNS SETUP 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、DNS SETUP 画面を表示します。

```
DNS SETUP << >>:MOVE Cursor
MODE STATIC
DNS ADDR 0.0.0.0
APPLY
```

[MODE 項目 STATIC 選択時の画面表示]

```
DNS SETUP
MODE AUTO
```

[MODE 項目 AUTO 選択時の画面表示]

DNS SETUP 画面は、サーバー名からIPアドレスを調べるためのDNSサーバーのIPアドレスを設定します。

MODE 項目：

IPアドレスの設定モードを設定します。

選択肢	内容
STATIC	DNSサーバーのIPアドレスを手動で設定します。
AUTO (初期値)	DNSサーバーのIPアドレスを自動で設定します。ネットワーク上にDNSサーバーのIPアドレスを返すDHCPサーバーが存在する場合に、この設定にします。

DNS ADDR 項目：

DNS SETUP 画面の MODE 項目が STATIC のとき、DNS ADDR 項目を表示し、設定を変更することができます。

選択肢：0 ~ 255 (初期値：0. 0. 0. 0)

MODE 項目が STATIC の場合、最後の行の APPLY でMULTI JOGダイヤルを押すと、変更した設定を確認しメニュー画面に戻ります。

メモ

MENU [JOG] ボタンを押すと、メニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。

IP PASSWORD

IP PASSWORD 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、PASSWORD 画面を表示します。



IPパスワード（初期値：SS-CDR250N / SS-R250N）を設定します。入力文字数は、10文字までです。編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

PRESET でMULTI JOGダイヤルを押すと、初期値 SS-CDR250N / SS-R250N を入力します。

NICKNAME

NICKNAME 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、NICKNAME 画面を表示します。



個体識別名（ NICKNAME 、初期値：SS-CDR250N / SS-R250N）を設定します。

個体識別名を設定しておく、リモートコントロールアプリケーション「TASCAM SS250 CONTROL」で個体識別をすることが可能になります。

入力文字数は16文字までです。

編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

PRESET でMULTI JOGダイヤルを押すと、初期値 SS-CDR250N / SS-R250N を入力します。

ADMIN PASSWORD

ADMIN PASSWORD 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、ADMIN PASSWORD 画面を表示します。



管理者パスワード（ ADMIN PASSWORD 、初期値：SS-CDR250N / SS-R250N）を設定します。

管理者パスワードを設定しておく、リモートコントロールアプリケーション「TASCAM SS250 CONTROL」で電源管理を実行することが可能になります。

入力文字数は10文字までです。

編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

PRESET でMULTI JOGダイヤルを押すと、初期値 SS-CDR250N / SS-R250N を入力します。

FTPクライアント機能の設定

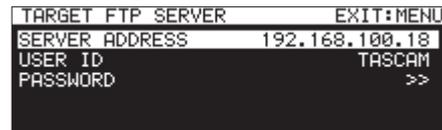
FTP CLIENT ページを使って、FTPクライアント機能の設定を行います。



TARGET FTP SERVER

TARGET FTP SERVER 画面を表示します。

FTPサーバーに接続するための各種設定を行います。



SERVER ADDRESS 項目：

接続先のFTPサーバーのアドレスを設定します。

USER ID 項目：

FTPサーバーに接続する際のユーザー IDを設定します。

PASSWORD 項目：

FTPサーバーに接続する際のパスワードを設定します。

FTPS MODE

FTPS MODE 画面の MODE 項目の設定状態を表示します。

FTPS MODE 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、FTPS MODE 画面を表示します。



FTPS MODE 画面は、FTPで送受信するデータをSSLで暗号化するモードを設定します。

MODE 項目：

選択肢	内容
AUTO (初期値)	SSLで暗号化されたFTPSでの接続を試行し、接続ができない場合は通常のFTPで接続するモードです。
OFF	通常のFTPで接続するモードです。

メモ

- 接続するFTPサーバーがFTPSに未対応の場合に AUTO に設定していると、本機のFTPクライアント機能によるデータ転送が遅くなる場合があります。
- SSLで暗号化された接続が不要な場合は、FTPS MODE 設定を OFF に切り換えることでデータ転送速度が向上する場合があります。
- 本機のFTPSは、Explicitモードに対応しています。
- 暗号化プロトコル仕様について
 - SSLv3/TLSv1に対応
 - TLSv1はTLSv1.0/1.1/1.2に対応
 - 暗号化アルゴリズム：ARC4 (RC4)、DES、3DES、AES
 - ハッシュアルゴリズム：MD5、SHA1、SHA256

第13章 ネットワーク機能

TARGET FOLDER NAME

FTPサーバーへのアップロード先／FTPからのダウンロード元フォルダーの初期値を設定します。

1. TARGET FOLDER NAME 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押してFTPサーバーの BROWSE 画面を表示します。
2. FTPサーバーの BROWSE 画面で対象フォルダーを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してフォルダーメニューをポップアップ表示して SELECT 項目を選択し、メニュー画面に戻ります。

パス名を入力して対象となるフォルダーを選択する

FTPサーバーと接続できない状況でも、対象のフォルダー名を設定することができます。

FTPサーバーのフォルダー選択の BROWSE 画面でMULTI JOGダイヤルを押して、メニューをポップアップ表示します。



KEYBOARD SCREEN 項目を選択して、MULTI JOGダイヤルを押すとパス名入力画面に切り換わります。



パス名入力画面で対象のパス名を文字入力して、メニュー画面に戻ります。

編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

- パス名入力画面では、半角英数字および記号以外の文字は入力できません。
- 「/」 「:」 は、FTPサーバーのパス入力時にのみ表示されます。
- パス名が画面幅より広い場合、◀◀ [A-B] / ▶▶ [INPUT] ボタンでカーソルを移動すると、パス名が左右にスクロールして表示されます。左右端が表示されていない場合は、左右端に「...」が表示されます。
- BROWSE 画面に切り換えるには、パス入力画面右上の BROWSE▶ を選択してMULTI JOGダイヤルを押します。

ACCESS TEST

MULTI JOGダイヤルを押すと設定されたFTPサーバーへの接続テストを実施し、結果をポップアップ表示します。



上記は、接続結果の一例です。

AUTO UPLOAD

AUTO UPLOAD 画面の MODE 項目の設定状態を表示します。

AUTO UPLOAD 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、AUTO UPLOAD 画面を表示します。



AUTO UPLOAD 画面は、録音が完了したファイルをFTPサーバーに自動的にアップロードする際の設定をします。

MODE 項目：

選択肢	内容
OFF (初期値)	自動的にアップロードしません。
ON	自動的にアップロードします。
DEL. AFTER UPLOAD	アップロードしたファイルを自動的に削除します。

メモ

カレントメディアが「CD」の場合、自動アップロード機能は無効になります。また、その時 FTP CLIENT ページの AUTO UPLOAD 項目の設定表示は「---」表示となります。

FTPサーバー機能

パソコンのFTPクライアントアプリケーションを使用することで、本機とパソコンの間でのファイル転送が可能です。他のFTPサーバーと同じように本機に接続してログインしてください。

接続してログインするとルートディレクトリーに「A:」「B:」「C:」と表示されます。これらはそれぞれ「SD1」「SD2」「USB」のメディアとなります。

該当するメディアが装着されていない場合は、「A:」「B:」「C:」以下の内容は表示されません。

メモ

- FTPサーバー機能を使ってCDメディアへアクセスすることはできません。
- 動作確認済みFTPクライアントアプリケーションについては、タスカム カスタマーサポート（巻末に記載）までお問い合わせください。

FTP接続する際に必要となる設定値

本機にFTP接続する際に必要な設定値は、以下の通りです。

IPアドレス	: 本機のIPアドレスは NETWORK 1 ページの IP ADDRESS 項目に表示されます。
ポート番号	: 21
ユーザー名	: SS-CDR250M / SS-R250M 大文字と小文字を区別します (変更はできません)。
パスワード	: デフォルトのパスワードは、SS-CDR250M / SS-R250M です。大文字と小文字を区別します。PASSWORD 画面で変更することができます。(→ 90ページ「ネットワーク機能の設定」)

メモ

- 同時接続数は「1」です。
- FTPクライアントアプリケーションによっては、本機にFTP接続が同時に2つできる場合もありますが、正常にファイルを転

送できなくなる可能性がありますので、同時に2つ以上のFTP接続を本機に行わないでください。

- **LOCK SETUP** 画面の **232C/PARA/NETWORK** が **LOCK** に設定されている場合は、FTP接続できません。(→ 29ページ「ロック機能の設定」)
- FTP接続中に **LOCK** に設定されると、FTP接続が切断されます。
- FTP接続中に **NETWORK 1** ページまたは **NETWORK 2** ページの設定を変更すると、FTP接続が切断されます。

FTPクライアントアプリケーションによるファイル操作について

1. 本機からのファイルの読み出し
現在録音中のファイルを除き、本機からのファイル読み出しは、常時可能です。
2. 本機への新規ファイル追加
本機への新規ファイル追加は、常時可能です。
録音時にカレントフォルダーにBWFファイル、WAVファイル、MP3ファイルを追加した場合は、既存ファイル／録音ファイル／追加ファイルの順でリストに表示されるようになります。
3. 本機の既存ファイルへの上書き
カレントファイルへの上書きは、停止中のみ可能です。
これ以外の既存ファイルへの上書きは、常時可能です。ただし、**PLAY MODE** 画面の **PLAY MODE** 項目が **ALL** に設定で再生中の場合、タイミングによってはカレントファイルの次のファイルに上書きができない場合があります。(→ 31ページ「再生モードを設定する」)

注意

- 音声ファイルのサイズ／チャンネル数／ビット長／Fsが上書き前のファイルから変わってしまうと、不整合が生じる場合があります。
不整合が生じた状態で再生すると、エラーメッセージが表示される場合があります。
不整合を解消してエラーメッセージが表示されないようにするには、該当ファイルをメディアから削除してください。
 - Fsの異なるファイルで既存の音声ファイルを上書きしないでください。不整合を解消することができなくなります。
4. 本機のファイルの削除
カレントファイルの削除は、停止中のみ可能です。
カレントファイル以外のファイルは、常時削除可能です。ただし、管理ファイルと音声ファイルとの間に不整合が生じるため、ファイル削除後（再生／録音中の場合は停止後）に自動的に管理ファイルを更新します。
この際、メッセージ「**WRITING SYSTEM FILE**」がポップアップ表示されます。

注意

- メッセージ「**WRITING SYSTEM FILE**」表示中は、再生／録音できません。
FTPクライアントからフォルダー／ファイルを削除する際は、タイミングにご注意ください。
5. 本機への新規フォルダー追加
本機への新規フォルダー追加は、常時可能です。
 6. 本機のフォルダーの削除
カレントフォルダーの削除は、停止中のみ可能です。
カレントフォルダー以外のフォルダーは、常時削除可能です。
 7. 本機のファイル／フォルダーの名前変更
本機のファイル／フォルダーの名前は、変更できません。

リモートコントロール

本機は、ポート23番経由でTelnetを使ったイーサネットによるリモートコントロールが可能です。

Telnet接続する際に必要となる設定値

本機にTelnet接続する際に必要な設定値は、以下の通りです。

- IPアドレス：本機のIPアドレスは、**NETWORK 1** ページの **IP ADDRESS** 項目に表示されます。
- ポート番号：23
- パスワード：デフォルトのパスワードは、**SS-CDR250N** / **SS-R250N** です。大文字と小文字を区別します。
PASSWORD 画面で変更することができます。(→ 90ページ「ネットワーク機能の設定」)

本機にTelnet接続する

1. 上記IPアドレス、ポート番号で本機にTelnet接続後、パソコンのEnterキーを押してください。
2. Telnetコンソールに“**Enter Password**”と表示されますので、上記パスワードを入力してEnterキーを押してください。
3. ログインに成功するとTelnetコンソールに“**Login Successful**”と表示されます。
“**exit**”と入力してEnterキーを押すとTelnet接続を切断します。

メモ

- 同時に3つのTelnet接続が可能です。
- **LOCK SETUP** 画面の **232C/PARA/NETWORK** 項目が **LOCK** に設定されている場合は、Telnet接続できません。Telnet接続中に **LOCK** に設定されると、Telnet接続が切断されます。(→ 29ページ「ロック機能の設定」)
- Telnet接続中に **NETWORK 1** ページおよび **NETWORK 2** ページの設定を変更すると、Telnet接続が切断されます。
- 本機のTelnetコマンドプロトコルについては、タスカム カスタマーサポート（巻末に記載）までお問い合わせください。

SNTP機能の設定

SNTP ページを使って、自動的にインターネット時刻サーバーの日時と同期するための設定を行います。



SNTP STATUS

SNTP機能の現在の状態を表示します。

表示	状態
SUCCESSFUL UPDATE	正常に時刻を更新した。
SUCCESS UPDATE (SKEW)	遅延したが時刻を更新。
STARTING UP	初期化中。
ACCESSING SERVER	サーバーに接続中。
DISABLED	SNTP機能が無効状態。
WAITING FOR NETWORK	ネットワーク接続の確立待ち。
SERVER NAME NOT FOUND	サーバー名がDNSサーバーから見つからなかった。
SERVER NAME FOUND	サーバー名がDNSサーバーから見つかった。
SERVER CONNECT FAILED	サーバーから反応がなかった。
REFUSING CONNECTIONS	サーバーから反応があったが、これ以上の接続を拒否しているため、他のSNTPサーバーを選んだ方がよい状態。

SNTP UPDATE

SNTP UPDATE 画面の MODE 項目の設定状態を表示します。

SNTP UPDATE 項目を選択し、SNTP UPDATE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



MODE 項目 :

SNTP機能の更新モードを設定します。

選択肢	内容
DISABLE (初期値)	SNTP機能の更新モードを使用しない。
START UP	本機の起動時にNTPサーバーから時刻を取得し、内蔵時計の時刻を更新します。
START UP/24CYCLE	本機の起動時、およびその後 TIME 項目で設定された時刻に24時間周期でNTPサーバーから時刻を取得し、内蔵時計の時刻を更新します。

TIME 項目 :

NTPサーバーから時刻を取得する時刻を設定します。

選択肢 : 00:00 - 00:09 ~ 23:00 - 23:09 (01:00 ステップ、初期値 : 00:00 - 00:09)

メモ

- SNTP機能を使用する場合、次に説明する NTP SERVER 項目と NETWORK 1 ページの DNS SETUP 項目の設定が必要です。
- この画面では、協定世界時 (UTC) ではなく、現地時間で設定します。
- 00分ちょうどにSNTPサーバーへのアクセスが重なる可能性を減らすために、00分~09分の間でランダムにSNTPサーバーにアクセスします。

NTP SERVER

NTP SERVER 画面の設定状態を表示します。

NTP SERVER 項目を選択し、NTP SERVER 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



NTPサーバー名 (32文字以下、初期値: ntp.nict.jp) を編集します。IPアドレスを登録することも可能です。編集方法については、64ページ「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

PRESET▲ でMULTI JOGダイヤルを押すと、プルアップメニューが表示されます。



MULTI JOGダイヤルを回してメニュー項目を選び、MULTI JOGダイヤルを押すと、選択した項目のプリセット値が入力されます。

プルアップメニューを閉じるには、MENU [JOG] ボタンを押します。

TIME ZONE

TIME ZONE 画面の TIME ZONE 項目の設定状態を表示します。

TIME ZONE 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、TIME ZONE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



TIME ZONE 項目：

協定世界時 (UTC) からのオフセット時間を設定します。

選択肢：-12:00 ~ +14:00

(00:15 / step、初期値：+09:00)

メモ

- 日本標準時 (JST) に合わせる場合は、+09:00 に設定します。
- アメリカの場合は、下記のように設定します。

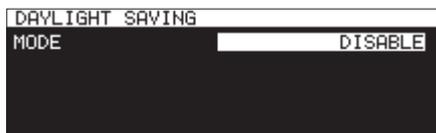
地域	設定
太平洋標準時 (PST) の地域	-08:00
山地標準時 (MST) の地域	-07:00
中部標準時 (CST) の地域	-06:00
東部標準時 (EST) の地域	-05:00

DAYLIGHT SAVING

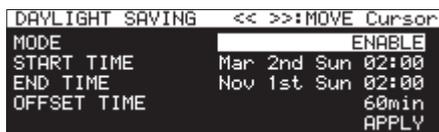
設定された期間中に内蔵時計を進める夏時間機能の設定画面です。

DAYLIGHT SAVING 画面の MODE 項目の設定状態を表示します。

MODE 項目の選択肢を ENABLE に選択中MULTI JOGダイヤルを押すと、夏時間機能の設定項目を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



[MODE 項目 DISABLE 選択時]



[MODE 項目 ENABLE 選択時]

MODE 項目：

夏時間機能を有効にするかどうかを設定します。

選択肢

DISABLE (初期値) : 夏時間機能を無効にします。

ENABLE : 夏時間機能を有効にします。

START TIME 項目 / END TIME 項目：

夏時間機能の開始 / 終了する日時を設定します。

設定項目	選択肢
月	Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、 Jul、Aug、Sep、Oct、Nov、Dec
週	1st、2nd、3rd、4th、5th、Last
曜日	Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat
時間	00:00 ~ 24:00 (01:00 /step)

START TIME 項目の初期値：Mar / 2nd / Sun / 02:00

END TIME 項目の初期値：Nov / 1st / Sun / 02:00

OFFSET TIME 項目：

夏時間期間中に時計を進める設定します。

選択肢：30min、60min (初期値)

メモ

この画面では、協定世界時 (UTC) ではなく、現地時間で設定します。

MODE 項目が ENABLE の場合、最後の行の APPLY でMULTI JOGダイヤルを押すと、変更した設定を確認しメニュー画面に戻ります。

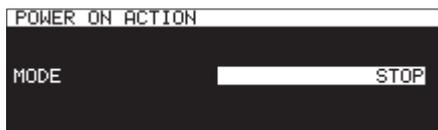
メモ

MENU [JOG] ボタンを押すとメニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。

パワーオンアクション機能の設定

市販のタイマーなどを使って外部から本機に電源を投入することにより、希望のタイミングで本機の再生や録音ができます。

1. 本機の電源がタイマーの電源出力から供給されるように本機をタイマーに接続します。
2. 再生または録音するカレントメディアをセットし、必要な設定を行います。
3. UTILITY ページの POWER ON ACTION 項目を選択し、POWER ON ACTION 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



4. MODE 項目を選択し、パワーオンアクション機能の動作（外部のタイマーで設定した時刻になったときの動作）を設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	本機の電源がオフ (スタンバイ) の状態になります。
STOP	本機の電源がオンになり、停止します。
PLAY	本機の電源がオンになり、自動的に再生を開始します。
REC	本機の電源がオンになり、自動的に録音を開始します。

5. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。
6. 外部のタイマーを希望の時刻に設定します。
設定した時刻になると、パワーオンアクション機能で設定した動作を開始します。

アナログ出力レベルを調節する

本機の出力先の機器にて最大出力レベル時に音が歪む場合は、本機のアナログ出力レベル機能で出力レベルを絞ることで音が歪まないように調節することができます。

1. UTILITY ページの OUTPUT LEVEL 項目を選択し、OUTPUT LEVEL 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

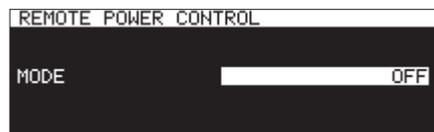


2. アナログ出力のレベルを設定します。
選択肢：-14dB ~ 2dB (初期値：0dB、1dB刻み)
3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

リモートパワーコントロール機能の設定

本機の電源がオフ (スタンバイ) の状態から、外部コントローラーで電源オンにできるように設定することができます。

1. UTILITY ページの REMOTE POWER CONTROL 項目を選択し、REMOTE POWER CONTROL 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. MODE 項目を選択しリモートパワーコントロール機能の動作を設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	外部コントローラーから電源オンすることができません。
ON	外部コントローラーから電源オン/オフすることができます。

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

リファレンスレベルを設定する

アナログ入出力のヘッドルーム（最大レベルとリファレンスレベルとのレベル差）を設定します。

1. PREFERENCES ページの REFERENCE LEVEL 項目を選択し、REFERENCE LEVEL 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. リファレンスレベルを設定します。

選択肢	内容
-9dB	基準レベル：+6dBu、最大レベル：+15dBu
-14dB	基準レベル：+4dBu、最大レベル：+18dBu
-16dB (初期値)	基準レベル：+4dBu、最大レベル：+20dBu
-18dB	基準レベル：+4dBu、最大レベル：+22dBu
-20dB	基準レベル：+4dBu、最大レベル：+24dBu

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

222

USBキーボードを使った操作

Windowsパソコン用USBキーボードやテンキーを、本機フロントパネルのUSB端子に接続することにより、キーボードを使って本機を操作することができます。

各種コントロールが可能ですが、特に名前を入力を効率的に行うことができます。

キーボードタイプの設定

接続するキーボードに合わせて、キーボードタイプを選択します。

1. PREFERENCES ページの KEYBOARD 項目を選択し、KEYBOARD TYPE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. US (英語対応キーボード) または JPN (日本語対応キーボード) に設定します。

選択肢：JPN (初期値)、US

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

キーボードを使って名前や数値を入力する

パソコンの文字入力と同じ感覚で、以下の項目で文字を編集／入力することができます。

- フォルダー名 (→ 47ページ「新しいフォルダーを作成する」)
- ファイル名 (→ 45ページ「フォルダー名／ファイル名を編集する」)
- パスワード (→ 90ページ「ネットワーク機能の設定」)
- NTPサーバー名 (→ 94ページ「SNTP機能の設定」)
- マークポイント名 (→ 88ページ「マークポイントの名前を編集する」)

また、以下の項目で数値を入力することができます。

- 指定した位置にロケートする (→ 89ページ「指定した位置にロケートする」)
- ユーザー登録ファイル名1-3 (→ 63ページ「ファイル名の形式を設定する」)
- FTP Server名 (→ 91ページ「FTPクライアント機能の設定」)
- FTP User ID (→ 91ページ「FTPクライアント機能の設定」)
- FTP Target Folder名 (→ 91ページ「FTPクライアント機能の設定」)
- タイマーイベント再生対象パス名 (→ 83ページ「再生対象ファイルを選択する」)
- タイマーイベントダウンロードターゲットパス名 (→ 84ページ「FTPサーバーのダウンロード対象となるフォルダー／ファイルを設定する」)

入力する文字種を選択するには：

パソコンでの操作と同じように、ShiftキーとCaps Lockキーを使って入力する文字の種類を選択できます。

入力するには：

数字キー、文字キー、記号キーで直接入力します。

カーソルを移動するには：

← / → キーを使います。

HOME / ↑ キーでカーソルを先頭に移動します。

END / ↓ キーでカーソルを末尾に移動します。

文字を削除するには：

Deleteキー : カーソル位置の文字を削除します。

Back Spaceキー : カーソル手前の文字を削除します。

文字を挿入するには：

希望の位置で文字を入力します。(初期値：挿入モード)

文字入力のモードが初期値の挿入モードになっていない場合は、Insertキーを押して挿入モードに切り換えてから入力します。

文字を修正するには：

Insertキーを押して上書きモードに切り換えてから、カーソルを合わせて入力します。

注意

- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

/:*?"<>|

- カナ入力はできません。

また、以下の画面でも数値を入力することができます。

EDIT MARK TIME 画面 (→ 88ページ「マークポイントの位置を編集する」)

IP SETUP 画面 (→ 90ページ「ネットワーク機能の設定」)

DNS SETUP 画面 (→ 90ページ「ネットワーク機能の設定」)

- これらの画面では、←キーまたは / キーでカーソルを左に、→キーまたはENTERキーでカーソルを右に移動します。
- IP SETUP 画面と DNS SETUP 画面では、. (ドット) キーでカーソルを右に移動します。
- ↑ キーまたは+キーで数値を加算します。
- ↓ キーまたは-キーで数値を減算します。

キーボード操作一覧

名前の入力だけでなく、トランスポートコントロール、編集など、各種動作をキーボードからコントロールすることができます。

本機のフロントパネルにあるボタンを下記のように、キーボードに割り当てられます。また、この文字入力モードとの切り換えは、本機での動作に合わせ、自動的に切り換わります。

トランスポートの操作

キーボードのキー	動作
← キー	◀ [A-B] ボタンと同じ
→ キー	▶▶ [INPUT] ボタンと同じ
スペースバー	PLAYボタン、またはPAUSE [CALL] ボタンと同じ
Ctrl + S キー	STOPボタンと同じ
Ctrl + R キー	RECORD [TRK INC] ボタンと同じ
Ctrl + F キー	トラックスキップ (FWD)
Ctrl + B キー	トラックスキップ (REW)
↑ キー	ホーム画面で、MULTI JOGダイヤルを右に回すのと同じ (後のマークに移動)
↓ キー	ホーム画面で、MULTI JOGダイヤルを左に回すのと同じ (前のマークに移動)

メニュー画面、BROWSE 画面などの操作

キーボードのキー	動作
Esc キー	編集／タイトル編集をキャンセルしてホーム画面に戻る
F1 キー	INFORMATION 画面を表示
F2 キー	メニュー画面を表示
F3 キー	エディットメニューを表示
F4 キー	BROWSE 画面を表示

第14章 各種設定／情報表示／キーボード操作

キーボードのキー	動作
F5 キー	リピート再生機能のオン／オフ設定
F6 キー	A-Bリピート再生機能のオン／オフ設定
F7 キー	ピッチコントロール機能のオン／オフ設定
F8 キー	キーコントロール機能のオン／オフ設定
F9 キー	オートキュー機能のオン／オフ設定
F10 キー	オートレディ機能のオン／オフ設定
F11 キー	インクリメンタルプレー機能のオン／オフ設定
F12 キー	フラッシュロードを開始する
Shift + F5 キー	WAVファイルのビット長の設定
Shift + F6 キー	録音フォーマット画面を表示
Shift + F7 キー	MP3ファイルのビットレートの設定
Shift + F8 キー	オートトラック機能のオン／オフ設定
Shift + F9 キー	シンク録音機能のオン／オフ設定
Shift + F10 キー	サンプリングレートコンバーターのオン／オフ設定
Shift + F11 キー	ダイナミクスの設定
Ctrl + F1 キー	フラッシュロード完了後、トラック1をフラッシュスタート再生
Ctrl + F2 キー	フラッシュロード完了後、トラック2をフラッシュスタート再生
Ctrl + F3 キー	フラッシュロード完了後、トラック3をフラッシュスタート再生
Ctrl + F4 キー	フラッシュロード完了後、トラック4をフラッシュスタート再生
Ctrl + F5 キー	フラッシュロード完了後、トラック5をフラッシュスタート再生
Ctrl + F6 キー	フラッシュロード完了後、トラック6をフラッシュスタート再生
Ctrl + F7 キー	フラッシュロード完了後、トラック7をフラッシュスタート再生
Ctrl + F8 キー	フラッシュロード完了後、トラック8をフラッシュスタート再生
Ctrl + F9 キー	フラッシュロード完了後、トラック9をフラッシュスタート再生
Ctrl + F10 キー	フラッシュロード完了後、トラック10をフラッシュスタート再生
Ctrl + F11 キー	フラッシュロード完了後、トラック11をフラッシュスタート再生
Ctrl + F12 キー	フラッシュロード完了後、トラック12をフラッシュスタート再生
Ctrl + C キー	コール機能のオン／オフ設定
Ctrl + E キー	EJECT ボタンと同じ (SS-CDR250Nのみ)
Ctrl + I キー	入力ソースの選択
Ctrl + J キー	ジョグ再生モード
Ctrl + K キー	タイムスキップ設定画面を表示
Ctrl + L キー	ロック機能設定画面を表示
Ctrl + M キー	MEDIA SELECT 画面を表示
Caps Lock キー	「英大文字」を選択／解除
Back Space キー	カーソル手前の文字を削除
Enter キー	MULTI JOG ダイヤルを押すと同じ
Insert キー	カーソル位置に文字を挿入

キーボードのキー	動作
Home キー	HOME [INFO] ボタンと同じ
Delete キー	カーソル位置の文字を削除
↑ キー	「 MULTI JOG ダイヤルを回す」と同じ
↓ キー	
← キー	「 ◀ [A-B] ボタンを押すと」同じ
→ キー	「 ▶ [INPUT] ボタンを押す」と同じ
Shift + ↑ キー	ディスプレイのコントラスト調節。
Shift + ↓ キー	
Ctrl + ↑ キー	ピッチコントロール機能のピッチ調節（±1%刻み）
Ctrl + ↓ キー	
Ctrl + ← キー	キーコントロール機能のキー調節。
Ctrl + → キー	
数字 キー	数字の入力
* (アスタリスク) キー	ロケート時間入力状態にする

テンキー（トランスポート操作のみ）

キーボードのキー	動作
. (ドット) キー	「 STOP ボタン」と同じ
0 キー	「 PLAY ボタンと PAUSE ボタン」と同じ
1 キー	早戻しサーチする
2 キー	早送りサーチする
3 キー	「 RECORD ボタン」と同じ
7 キー	前のトラックにスキップする
8 キー	次のトラックにスキップする
9 キー	「 PAUSE ボタン」と同じ
/ キー	ジョグ再生モード
- キー	「 MULTI JOG ダイヤルを左に回す」と同じ (前のマークに移動)
+ キー	「 MULTI JOG ダイヤルを右に回す」と同じ (後のマークに移動)
Enter キー	「 MULTI JOG ダイヤルを押す」と同じ (マークを登録／削除)

メモ

キーボードを使って編集を行う場合は、**BROWSE** 画面表示中に、行いたい編集キーを押してください。

例：DELETEを行う場合：

F4 キーを押して、**BROWSE** 画面を表示します。

削除したいファイルまたは、フォルダーを↑ / ↓ / ← / → キーで反転表示にします。

ENTERキーを押して **BROWSE** 画面のフォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。

↑ / ↓ キーで **DELETE** 項目を反転表示にします。

Enterキーを押すとディスプレイに確認メッセージが表示されますのでEnterキーを押します。

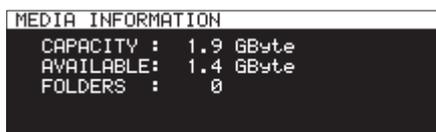
再確認メッセージが表示されますので、再度Enterキーを押し続けてください。

メディアの情報を見る

カレントメディアのメディア情報を見ることができます。

1. MEDIA ページの MEDIA INFORMATION 項目を選択し、MEDIA INFORMATION 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

カレントメディアのメディア情報が表示され、全体容量、空き容量などの使用状況を確認することができます。



2. MULTI JOGダイヤルを押して、メニュー画面に戻ります。

メディアをリビルドする

カレントメディアのファイル、フォルダーの管理情報を更新します。

1. MEDIA ページの MEDIA REBUILD 項目を選択します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

2. MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



3. 再度MULTI JOGダイヤルを押し続けると、リビルドを実行します。
「Rebuilding All...」がポップアップ表示され、終了したらメニュー画面に戻ります。

出荷時の設定に戻す

本機のバックアップメモリーに保存されている各設定情報を工場出荷時の状態に戻すことができます。

以下のメニュー操作を行います。

1. SYSTEM 1 ページの FACTORY PRESET 項目を選択します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

2. MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



メモ

中止するには、MENU [JOG] ボタンを押します。

3. 再度MULTI JOGダイヤルを押して、工場出荷時の状態に戻します。
「READING MEDIA...」がポップアップ表示され、終了したらメニュー画面に戻ります。

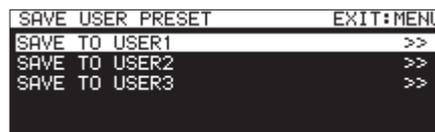
ユーザーの設定をセーブする／ロードする

本機は、3つのユーザー設定データを本体の内蔵メモリーに持つことができます。

ユーザーの設定をセーブする

ユーザー設定データを、本体の内蔵メモリーに保存します。

1. SYSTEM 1 ページの SAVE USER PRESET 項目を選択し、SAVE USER PRESET 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. 本機の現在の設定の保存先を SAVE TO USER1 ~ SAVE TO USER3 の項目から選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



3. 確認メッセージ表示中にMULTI JOGダイヤルを押し続けると、内蔵メモリーへのユーザー設定の保存が開始されます。
保存が終了すると、SAVE USER PRESET 画面に戻ります。

ユーザーの設定をロードする

本体の内蔵メモリーに保存されたユーザー設定データを、読み出します。

1. SYSTEM 1 ページの LOAD USER PRESET 項目を選択し、LOAD USER PRESET 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. 読み出しを行うユーザー設定を LOAD USER1 ~ LOAD USER3 の項目から選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
確認メッセージがポップアップ表示されます。



3. 確認メッセージ表示中にMULTI JOGダイヤルを押し続けると、内蔵メモリーへのユーザー設定の読み出しが開始されます。
読み出しが終了すると、LOAD USER PRESET 画面に戻ります。

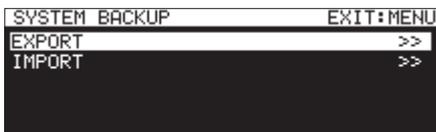
システムバックアップデータをエクスポートする／インポートする (USBメモリー／SDカードのみ)

本機の内蔵メモリー内にあるシステムバックアップデータを、挿入したSDカード／USBメモリーにエクスポートする、またはインポートすることができます。

メモ

カレントメディアが「CD」の場合はエクスポート、インポートはできません。

1. SYSTEM 1 ページの SYSTEM BACKUP 項目を選択し、SYSTEM BACKUP 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



2. システムバックアップデータをSDカード／USBメモリーにエクスポートする／インポートするかを選択します。

EXPORT 項目：システムバックアップデータをSDカード／USBメモリーに書き出す。

IMPORT 項目：システムバックアップデータをSDカード／USBメモリーから読み出し内蔵メモリーを書き換える。

3. MULTI JOGダイヤルを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



[EXPORT 設定時のポップアップ表示]



[IMPORT 設定時のポップアップ表示]

4. 確認メッセージ表示中にMULTI JOGダイヤルを押し続けると、SDカード／USBメモリーへのエクスポート、またはSDカード／USBメモリーからのインポートが開始されます。エクスポート／インポートが終了すると、SYSTEM BACKUP 画面に戻ります。

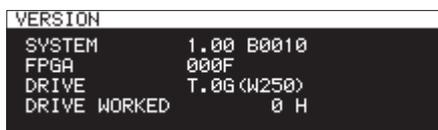
- システムバックアップデータの保存・読み出し対象の設定項目は、以下の設定となります。

画面名	ページ名	設定項目	
ホーム画面		タイムカウンター表示モード	
		ソロ選択チャンネル	
LOCK SETUP 画面		全設定	
メニュー画面	PLAY 1 ページ	全設定	
	PLAY 2 ページ	全設定	
	PLAY 3 ページ	全設定	
	REC 1 ページ	全設定	
	REC 2 ページ	全設定	
	REC 3 ページ	全設定	
	REC 4 ページ	全設定	
	REC 5 ページ	全設定	
	TIMER EVENT ページ	TIMER EVENT 項目	
	NETWORK 1 ページ	全設定	
	FTP CLIENT ページ		TARGET FTP SERVER 画面の SERVER ADDRESS 項目と USER ID 項目
			FTPS MODE 項目
			TARGET FOLDER NAME 項目
			AUTO UPLOAD 項目
	SNTP ページ	全設定	
UTILITY ページ	全設定		
PREFERENCES ページ	全設定		
REMOTE ページ	全設定		

ファームウェアバージョンを確認

本機のシステムファームウェアバージョンを確認することができます。

1. SYSTEM_2 ページの VERSION 項目を選択し、VERSION 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



VERSION 画面には、システムのファームウェアバージョン情報とビルド番号とFPGAのファームウェアバージョン情報、CDドライブのファームウェアバージョンと稼働時間の情報が表示されます。

2. MENU [JOG] ボタンを押して、メニュー画面に戻します。

ファームウェアアップデート手順 (USBメモリー／SDカードのみ)

メモ

カレントメディアが「CD」の場合は、アップデートできません。

1. TASCAMのウェブサイトより (<https://tascam.jp/jp/>) 最新のファームウェアをダウンロードします。ダウンロードを行ったファイルがZIP形式などの圧縮ファイルの場合は、解凍してください。
2. ダウンロードしたファームウェアをメディアの一番上の階層にコピーしてください。
3. 手順2.で作成したメディアをフロントパネルのSDカードスロット、またはUSB端子に挿入します。
4. MEDIA SELECT 画面で装着したメディアをカレントメディアとして選択します。
5. SYSTEM 2 ページの UPDATE 項目を選択し、FIRMWARE UPDATE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



SYSTEM 項目

本体のファームウェアをアップデートします。

FPGA 項目

本体のFPGAをアップデートします。

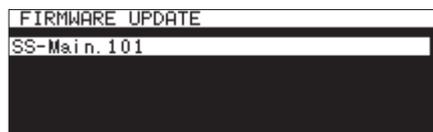
RC-SS150 項目

専用リモコン TASCAM RC-SS150のファームウェアをアップデートします。

DRIVE 項目 (SS-CDR250Nのみ)

CDドライブのファームウェアをアップデートします。

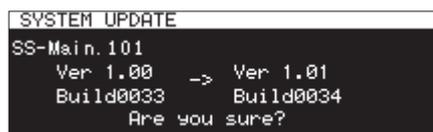
6. アップデートを行う項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。メディアを認識し、ファームウェア用アップデートファイルを認識すると以下の画面が表示されます。



メモ

- 上記の画面には、カレントメディアのルートフォルダー内にあるファームウェアアップデート用のファイルがリスト表示されます。上記の2.でコピーされたファームウェアも表示されます。アップデート用のファイルがない場合は、「No Update File」と表示されます。
- 表示行はファームウェア最大5行です。表示最大行を超えるファイルがある場合には、MULTI JOGダイヤルでリストをスクロールさせてください。
- 画面は一例で、実際の表示とは異なります。

7. アップデートするファームウェアを選択します。以下の画面が表示されます。



左側に現在のバージョン、右側にアップデートするバージョンナンバーが表示されます。

メモ

画面は一例で、実際の表示とは異なります。

8. MULTI JOGダイヤルを押して、アップデートを開始します。

注意

- アップデート中は、電源を切断しないように注意してください。
- アップデート途中で電源が切断されると、起動できなくなる恐れがあります。

9. アップデートが完了すると、以下のメッセージが表示されます。



10. メッセージ表示したあとに自動的に電源が切れますので、再度電源を入れてください。
11. 最新のファームウェアとなっていることを確認してください。以上で本機のアップデート作業は終了です。(→ 101ページ「ファームウェアバージョンを確認」)
12. メディア内にあるファームウェアアップデート用ファイルを削除してください。

第15章 リモコン端子を使う

RS-232C端子を使う

リアパネルのRS-232C端子 (D-sub 9ピン、RS-232C準拠) を使って、外部 (パソコンなど) から本機をシリアルコントロール制御することができます。また、別売のTASCAM RC-SS150を接続することでポン出しのリモートコントロールができます。

REMOTE ページの RS-232C 項目を選択し、RS-232C 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)

RS-232C	<< >>:MOVE Cursor
BAUD RATE	57600bps
PARITY BIT	NONE
STOP BIT	1
DATA LENGTH	8bit

通信速度 (ボーレート) の設定

BAUD RATE 項目を選択し、通信速度 (ボーレート) を設定します。

選択肢: 4800bps、9600bps、19200bps、38400bps、57600bps (初期値)

パリティビットの設定

PARITY BIT 項目を選択し、パリティビットの有無を設定します。

選択肢: NONE (無し、初期値)、EVEN (偶数)、ODD (奇数)

ストップビットの設定

STOP BIT 項目を選択し、ストップビットを設定します。

選択肢: 1 (初期値)、2

データ長の設定

DATA LENGTH 項目を選択し、データ長を設定します。

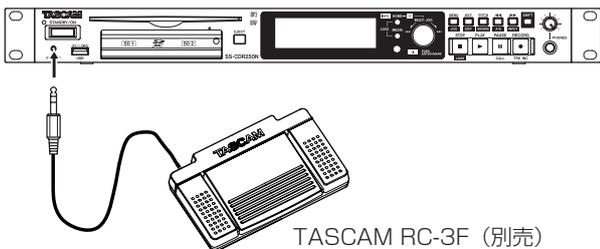
選択肢: 7bit、8bit (初期値)

メモ

- 本機のRS-232C端子の9番ピンは、TASCAM RC-SS150への12V電源供給に使用しています。他の機器への電源供給には使用しないでください。一般的なパソコンのRS-232C端子は9番ピンは未使用ですので、市販のRS-232C用ケーブルで接続可能です。
- 本機のRS-232Cコマンドプロトコルについては、弊社のタスク カスタマーサポートまでお問い合わせください。

フットスイッチを使う (TASCAM RC-3F)

フロントパネルのREMOTE端子に接続した別売の専用フットスイッチ (TASCAM RC-3F) を使って、本機を操作することができます。



TASCAM RC-3F (別売)

フットスイッチを設定する

- REMOTE ページの RC-3F MODE 項目を選択し、RC-3F MODE 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- 3つのペダルの割り当てモードを選択します。

選択肢	内容
MODE1 (初期値)	会議などの議事録起こしに最適なモードです。
MODE2	トランスポート用簡易リモコンのモードです。
MODE3	ピッチコントロール機能を使用するモードです。

- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

フットスイッチを使う

フットスイッチの各ペダルを踏むと、RC-3F MODE 項目で割り当てられた動作を行います。

フットスイッチの各ペダルの操作割り当て

MODE	フットスイッチ		
	L (押す)	C (押す)	R (押す)
1	L (長押し)	C (離す)	R (長押し)
	◀◀	PLAY	▶▶
2	◀◀	PAUSE/STOP	▶▶
	◀◀	---	▶▶
3	PITCH (-) 1%刻み	PLAY/PAUSE	PITCH (+) 1%刻み
	---	---	---

Record Tallyを設定する

録音待機中のPARALLEL端子11ピン (Record Tally) のハイ/ロー状態を設定することができます。

- REMOTE ページの RECORD TALLY 項目を選択し、RECORD TALLY 画面を表示します。(→ 21ページ「メニュー操作の手順」)



- 録音待機中のPARALLEL端子11ピン (Record Tally) の出力モードを設定します。

選択肢	内容
REC ONLY (初期値)	録音待機中は、Record Tallyを出力しない。
REC PAUSE/REC	録音待機中は、Record Tallyを出力する。(ロー状態)

- 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

以下にポップアップウィンドウに表示されるメッセージの一覧表を示します。

SS-R250N / SS-CDR250Nでは、状況に応じてポップアップウィンドウが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容	備考
Backup REC is not available. {MM is not available}	メディアが使用できないため、バックアップ録音は無効です。	MM = SD1またはSD2またはUSB
Backup REC is not available. MM formatting not optimal for Recording.	メディアが本機でフォーマットされておらず、正常な録音を保証できないため、バックアップ録音は無効です。 本機でフォーマットしてからご使用ください。	MM = SD1またはSD2またはUSB
Cannot add timer event. Timer event limit reached.	制限に達したためタイマーイベントを追加できません。	
Cannot change while playing.	再生中のため、変更できません。	
Cannot change while recording.	録音中のため、変更できません。	
Cannot Copy. "ffffffff" already exist in current folder	カレントフォルダーにファイルをコピーします。 その際、コピーファイル名と同名のファイルがカレントフォルダー内に存在しました。	ffffffff = ファイル名
Cannot Copy File. "ffffffff" already exist in Destination.	コピー先に選択したファイルが存在するためコピーできません。	ffffffff = ファイル名
Cannot Copy Folder. "ffffffff" already exist in Destination.	コピー先に選択したフォルダーが存在するためコピーできません。	ffffffff = フォルダー名
Cannot Copy for Insert. "ffffffff" already exist in current Folder.	カレントフォルダーに選択したファイルが存在するため、ファイル挿入のためのコピーができません。	ffffffff = ファイル名
Cannot Copy. Source folder and Destination folder is same.	コピー元フォルダーとコピー先フォルダーが同じため、コピーできません。	
Cannot Copy. Destination folder is sub-folder of source folder.	コピー先フォルダーがコピー元フォルダーのサブフォルダーのため、コピーできません。	
Cannot create new file/folder. Media Full.	メディアの空き容量がないので新規ファイルまたはフォルダーは、作成できません。	
Cannot create new mark point. Mark point already exists at the same timestamp.	同一時刻にマークポイントが設定されようとしています。 マークポイントを同一時刻に設定できません。	
Cannot edit this mark point. Mark point already exists at the same timestamp.	すでに同一時刻のマークポイントがあるため、マークを編集できません。	
Cannot Edit read-only file	リードオンリーファイルのため、編集できません。	
Cannot execute combine. Combine file size is over XXX.	結合後のファイルサイズが2GB以上のため、結合できません	
Cannot execute combine. Media Full.	メディアの空き容量が足りないため、結合できません。	
Cannot execute. Media Full.	メディアの空き容量が足りないため、実行できません。	
Cannot increment Track Interval is too short.	録音開始から4秒未満でRECORD [TRK INC] ボタンが押されたか、メディアへの書き込みが間に合っていないため、次のトラックの録音を開始できません。	
Cannot increment Track System limit reached. Please create new Folder.	フォルダー内のファイル、フォルダー／ディレクトリーなどの総数が多いため、次のトラックの録音を開始できません。	
Cannot make more than 1000 folders.	作成可能な最大フォルダー数に達しているため、新規フォルダーを作成できません。	
Cannot RECORD {Internal state error}	頻繁に発生する場合、発生する操作方法などの情報と共にタスクカスタマーサポートまでお問い合わせください。(https://tascam.jp/jp/)	
Cannot record. Media full.	メディアの容量が不足しているため、録音を開始できません。	
Cannot record. System limit.	フォルダー内のファイル、フォルダー／ディレクトリーなどの総数が多いため、録音を開始できません。	

第16章 メッセージ

メッセージ	内容	備考
Cannot record. Track limit.	記録可能なトラック数に達しているため、録音が始まりません。フォルダーを切り換えてください。	
Cannot RECORD Entry 100 is already assigned. Please create new Playlist or clear Entry 100.	プレイリストの数が100を超えました。新しくプレイリストを作成するか、プレイリストの100番目を消去してください。	
Cannot set Mark point limit reached.	マークポイントは、99個までしか作成できません。	
Cannot set Mark point in read-only file.	リードオンリーファイルのため、マークポイントを設定できません。	
COPY FAILED	ファイルまたはフォルダーのコピーができませんでした。	
Delete failed	ファイルまたはフォルダーの削除に失敗しました。	
DEVICE ERROR	メディアのマウントに失敗しました。	
DIN ERROR Digital input is illegal.	入力信号として選択されているデジタル入力でエラーが発生しました。	
(error) INFO WRITING	情報の書き込み中にエラーが発生しました。	
File Copy Failed.	ファイルのコピーに失敗しました。	
Folder Copy Failed.	フォルダーのコピーに失敗しました。	
Format failed.	メディアのフォーマットに失敗しました。	
Formatting not optimal.	メディアのフォーマット形式が対象外のため、録音が始まりません。	本機のフォーマット機能を使用してメディアをフォーマットしてください。(→ 28ページ「SDカード/USBメモリーを使えるようにする」)
Make Playlist failed	プレイリストの作成に失敗しました。	
No Call Point	コールポイントが存在しません。	
No Mark Point	マークポイントが存在しません。	
Not recommended type for Recording.	録音に適さないメディアのため、録音が始まりません。	
Operation failed. folder limit	作成可能な最大フォルダー数に達しているため、処理を実施できません。	
Operation failed. long name	規定文字数を超えるパス名のため、処理を実行できません。	フルパス名が255文字以上になる場合に発生します。
Operation failed. playlist limit	プレイリストの制限数に達しているため、処理を実施できません。	
Operation failed. XXXXXXXXXX	何らかの原因で処理が実施できませんでした。	頻繁に発生する場合、発生する操作方法などの情報と共にタスカムカスタマーサポートまでお問い合わせください。(https://tascam.jp/jp/)
PLAY ERROR Buffer underrun	再生中、データ読み込み処理が間に合いませんでした。	
PLAY ERROR	再生エラーが発生しました。	
RECORD Error	録音中にエラーが発生しました。	
RECORD Error Buffer overflow.	録音中に、録音バッファがいっぱいになりました。メディアへの書き込み処理が間に合いません。	メディアの書き込み性能が低下しているため、ERASE FORMAT をするか、別のメディアに交換してください。(→ 28ページ「SDカード/USBメモリーを使えるようにする」)
RECORD stopped. Media Full.	メディアの容量が不足したため、録音を停止しました。	
RECORD stopped. System limit.	フォルダー内のファイル、フォルダーなどの総数が999を超えたため、録音を停止しました。	
RECORD stopped. SUB media is not available.	リレー録音先メディア (SUB MEDIA) に録音が始まりませんでした。	
Save Failed.	ファイルの保存に失敗しました。	
SD Card Locked	SDカードがロックされています。	
SD Card Locked Cannot Record/Edit	SDカードがロックされているため、録音/編集はできません。	
This name already exists.	すでに同じ名前のフォルダー、またはファイルが存在します。	

メッセージ	内容	備考
There is no entry.	プレイリストにエントリーが無いため再生できない状態です。エントリーがあるプレイリストを選択するか、エントリーを登録してください。	
There is no track	ファイルが無いため再生できない状態です。	
Timer Event nn (Download) Failed	タイマーイベント nn 番のダウンロードイベントが失敗しました。	nn = タイマーイベント番号
Unsupported File too many tracks	サポートされていないトラック数のファイルを再生しようとしてしました。または、プレイリストに登録しようとしてしました。	
Unsupported Fs.	サポートされていないFsのファイルを再生しようとしてしました。または、プレイリストに登録しようとしてしました。	
unsupported type	サポートされていないタイプのメディア (DMA非対応) のため、使用できません。	

第17章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。
それでも改善しないときは、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご連絡ください。

電源が入らない。

- 電源プラグなどがしっかりと差し込まれているか確認してください。

リモコン（RC-10）から操作できない。

- リモコンの電池が入っていないか、消耗していませんか？

メディアを認識しない。

- USBメモリー／SDカードがしっかりと挿入されているか確認してください。
- 再生や録音を一度停止してください。

本体で操作できない。

- ロック機能がオンになっていませんか？

再生できない。

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数（44.1k/48k/96k Hz）と量子化数（16 / 24ビット）であるかどうかを確認してください。
MP3ファイルの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。

音が出ない。

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。また、アンプの音量を確認してください。

録音できない。

- 接続をもう一度確認してください。
- 録音レベルを調節してください。
- メディアの容量が不足している場合は、不要なデータを削除して空き容量を増やすかメディアを変更してください。
- フォルダー内の全エントリー数（ファイル、フォルダーなどの総数）が多い場合は、録音するフォルダーを変更してください。

設定を変えたのに記憶されていない。

- 本機では、設定を変更するたびにバックアップを行っています。電源を切るタイミングによっては、バックアップを失敗してしまう場合がありますので、設定の変更直後に電源を切らないでください。

雑音がする。

- 接続ケーブルが接触不良になっていないか、確認してください。

名前の編集時、Rename failed が表示される。

- ファイル名やフォルダー名などの文字数はシステムの制約上、255文字（半角）までです。なお、**BROWSE** 画面内のフルパスで255文字ですので、たとえばサブフォルダー内のファイルやフォルダーの場合は、上位フォルダーの文字数分と仕切り文字に使われるマークを含めて255文字までとなります。

定格

記録メディア

SDカード (512MB ~ 2GB)
 SDHCカード (4GB ~ 32GB)
 SDXCカード (64GB ~ 128GB)
 USBメモリー (512MB ~ 128GB)
 CD-R、CD-R-DA、CD-RW、CD-RW-DA
 (12cm (650MB、700MB) のみ、CD-RWはHigh Speed
 に対応、SS-CDR250Nのみ)

録音再生ファイル形式

MP3 : 44.1k/48kHz、64k/128k/192k/256k/320kbps
 WAV : 44.1k/48k/96kHz、16/24bit
 CD-DA : 44.1kHz、16bit (SS-CDR250Nのみ)

チャンネル数

2チャンネル (ステレオ)
 1チャンネル (モノラル)

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

ANALOG INPUTS (UNBALANCED) 端子

コネクター : RCAピンジャック
 規定入力レベル : -10dBV (0.316Vrms)
 最大入力レベル : +6dBV (2.0Vrms)
 入力インピーダンス : 10kΩ以上

ANALOG INPUTS (BALANCED) 端子

コネクター : XLR-3-31 (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
LINE時
 規定入力レベル :
 +4dBu (1.23Vrms、Ref.Level : -9dBFS以外)
 +6dBu (1.55Vrms、Ref.Level : -9dBFS設定時)
 最大入力レベル (切り換え) :
 +15dBu (4.36Vrms、Ref.Level : -9dBFS)
 +18dBu (6.16Vrms、Ref.Level : -14dBFS)
 +20dBu (7.75Vrms、Ref.Level : -16dBFS)
 +22dBu (9.76Vrms、Ref.Level : -18dBFS)
 +24dBu (12.28Vrms、Ref.Level : -20dBFS)
 入力インピーダンス : 10kΩ以上

MIC時 (ファンタム電源対応)

最大入力レベル : +4dBu (1.23Vrms)
 最小入力レベル : -70dBu (245μVrms) 以上
 入力インピーダンス : 2.2kΩ以上

ANALOG OUTPUTS (UNBALANCED) 端子

コネクター : RCAピンジャック
 規定出力レベル : -10dBV (0.316Vrms)
 最大出力レベル : +6dBV (2.0Vrms)
 出力インピーダンス : 200Ω

ANALOG OUTPUTS (BALANCED) 端子

コネクター : XLR-3-32 (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
 規定出力レベル : +4dBu
 (1.23Vrms、Ref.Level : -9dBFS以外)
 +6dBu
 (1.55Vrms、Ref.Level : -9dBFS設定時)
 最大出力レベル (切り換え) :
 +15dBu (4.36Vrms、Ref.Level : -9dBFS)
 +18dBu (6.16Vrms、Ref.Level : -14dBFS)
 +20dBu (7.75Vrms、Ref.Level : -16dBFS)
 +22dBu (9.76Vrms、Ref.Level : -18dBFS)
 +24dBu (12.28Vrms、Ref.Level : -20dBFS)
 出力インピーダンス : 200Ω

PHONES端子

コネクター : φ6.3mm (1/4") ステレオ標準ジャック
 最大出力 : 45mW + 45mW以上
 (THD+N 0.1%以下、32Ω負荷)

デジタルオーディオ入出力定格

DIGITAL INPUT (AES/EBU) 端子

コネクター : XLR-3-31
 入力インピーダンス : 110Ω
 フォーマット : AES3-2003/IEC60958-4 (AES/EBU)
 対応サンプリング周波数 : 44.1k/48k/96kHz
 SRC ON時、32kHz ~ 192kHzの受信可能

DIGITAL INPUT (S/PDIF) 端子

コネクター : RCAピンジャック
 フォーマット : IEC60958-3
 対応サンプリング周波数 : 44.1k/48k/96kHz
 SRC ON時、32kHz ~ 192kHzの受信可能

DIGITAL OUTPUT (AES/EBU) 端子

コネクター : XLR-3-32
 出力インピーダンス : 110Ω
 フォーマット : AES3-2003/IEC60958-4 (AES/EBU)
 対応サンプリング周波数 : 44.1k/48k/96kHz

DIGITAL OUTPUT (S/PDIF) 端子

コネクター : RCAピンジャック
 フォーマット : IEC60958-3

コントロール入出力定格

REMOTE端子

コネクタ：φ2.5mm (3/32") TRSジャック
(別売 TASCAM RC-3F、RC-20専用)

USB端子

コネクタ：USB Aタイプ 4ピン
プロトコル：USB2.0 HIGH SPEED (480Mbps)

RS-232C端子

D-sub 9ピン (メス型インチ規格)

PARALLEL端子

D-sub 25ピン (メス型インチ規格)
最大入力電圧：+5.5V
ハイレベル最小入力電圧：+2.31V
ローレベル最大入力電圧：+0.99V
出力形式：オープンコレクタ (出力インピーダンス10Ω、耐圧20V、最大35mA)
ローレベル最大出力電圧：0.5V
+5V電源 最大供給電流：100mA

ETHERNET端子

コネクタ：RJ45
対応規格：100BASE-TX

オーディオ性能

周波数特性

20Hz - 20kHz：±0.5dB (LINE IN or MIC IN to LINE OUT、Fs = 44.1k/48kHz、JEITA)
20Hz - 40kHz：+0.5dB/-3dB (LINE IN or MIC IN to LINE OUT、Fs = 96kHz、JEITA)

歪率

0.002%以下 (LINE IN to LINE OUT、Ref.Level：-16dBFS、Fs = 44.1k/48k/96kHz、JEITA)

S/N比

106dB以上 (LINE IN to LINE OUT、Fs = 44.1k/48k/96kHz、JEITA)

ダイナミックレンジ

106dB以上 (LINE IN to LINE OUT、Fs = 44.1k/48k/96kHz、JEITA)

チャンネル間クロストーク

100dB以上 (LINE IN to LINE OUT、Fs = 44.1k/48k/96kHz、JEITA)

等価入力雑音

-125dBu以下 (150Ω 20kHz LPF A-weight)

注) JEITA：JEITA CP-2150準拠

一般

電源

AC100-240V、50/60Hz

消費電力

RC-SS150、IF-DA2使用時
22W (SS-CDR250N)
20W (SS-R250N)

外形寸法

482.6 x 45 x 300.5mm (幅 x 高さ x 奥行き)

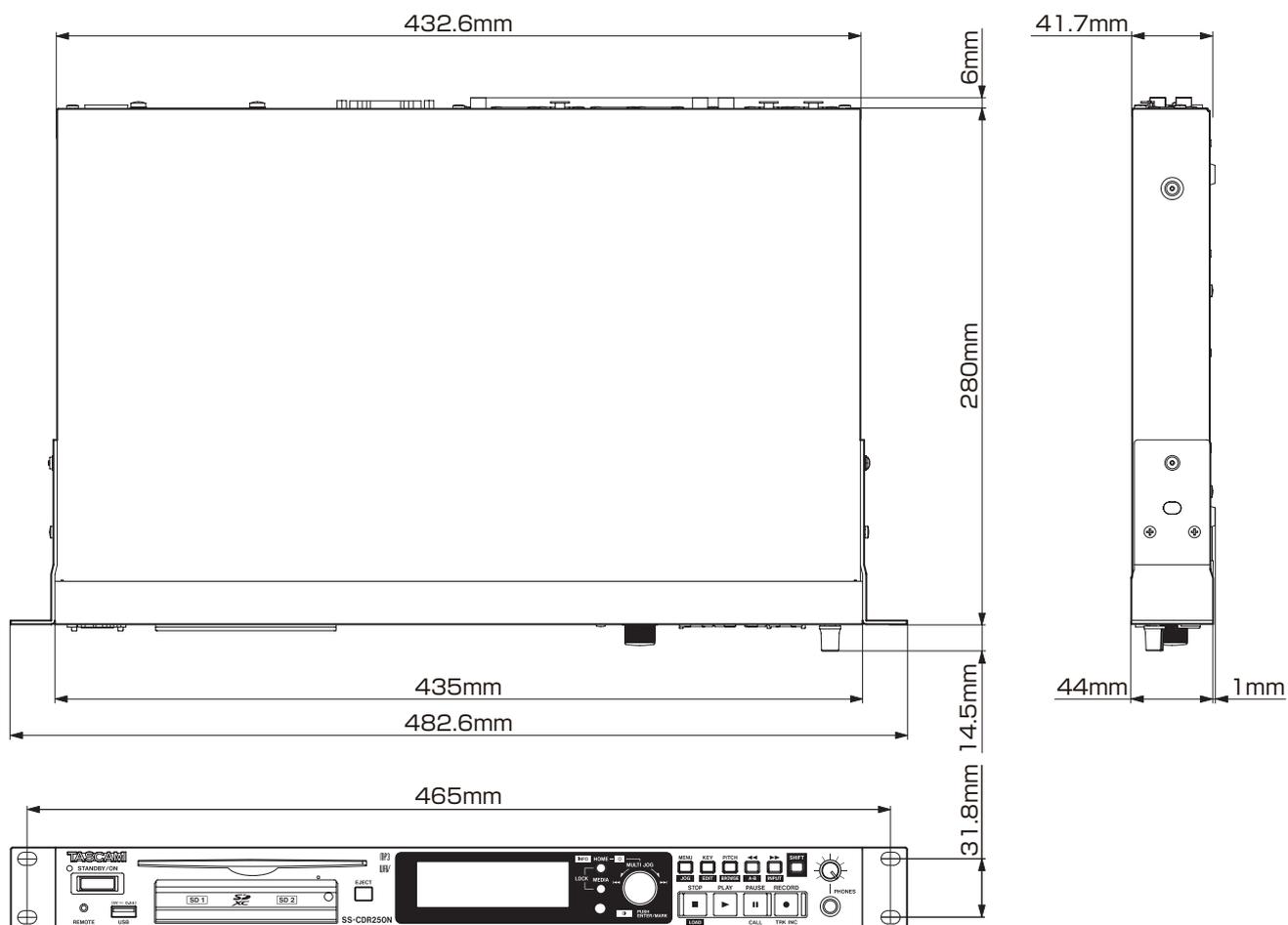
質量

3.2kg (SS-CDR250N)
2.9kg (SS-R250N)

動作温度

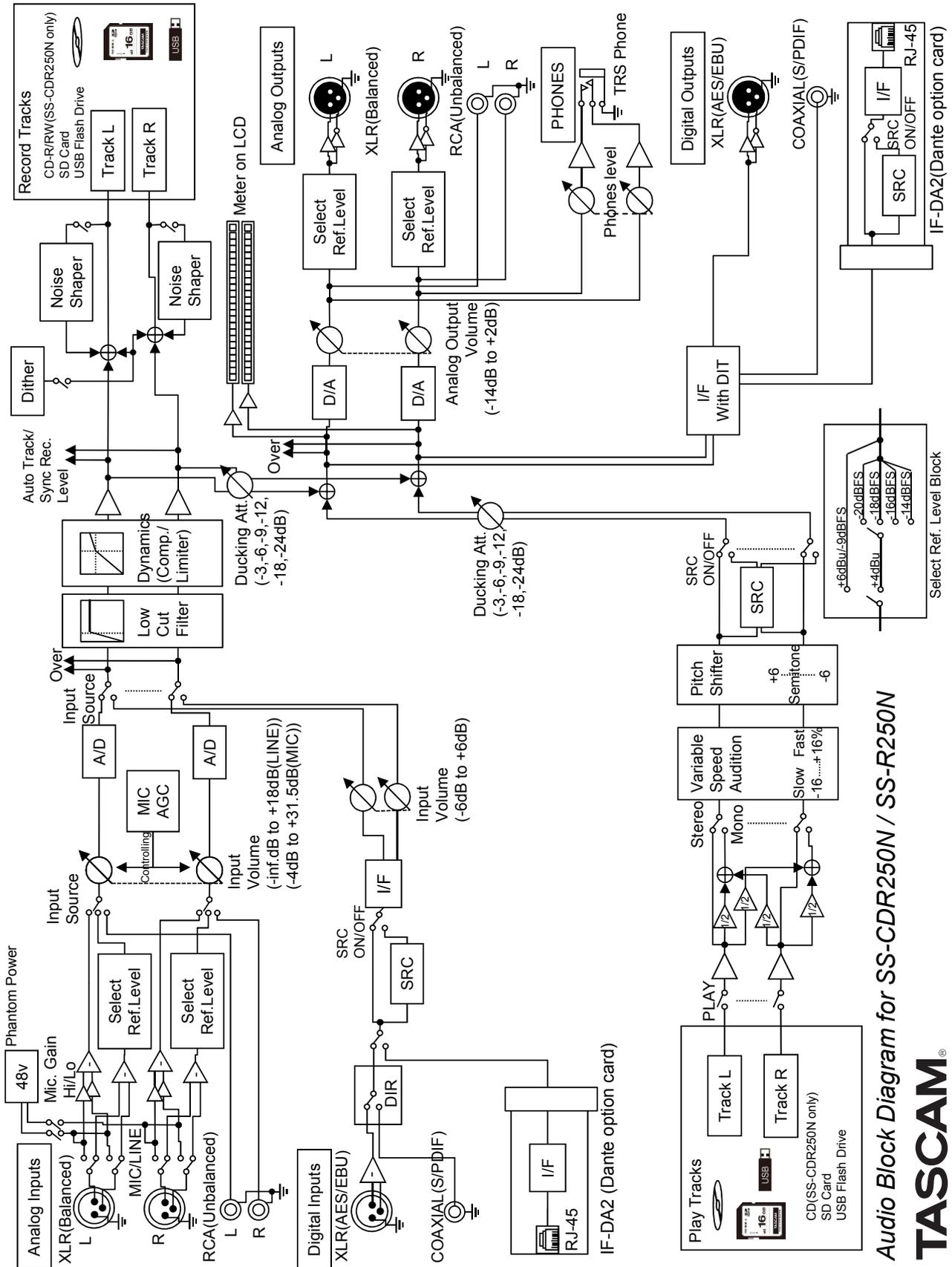
5 ~ 35°C

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム



Audio Block Diagram for SS-CDR250N / SS-R250N





無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。無償修理の対象は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4) 接続しているほかの機器に起因する故障および損傷

- (5) 業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
- (6) メンテナンス
- (7) 本書の提示がない場合
- (8) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名（印）の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- * この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

● 電話 **042-356-9137** 携帯電話・PHS・IP電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-809** 一般電話から

● FAX **042-356-9185**

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

● 電話 **04-2901-1033** 携帯電話・PHS・IP電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-501** 一般電話から

● FAX **04-2901-1036**

受付時間は、9:30～12:00 / 13:00～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in China

0523.MA-2452E

保証書

品名 および 形名	SS-R250N/CDR250N		
機番			
保証期間	本体	1年	
お買い上げ日	年 月 日		
お客様	お名前	見本	
	ご住所		

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買上げの販売店へ修理をご依頼ください。

販売店	見本	
	電話	()

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：0570-000-501 / 04-2901-1033

